

LWC指標利活用ガイドブック

Liveable Well-Being City Indicator Guidebook

2022年7月

デジタル庁
一般社団法人スマートシティ・インスティテュート

本指標は、デジタル田園都市国家構想の実現に向け、活用することを目的としています。
自治体間の優劣の比較やランキング付けなど、目的外での利用は厳に慎んで下さい。

LWC指標利活用ガイドブック 目次

1. [デジタル田園都市国家構想におけるWell-beingとは](#)

- [デジタル田園都市国家構想で目指すもの](#)
- [市民のWell-being向上に向けた指標の活用](#)

2. [市民の幸福感を高めるまちづくりの指標（LWC指標）について](#)

- [LWC指標の開発起点と狙い](#)
- [LWC指標の概念と導入目的](#)
- [LWC指標の構成](#)

3. [LWC指標 活用の手順（フロー）](#)

- [LWC指標 活用の手順（フロー）](#)
- [①市民の幸福感を高める因子間の関係性について俯瞰する](#)
 - [データファイルのダウンロード方法](#)
 - [データファイルで表示されるグラフ](#)
 - [活用できる分析用テンプレート（例）](#)
 - [レーダーチャート（因子別）の活用方法](#)
 - [折れ線グラフ（KPI別）の活用方法](#)
 - [比較対象自治体の導出方法](#)
 - [市民意識調査を活用した、環境因子の重要度・満足度の把握](#)

- [②市民の幸福感を高める因子を探し出す](#)
- [③市民の幸福感向上をストーリーとして可視化する](#)
- [④市民の幸福感の高め方を話し合う](#)
- [⑤市民の幸福感を高める施策を決定する](#)
- [⑥モニタリング・発展させる](#)
- [LWC指標を活用した対話（例）①～⑤](#)

4. [LWC指標の利活用で困ったら？ 参考となるユースケース](#)

- [加古川市](#)
- [浜松市](#)
- [会津若松市](#)
- [高松市](#)
- [企業との連携事例（東京海上日動火災保険株式会社）](#)

Appendix

- [KPIの定義書・出典元](#)
- [アンケート調査 設問一覧表](#)
- [比較対象自治体の導出方法](#)

- 
1. デジタル田園都市国家構想におけるWell-beingとは
 2. 市民の幸福感を高めるまちづくりの指標（LWC指標）について
 3. LWC指標活用の手順（フロー）
 4. LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース

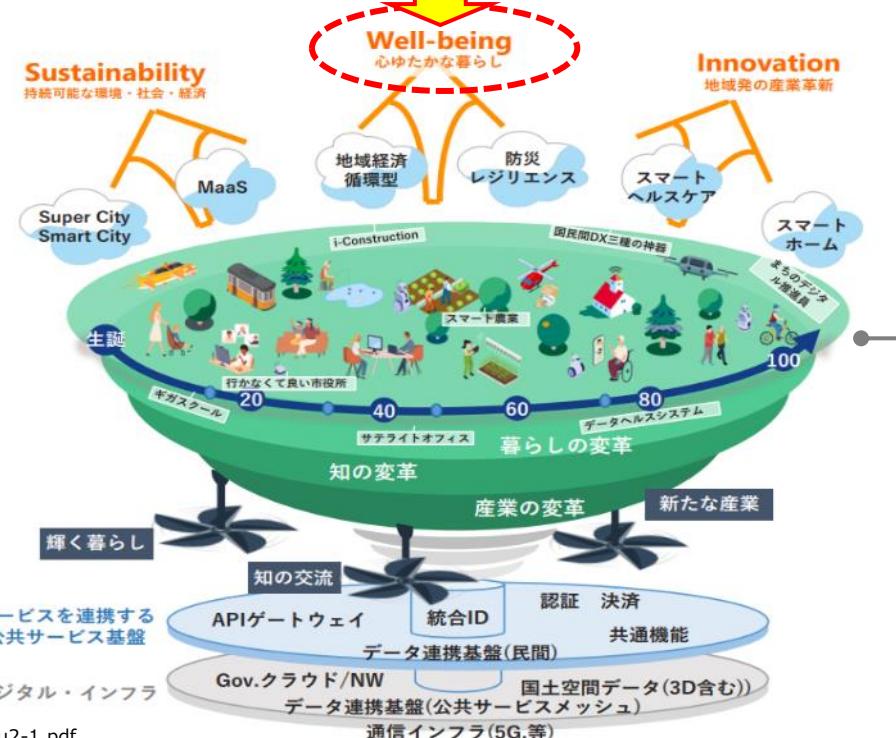
Appendix

デジタル田園都市国家構想で目指すもの

- 政府は、地域の「暮らしや社会」、「教育や研究開発」、「産業や経済」をデジタル基盤の力により変革し、「大都市の利便性」と「地域の豊かさ」を融合した「デジタル田園都市国家」を構想しています。
- 「心ゆたかな暮らし」(Well-being)と「持続可能な環境・社会・経済」(Sustainability)を実現し、地域で暮らす人々の心ゆたかな暮らし（Well-being）の向上と、持続可能性の確保を目指します。

地域のWell-being向上と持続可能性の確保

- 地域毎にWell-Being指標を定期的に測定、KPIを設けて恒常的に改善
- デジタル技術等を活用し、循環型経済社会やカーボンゼロ地域を実現



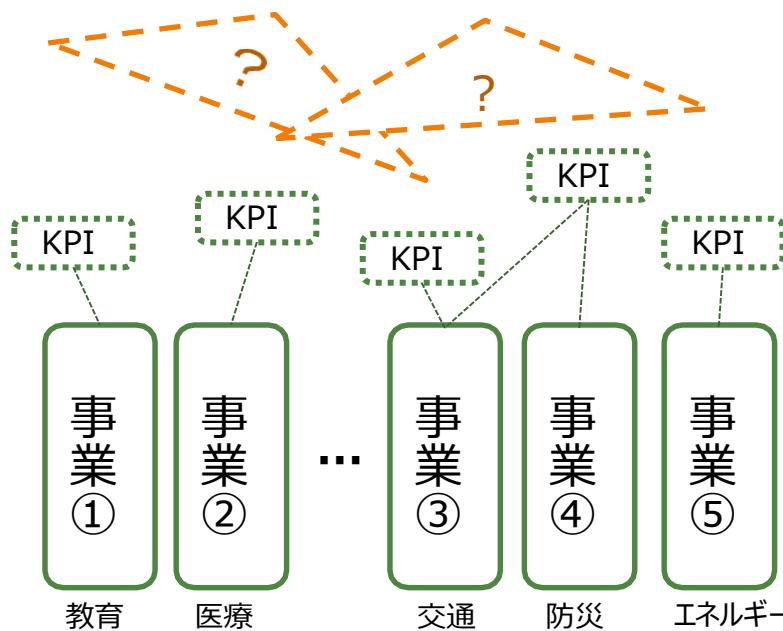
- 多様な生活ニーズや価値観に寄り添うサービスを、デジタル技術によって磨いていくには、複数のサービスが積極的に協力し支え合う、共助のモデル・デジタルインフラを構築する
- このモデル・デジタルインフラを土台として、新たな生活サービスの創出と、積極的な市民参画による街の中での繋がりの強化による、Well-beingの向上に向けたまちづくりの好循環を生み出すことが必要となる

市民のWell-being向上に向けた指標の活用

- これまでのまちづくりでは、街全体の目指す価値観の明示が不十分であり、目的や取り組みも十分に整合はされていませんでした。
- 地域のWell-beingの向上にあたり、指標を利用してことで、価値観や目的をすり合わせ、それぞれの取り組みの円滑な連携を図ることができます。

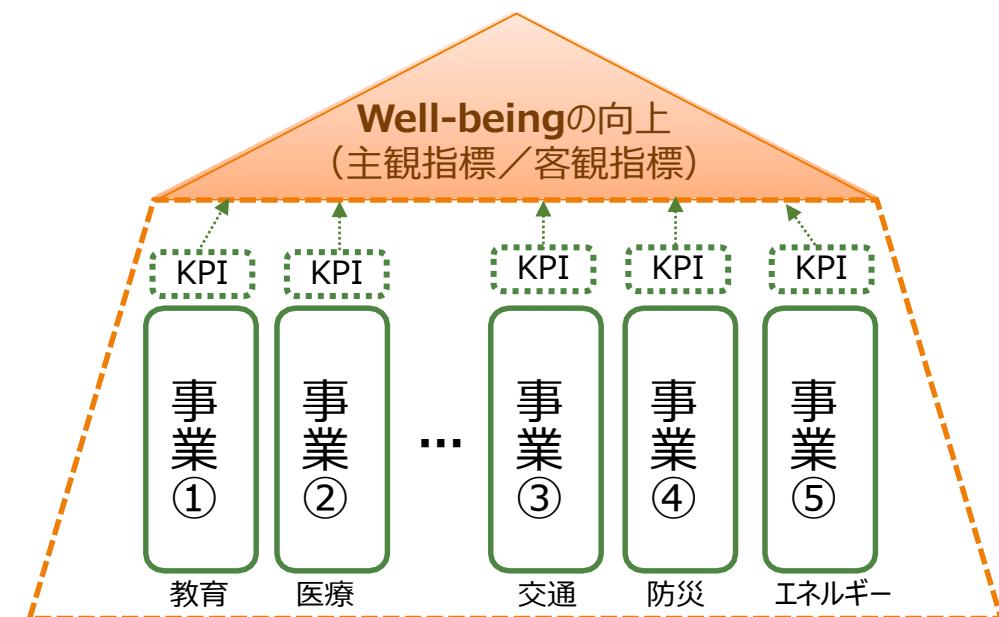
現状

- 複数事業を包括する街全体の目指す価値観の明示が不十分。それぞれの事業が目指すまちづくりの目的や取組もバラバラ。
- KPIの設定も事業毎に独自に設定されており、相互の連関性は低い。



今後

- Well-Being指標測定のための客観指標に必要なデータ及び主観指標に必要なアンケート調査などはデジタル庁で準備（独自の手法によるも対応可）。
- デジタル田園都市交付金Type2/3採択自治体中心に計測地域を徐々に拡大（任意）。

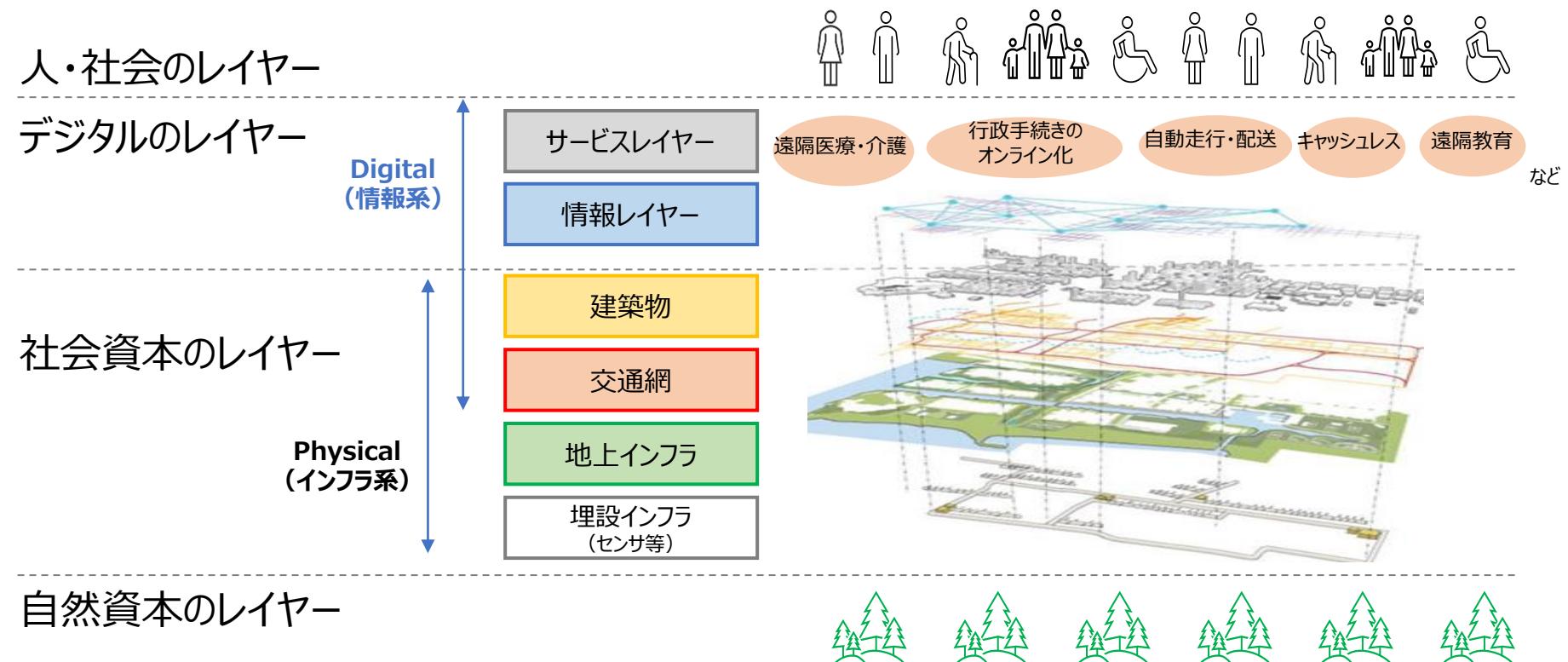


- 
1. デジタル田園都市国家構想におけるWell-beingとは
 - 2. 市民の幸福感を高めるまちづくりの指標（LWC指標）について**
 3. LWC指標活用の手順（フロー）
 4. LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース

Appendix

LWC指標の開発起点と狙い

- Liveable Well-Being City指標(以後“LWC指標”)とは、客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を指標で数値化・可視化したものです。
- 過去10年ほどのスマートシティの歴史では、個々の事業のデジタル化の手法やインフラの議論に偏りがちでした。しかし本来は、市民の幸福感つまりWell-beingの向上に向けた取り組みとなるべきです。
- 市民一人ひとりが、デジタル化・スマート化は自分にとってどういう意味があるかを理解する為にも、デジタル化・スマート化に伴う心豊かな暮らしの変化を可視化することに意義があります。



LWC指標の概念と導入目的

- 世界的に認知された以下のふたつの考え方をLWC指標の基本概念としています。

ウェルビーイング (Well-being)

=「**身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること**」

- 「健康とは、病気ではないとか、弱っていないというわけではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべて満たされた状態 (Well-being) にあること」 (WHO)

健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health)

=「**個人または集団の健康状態に違いをもたらす経済的、社会的状況のこと**」

- WHOソリッドファクツ（2003年）に列挙された健康の社会的決定要因：社会格差、ストレス、幼児期、社会的排除、労働、失業、社会的支援、薬物依存、食品、交通
- 社会的決定要因とは、人間の健康には人間内面（身体・精神・社会）のみならず、外部環境も影響を与えているとする

LWC指標の概念と導入目的

■ LWC指標の開発・導入目的は以下の6つです。

■ スマートシティ・まちづくりにおける「人間中心主義」を明確化

- デジタルやデータではなく、市民の幸福感（Well-being）の向上に向けてスマートシティ・街づくりを始める

■ 市民の視点から「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を数値化・可視化

- 行政、企業からではなく、市民の視点に立ちスマートシティが市民の暮らしやすさや幸福感に繋がっているか、を確認しながら進める

■ ランキングではなく、自治体が「個性を磨く」機会を創出

- 都市の個性を更に磨く気付きの材料となり、それぞれの都市の特徴をグラフの形や数値から捉えることができる

■ WHO等の国際的な枠組みを導入

- 世界的な基準と整合させた枠組みを導入し、日本のガラパゴス化を回避する

■ 客観と主観データの両方を活用。無料でオープン化

- 基礎自治体毎の客観的に測定できるデータと市民の主觀によるアンケートデータの両方を無料で利用できる

■ まちづくりのEBPM・ワイススペンドィングに役立てる

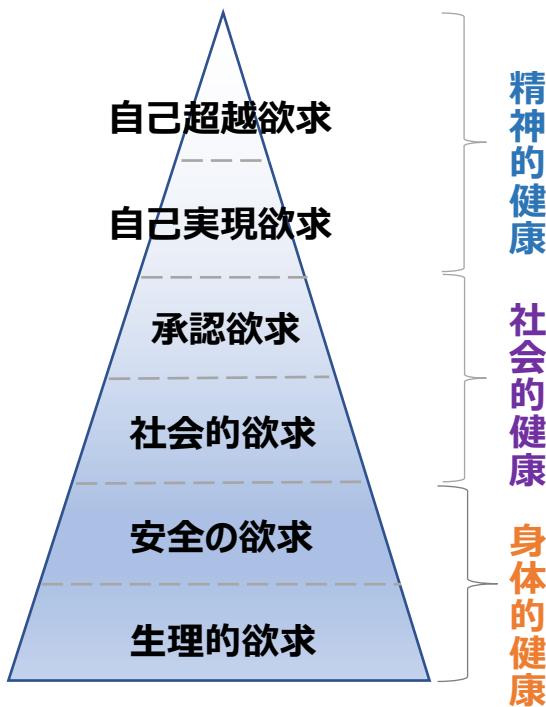
- データ(根拠)に基づいた政策立案・検証や、政策効果が乏しい歳出から政策効果の高い歳出への転換に活用できる

LWC指標で採用する指標や分析手法については、今後も改善・改良を重ね、更なる進化を目指してまいります。

LWC指標の構成

- サステナブル・スマートシティ（総合的なまちづくり）を人間中心主義で実施するためには、日本固有の文化や生活感を踏まえた地域における心豊かな暮らしを重視する指標の構築が不可欠です。
- 本指標の特徴は、マズローの欲求段階説や世界幸福度調査のアプローチと、SDGsの枠組みを参考にし、人の内面から外部環境への見方と外部環境から人の内面への見方のふたつを組合せていることです。
- また、地域固有の実態を把握できるように、基礎自治体単位で指標を開発しました。

【マズローの欲求段階説】

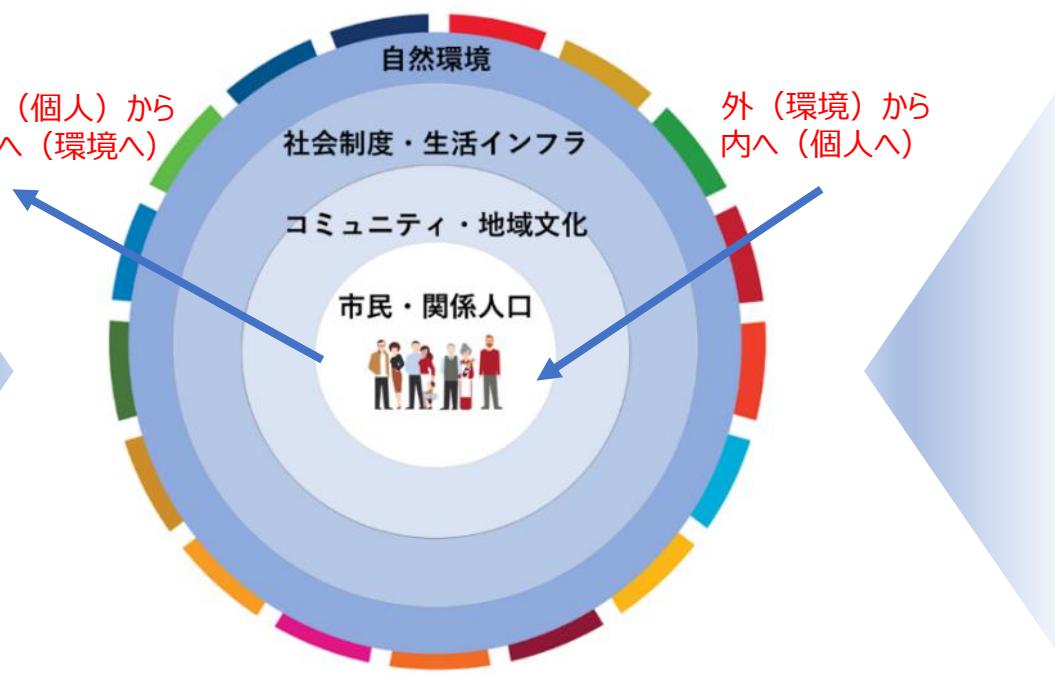


【世界幸福度調査】

世界幸福度調査に基づく指標構成図。右側に示す指標が、マズローの欲求段階説と世界幸福度調査との対応関係を示しています。

- 他者への寛容さ
- 人生の選択の自由
- 社会的支援
- 1人当たりGDP
- 腐敗の認識
- 健康寿命

【日本に合った地域における心豊かな暮らし重視の指標】

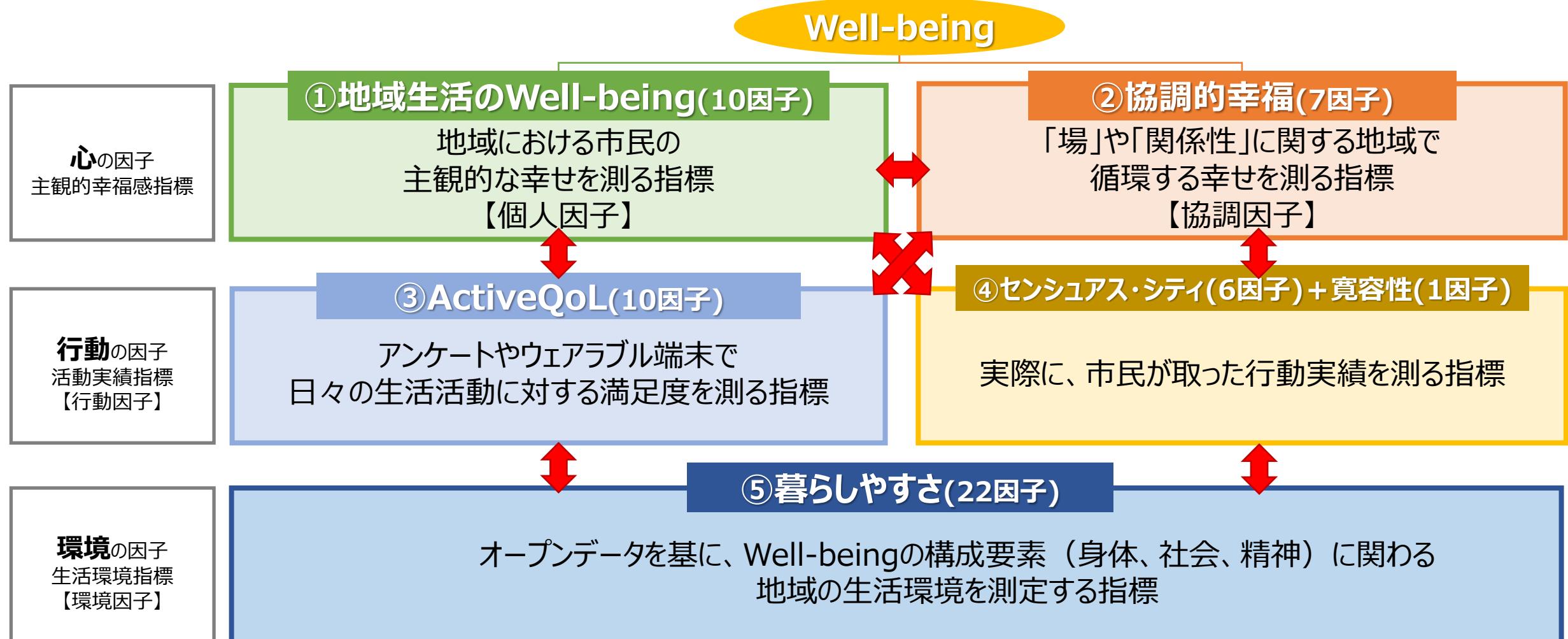


【SDGs】



LWC指標の構成

- LWC指標は主観的幸福感指標である心、活動実績指標である行動、生活環境指標である環境の大きく3つの領域に分類され、さらに全体として5つの指標（計56因子）で構成されています。



①地域生活のWell-being【個人因子】

- 「地域生活のWell-being指標」は、慶應義塾大学前野隆司教授らが開発した評価指標です。
- 「地域生活のWell-being指標」は、地域における暮らしの中で感じる主観的幸福感に影響する普遍的な因子を網羅的に抽出したものです。



	因子名称	定義
幸せ要因	ダイナミズムと誇り	地域の文化・芸術などが盛んで誇らしく感じる。また地域に賑わいや躍動感があり、出会いや挑戦・成長する機会がある状態
	生活の利便性	日々の生活基盤（商業・医療・教育・交通機関・公共施設など）が整っており、利用しやすく不便を感じていない状態
	自然の体感	地域では自然（海・山・里山・川・湖等）が身近に感じられ、四季折々に向き合うことに喜びがある。また空気や水などが清浄だと感じられている状態
	居住空間の快適さ	自身の暮らす住居について、快適で過ごしやすく満足できている状態
	つながりと感謝	近隣住民に感謝し、良好な関係が維持できている。気の合う仲間や助け合える知人がいる状態
	健康状態	自身は精神的にも身体的にも健康で、不安をあまり感じることなく、笑顔で過ごせている状態
	地域との相性	地域の街並みや風景に愛着を感じ、雰囲気が自分にとって心地よく感じられている状態
	地域行政への信頼	行政施策へ賛同し、納得している。地域政治のリーダーや行政を信頼できている状態
不幸せ要因	過干渉と不寛容	よそ者に不寛容で、変わった事をすると角が立つ。近隣住民と（自身にとって）程よい距離が保てず、干渉が煩わしく窮屈さを感じている状態
	生活ルールの秩序	地域の生活ルール（ゴミ出しマナー・交通マナーなど）が守られず、騒音などに悩まされてイライラすることが多い状態

※全国34,000件のパネルを対象にした先行調査の実施結果、およびそれを活用した分析方法については、2022年秋以降に、本ガイドブックに追加掲載する予定です。

①地域生活のWell-being【個人因子】

- 「地域生活のWell-being指標」は、地域に暮らす幸せの要因と不幸せの要因、2つの側面を計測します。地域においてWell-being（ウェルビーイング）な状態とは、幸せの要因が多くあり、不幸せの要因があまり多くない状態であると考えられます。
- 地域活性施策等の検討、施策の事前・事後評価に活用いただけます。また、地域ごとに異なる幸せの要因、不幸せの要因の傾向を把握することで、地域らしさや魅力を再確認することにもつながります。
- アンケートを実施する際は、設問中の「地域」について、エリア等の範囲を教示して回答いただく事を推奨します。例)「あなたがお住いの〇〇〇市〇〇エリアについてお答えください。」など

【幸せ要因】 8因子（24項目）

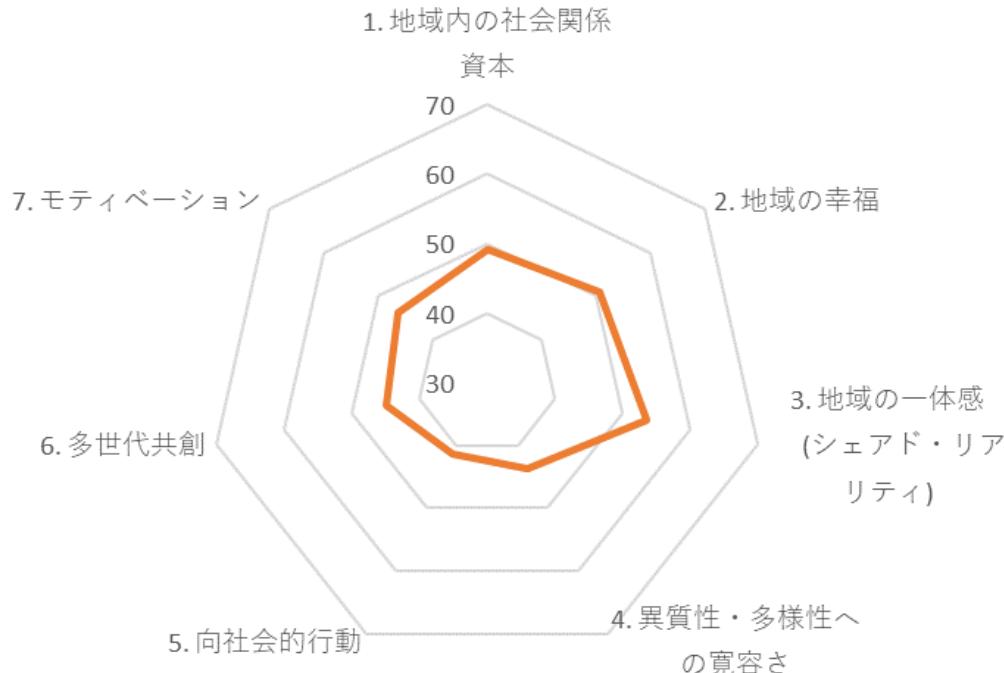
暮らしている地域には、住民にとって価値があり、喜びを生起する事象（社会資本・関係資本等）が多くあるかどうか。住民が身体的・心理的・社会的に良好な状態かどうかを計測します。

【不幸せ要因】 2因子（6項目）

暮らしている地域において、不便や不満、怒りや悲しみ、不安や不快といった、嫌な感情を住民が感じていないかどうかを計測します。

②協調的幸福【協調因子】

- 「協調的幸福」は京都大学内田由紀子教授らが開発した評価指標です。
- 地域で暮らすことで幸福が感じられ、他者と信頼関係でつながり、また、地域内で誰かの役に立つように向社会的に活動することが、「循環」するような共創的仕組みができているか、そうした地域環境について測定するツールです。
- 地域の協調的な豊かさを、多面的・多次元的に評価することで、強味や弱みを理解することができます。また、日本社会の協調的価値観に根差したツールとして開発しています。



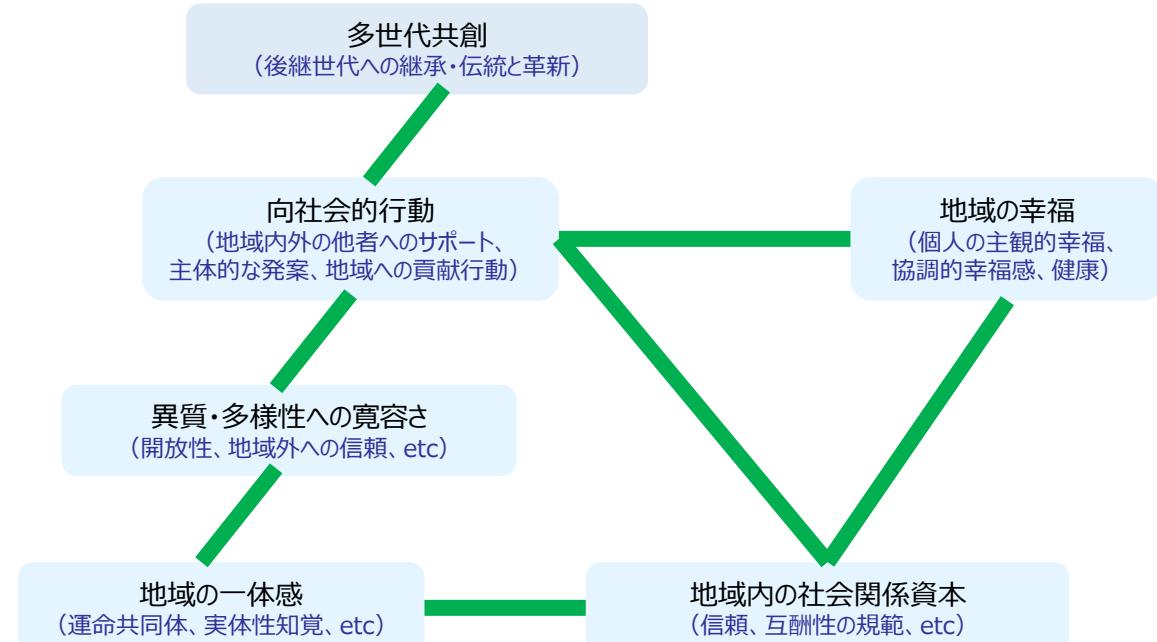
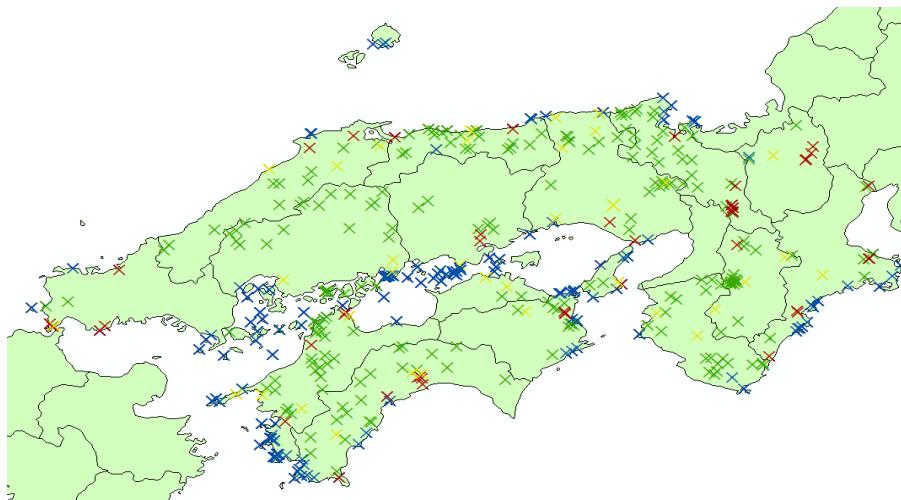
因子名称	内容
地域の幸福	個人の主観的幸福、協調的幸福感、健康
多世代共創	後継世代への継承・伝統と革新
地域内の社会関係資本	信頼、互酬性の規範、etc.
向社会的行動	地域内外の他者へのサポート、 主体的な発案、地域への貢献行動
地域の一体感	運命共同体、実体性知覚、etc.
異質・多様性への寛容さ	開放性、地域外への信頼、etc.

※全国34,000件のパネルを対象にした先行調査の実施結果、およびそれを活用した分析方法については、2022年秋以降に、本ガイドブックに追加掲載する予定です。

②協調的幸福【協調因子】

- 近畿・中国・四国地方の約500地域コミュニティからサンプリングしたデータに基づく(2013年～2021年まで継続調査実施、のべN = 11,000)。
- 1コミュニティ100世帯程度の範囲の小地域区分（「まち」「集落」）の状態について回答してもらう。
- 地域で感じられる幸福が、地域内の信頼、地域のためになる行動をしようとする「向社会性」と関連している状態を計測。さらには地域内的一体感もありながら、移住者や多様な意見を受け入れるコミュニティの風通しのよさも測定し、結果的に持続可能な地域となっているかを検証する。
- 地域の幸福に含まれる「協調的幸福感」は日本的なバランス志向や安定した日々をおくことの充実感を測定できるように作成されており、世界各国で用いられている(Hiotokoto & Uchida, 2015)

✖農村地域 ✕漁村地域 ✖都市地域 ✎その他地域



③ActiveQoL【行動因子】

- 「ActiveQoL」は、日立東大ラボが開発した日々の生活活動に基づく評価指標です。インスタント版では、直近1ヶ月に行った10種類の生活活動（行動因子）の主観的な満足度をアンケートにより計測します。
- また各活動に対して、取り組むことが好きかどうかや身体・心理的苦痛の有無、個人が望む過ごしが実現しているかを補足情報として計測します。
- 他に、日々の変化をアンケートのような負担なく連続的に捉えられる、ウェアラブルデバイス等を用いた都市評価手法(ActiveQoLスタンダード版)を開発しています。



因子名称	活動に対する嗜好
1ヶ月の活動満足度	
仕事	好き
学業・学習・習い事	好き
病院への受診・療養、家族の介護・看護	嫌い
子育て(義務教育まで)	
自宅外での食事	
買い物	
遊び・娯楽	
地域とのつながりある活動	
文化芸術にふれる活動	
運動・スポーツ	

因子名称	身体的・心理的負荷
1ヶ月の活動満足度	
仕事	あり
学業・学習・習い事	なし
病院への受診・療養、家族の介護・看護	あり
子育て(義務教育まで)	なし
自宅外での食事	なし
買い物	なし
遊び・娯楽	なし
地域とのつながりある活動	なし
文化芸術にふれる活動	なし
運動・スポーツ	なし

因子名称	理想と現実の過ごし方のギャップ
1ヶ月の活動満足度	
仕事	
学業・学習・習い事	
病院への受診・療養、家族の介護・看護	
子育て(義務教育まで)	
自宅外での食事	
買い物	
遊び・娯楽	
地域とのつながりある活動	
文化芸術にふれる活動	
運動・スポーツ	

※全国34,000件のパネルを対象にした先行調査の実施結果、およびそれを活用した分析方法については、2022年秋以降に、本ガイドブックに追加掲載する予定です。

③ActiveQoL【行動因子】

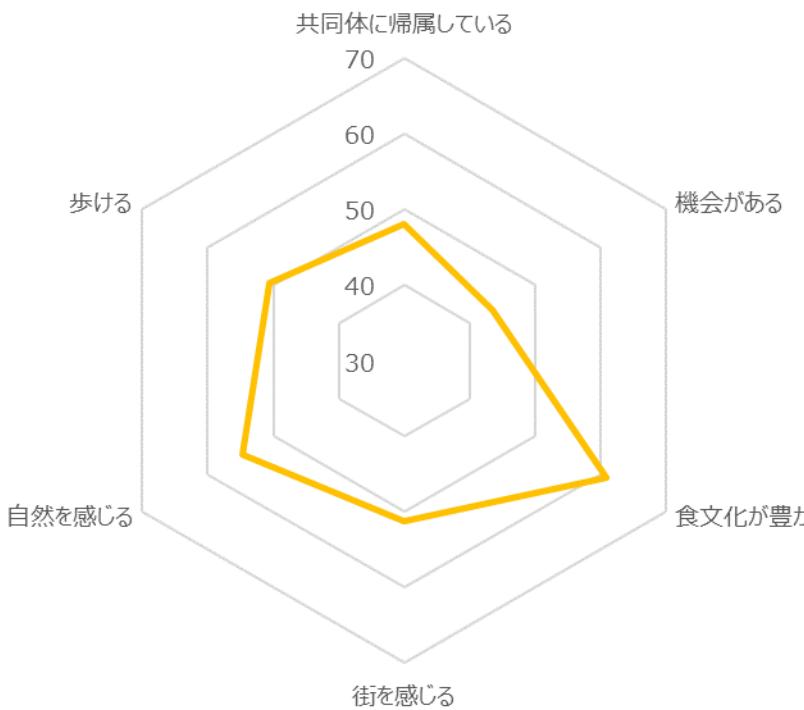
■ スマートシティ施策の効果・影響の継続的なモニタリング

【参考】 ActiveQoLスタンダード版の活用シナリオ



④センシュアス・シティ【行動因子】

- 「センシュアス・シティ」は、LIFULL HOME'S 総研 島原万丈所長が開発した評価指標です。
- 市民の「実体験」という動詞での評価から、地域の「体験価値」都市の実相を可視化します。
- 地域を他人との関係性の指標と、体験から五感で知覚する身体性指標、寛容性の有無で計測します。



センシュアス・シティ	
因子名称	内容
共同体に帰属している	このまちの一員であるという実感が持てるか
機会がある	文化的充足や経済的成功の可能性となる機会(チャンス)があるか
食文化が豊か	地産地消型食生活や観光の切り札となる食文化があるか
街を感じる	多くの人の活動や営み、賑わいを感じるか
自然を感じる	まちの中に自然から感じる心地よさがあるか
歩ける	まちは歩けるか、歩いていて楽しいか

寛容性	
因子名称	内容
寛容性がある	まちには、寛容性があるか

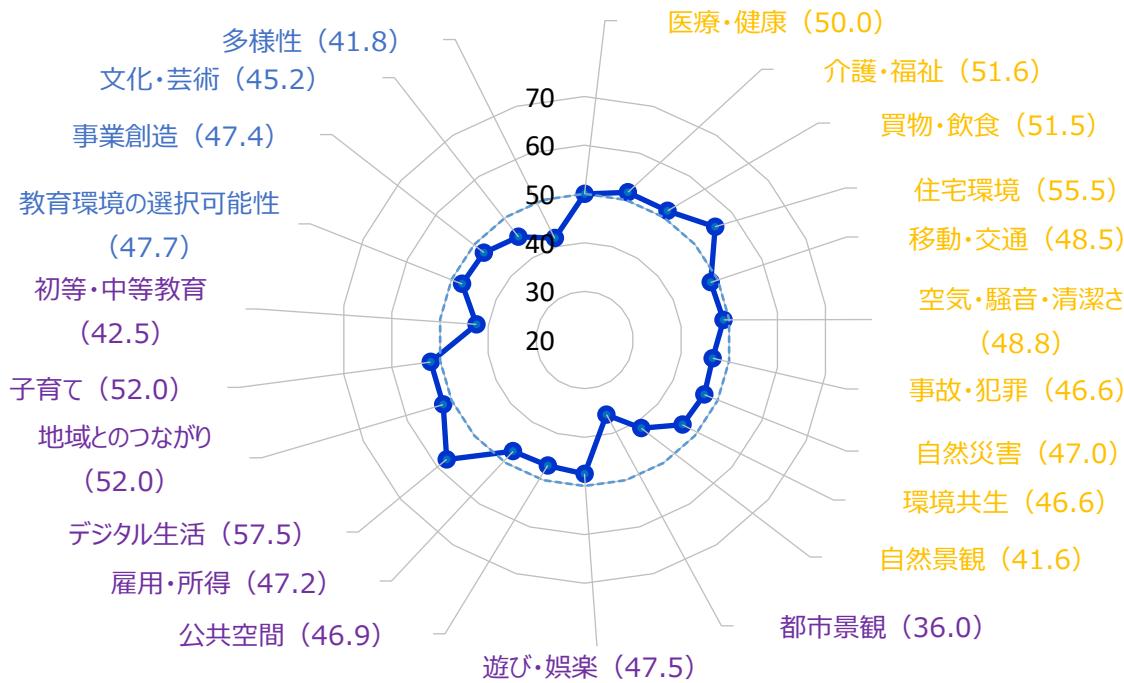
※全国34,000件のパネルを対象にした先行調査の実施結果、およびそれを活用した分析方法については、2022年秋以降に、本ガイドブックに追加掲載する予定です。

④センシュアス・シティ【行動因子】

- 「センシュアス・シティ」とは、LIFULL HOME'S総研が2015年に発表した調査研究レポートで提唱した、都市の本当の魅力を測る新しいモノサシ（指標）です。発表以来、国土交通省をはじめ多くの自治体や大学・研究機関、民間のデベロッパー・不動産業者・まちづくり団体等、都市にかかわる各方面から多くの支持をいただいています。
- 日本語では「官能的な」と訳される「センシュアス（Sensuous）」は、本来は感覚や五感という身体的な心地よさを含蓄する言葉です。
- 「センシュアス・シティ」の最大の特徴は、「動詞」による都市評価であることです。多くの都市評価で一般的な公的統計による施設や社会インフラなどいわゆるハコモノの充実度ではなく、また、漠然としたイメージや人気投票でもなく、そこに暮らす人々の日々のアクティビティ（＝活動・経験）を測定することで、これまで言語化・数値化できなかった「この街、なんかいいよね！」とあいまいに知覚される都市の魅力を、客観的かつ安定的に測定します。
- センシュアス・シティの指標は、大きく分けて、関係性領域と身体性領域で構成され、関係性では「共同体に帰属している」「匿名性がある」「ロマンスがある」「機会（チャンス）がある」、身体性では「食文化が豊か」「街を感じる」「自然を感じる」「歩ける」の合計8つの指標について、各4項目・全32項目のアクティビティの経験頻度で測定します。※なおLWC指標では、「匿名性がある」「ロマンスがある」は割愛されています。
- アンケート調査では、「あなたは自分が住んでいる街で、●●をしましたか？」という質問形式でデータを収集しますので、主語が「わたし」という点でもユニークな指標になっています。

⑤暮らしやすさ客観指標【環境因子】

- 「暮らしやすさ客観指数」は、身体・社会・精神の健康に関わる、地域の生活環境の測定指標です。
- 各KPIはオープンデータを基本とし、都市単位で偏差値化しています。一部のKPIは、オープンデータより独自指標(※)にて算出しています。※算出方法は、22ページをご参照下さい



因子名称		
身体	社会	精神
医療・健康	都市景観	教育環境の選択可能性
介護・福祉	遊び・娯楽	事業創造
買物・飲食	公共空間	文化・芸術
住宅環境	雇用・所得	多様性
移動・交通	デジタル生活	
空気・騒音・清潔さ	地域とのつながり	
事故・犯罪	子育て	
自然災害	初等・中等教育	
環境共生		
自然景観		

⑤暮らしやすさ客観指標のカタログ

指数を構成するKPIは次ページを参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得

身体

医療・健康

- 健康寿命（平均自立期間）(男性) (+)
- 健康寿命（平均自立期間）(女性) (+)
- 医療施設徒歩圏人口カバー率 (+)
- 医療施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 一人あたり国民健康保険者医療費 (-)
- 一人あたり後期高齢者医療費 (-)
- 市町村国保特定健康診断受診率 (+)

買物・飲食

- 商業施設徒歩圏人口カバー率 (+)
- 商業施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 可住地面積／飲食店数 (-)
- 人口あたり飲食店数 (+)

移動・交通

- 駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率 (+)
- 駅およびバス停徒歩圏人口密度 (-)
- 一人あたり小型車走行キロ (-)
- 通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーを用いない割合 (+)
- 職場までの平均通勤時間 (-)

自然災害

- 自然災害・防災指數 (+)

介護・福祉

- 福祉施設徒歩圏人口カバー率 (+)
- 福祉施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 人口あたり児童福祉施設数 (+)
- 人口あたり障害者施設支援設数 (+)

住宅環境

- 1住宅あたり延べ面積 (+)
- 平均価格（住宅地） (-)
- 専用住宅1m²あたり家賃 (-)
- 一戸建の持ち家の割合 (+)

空気・騒音・清潔さ

- NOx平均値 (-)
- PM2.5年平均値 (-)

事故・犯罪

- 千人あたり交通事故件数* (-)
- 空家率 (-)
- 千人あたり刑法犯認知件数* (-)

環境共生

- 非可住地面積割合 (+)
- 一人あたり年間CO₂排出量 (-)
- ごみのリサイクル率 (+)
- 環境共生指數 (+)

自然景観

- 自然景観指數 (+)

社会

都市景観

- 都市景観指數 (+)

公共空間

- 公園緑地徒歩圏人口カバー率 (+)
- 人口あたり公園の面積 (+)
- 歩道設置率 (+)
- 公共空間指數 (+)

デジタル生活

- 自治体DX指數 (+)
- デジタル政策指數 (+)
- デジタル生活指數 (+)

子育て

- 保育所まで1km未満の住宅の割合 (+)
- 可住地面積あたり幼稚園数 (+)
- 一施設あたり幼稚園児数 (-)
- 10万人あたり待機児童数 (-)
- 歳出総額における教育費の構成比 (+)
- 合計特殊出生率 (+)

初等・中等教育

- 可住地面積あたり小学校数 (+)
- 可住地面積あたり中学校数 (+)
- 可住地面積あたり高等学校数 (+)
- 一施設あたり小学生数 (-)
- 一施設あたり中学生数 (-)
- 一施設あたり高校生数 (-)

遊び・娯楽

- 10万人あたり娯楽業（映画館、劇場、スポーツ施設等）の事業所数 (+)

雇用・所得

- 完全失業率 (-)
- 若年層完全失業率 (-)
- 正規雇用者比率 (+)
- 高齢者有業率 (+)
- 高卒者進路未定者率 (-)
- 市区町村内で従業している者の割合 (+)
- 創業比率 (+)
- 納税者一人あたり課税対象所得 (+)

地域とのつながり

- 10万人あたり自殺者数 (-)
- 拡大家族世帯割合 (+)
- 既婚者割合（15歳以上人口） (+)
- 高齢単身世帯の割合 (-)
- 居住期間が20年以上の人口割合 (+)
- 自治会・町内会加入率* (+)
- 10万人あたり政治団体等の数 (+)
- 10万人あたり宗教の事業所数 (+)
- 10万人あたりNPOの数 (+)
- 10万人あたり都市再生推進法人・UDCの数 (+)
- 首長選挙の投票率 (+)
- 市区町村議会選挙の投票率 (+)

精神

教育環境の選択可能性

- 大卒・院卒者の割合 (+)
- 可住地面積あたり大学・短期大学の数 (+)
- 可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数 (+)

事業創造

- クリエイティブ産業事業所の構成比 (+)
- 新規設立法人の割合 (+)
- 従業者10万人あたりコワーキングスペースの数 (+)
- 大学発ベンチャー企業数 (+)

文化・芸術

- 芸術家・著述家等の割合 (+)
- 10万人あたり図書館の数 (+)
- 10万人あたり博物館等の数 (+)
- 10万人あたり劇場、音楽堂の数 (+)
- 国宝・重要文化財（建造物）の数 (+)
- 日本遺産の数 (+)

多様性

- 市区町村議会における女性議員の割合 (+)
- 自治体における管理職の女性割合 (+)
- 自治体職員における障害者の割合 (+)
- 10万人あたり外国人人口 (+)
- 多様性指數 (+)

⑤暮らしやすさの客観指標 「〇〇指数」の算出方法

- 「〇〇指数（自然災害・防災指数を除く）」は、構成する項目（施策・施設など）が「有り」の場合に1点、「無し」は0点とし、全項目の合計を算出。
- 自然災害・防災指数は、250mメッシュで地震・水害リスクならびに自治体による防災対応力を算出し、人口密度で加重平均をとった。
- 自治体DX指数は、構成するカテゴリー（「自治体DXの推進体制等」、「行政サービスの向上・高度化」等）ごとの点数の平均値の合計。

■ 環境共生指標

- SDGs未来都市
- 2050年ゼロカーボンシティ
- 気候変動イニシアチブへの参加
- 「地域循環共生圏実践地域」活動団体
- 脱炭素先行地域

■ 自然景観指標

- 国立・国定公園の有無
- 「美しい日本のむら景観百選一覧」
- 景観重要樹木の有無

■ 都市景観指標

- 「都市景観大賞」受賞の市区町村
- 景観条例の有無
- 景観重要建造物の有無
- 景観協定の有無

■ 公共空間指標

- ウォーカブル推進都市
- (ウォーカブル推進都市のうち)滞在快適性等向上区域を設定している自治体
- 「地方版自転車活用推進計画」の有無

■ 自治体DX指標

- 自治体DXの推進体制等
 - CIO任命の有無（及び外部デジタル人材任用の有無）

- CIO補佐官任命の有無（及び外部デジタル人材任用の有無）

- DXを推進するための全体方針策定の有無
- DXを推進するための全庁的・横断的な推進体制構築の有無
- DX推進専任部署設置の有無
- DXを推進するための外部デジタル人材任用の有無
- DX・情報化を推進するために行っている職員の育成の取組の有無

行政サービスの向上・高度化

- 申請・届出等手続のオンライン化計画・オンライン利用促進計画策定の有無
- 申請・届出等手続をオンライン化するための通則条例制定の有無
- e-文書条例制定の有無
- 申請・届出等手続をオンライン化するためのシステム導入の有無
- コンビニにおける証明書等の交付等の有無
- 市民視点の指標の策定の有無
- 指標に基づいた市民満足度測定の有無
- 各システムの電子決裁機能の有無
- 災害時の被災者情報管理業務システム整備の有無
- 統合型GIS導入の有無

業務・システムの効率化

- 「地域情報プラットフォーム標準仕様」に準拠した製品の導入状況
- 情報システムの調達実績の有無

情報セキュリティ対策の実施状況

- CISO任命の有無（及び外部デジタル人材任用の有無）

- 緊急時対応計画の策定の有無
- 情報システムに関する業務継続計画策定の有無

デジタルデバイド対策

- デジタルデバイド対策実施の有無

■ デジタル政策指標

- 国土交通省Plateauの対象都市
- 地方版IoT推進ラボの有無
- 自治体によるオープンデータの有無
- ローカル5G開発実証事業の採択の有無
- スマートシティ合同審査の結果
- デジ田交付金への採択の有無（第二版より採用予定）
- マイナンバーカード普及率
- 国勢調査ネット回答率

■ デジタル生活指標

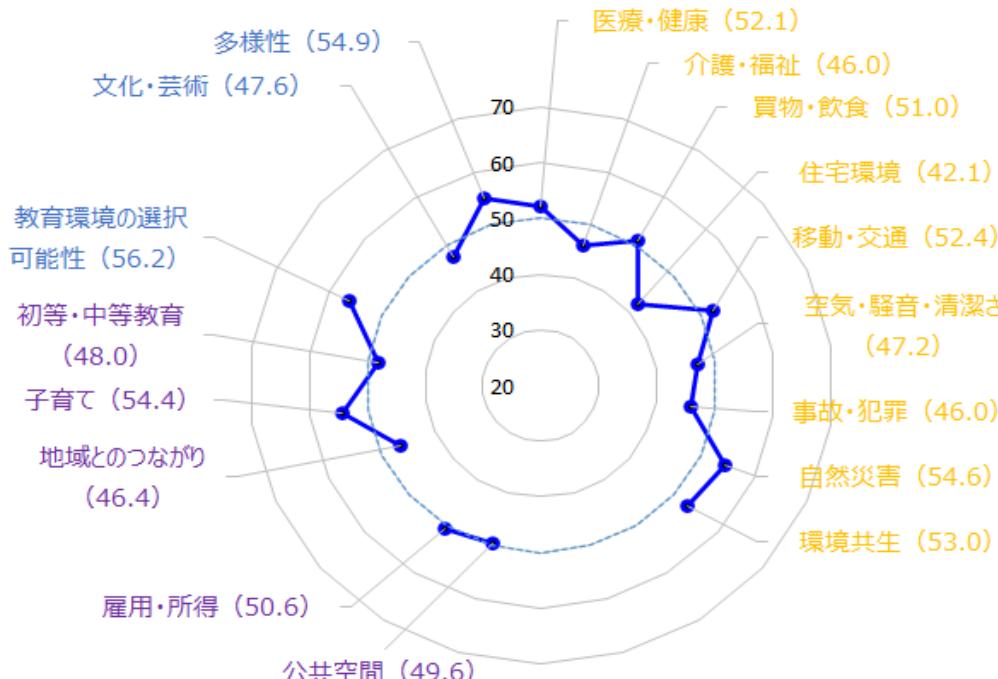
- Code forの団体の有無
- ファブラボの有無
- CoderDojoの有無
- 大学のICT関連学部の有無
- 高等専門学校の有無
- 10万人あたり通信キャリア店舗数

■ 多様性指標

- パートナーシップ宣言制度の有無
- 市民の平均年齢が45歳以下

⑤暮らしやすさ主観指標【環境因子】

- 「暮らしやすさ客観指標」は、身体・社会・精神の健康に関わる、地域の生活環境の測定指標です。
- 日経BP 総合研究所「シティブランド・ランキング 一住みよい街2021ー」のアンケート調査結果をLWC指標の因子と対応付けて算出しています。

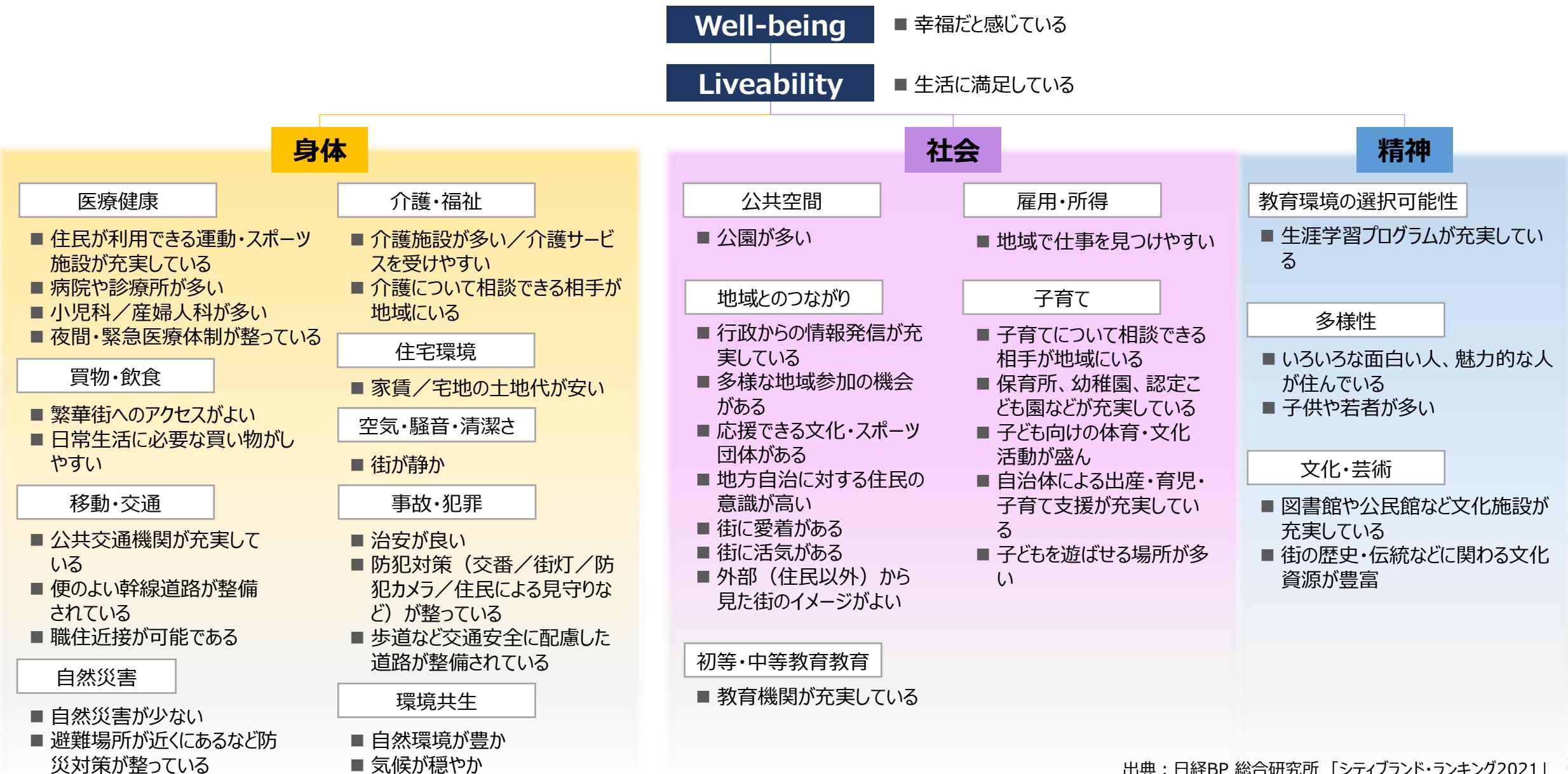


出典：日経BP 総合研究所「シティブランド・ランキング2021」

因子名称		
身体	社会	精神
医療・健康	公共空間	教育環境の選択可能性
介護・福祉	雇用・所得	文化・芸術
買物・飲食	地域とのつながり	多様性
住宅環境	子育て	
移動・交通	初等・中等教育	
空気・騒音・清潔さ		
事故・犯罪		
自然災害		
環境共生		

※暮らしやすさ主観指標に関して利用できる自治体は30自治体(北海道札幌市、茨城県つくば市、茨城県守谷市、千葉県浦安市、千葉県印西市、東京都千代田区、東京都中央区、東京都港区、東京都文京区、東京都品川区、東京都目黒区、東京都世田谷区、東京都渋谷区、東京都立川市、東京都武蔵野市、東京都三鷹市、東京都府中市、東京都国立市、神奈川県藤沢市、神奈川県海老名市、長野県松本市、石川県野々市市、愛知県長久手市、大阪府吹田市、兵庫県神戸市、兵庫県西宮市、兵庫県伊丹市、愛媛県松山市、福岡県福岡市、福岡県春日市)のみです。

⑤暮らしやすさ主観指標

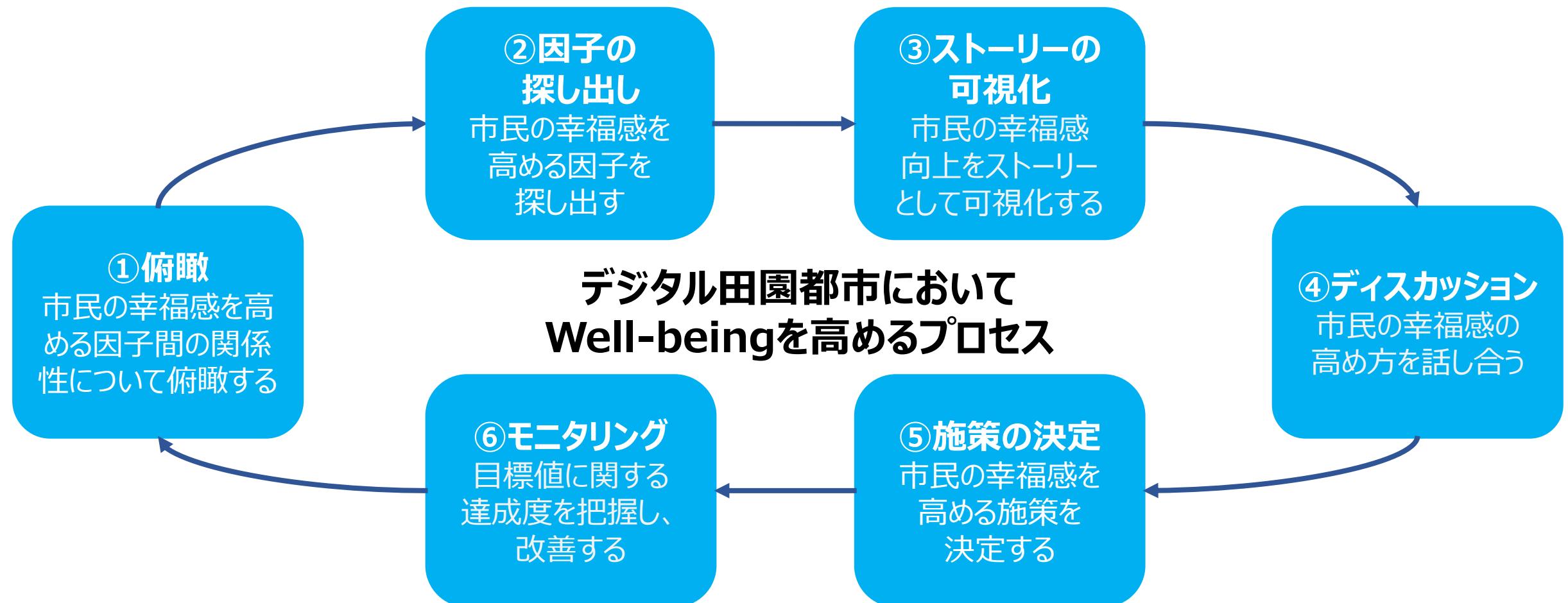


1. デジタル田園都市国家構想におけるWell-beingとは
2. 市民の幸福感を高めるまちづくりの指標（LWC指標）について
- 3. LWC指標 活用の手順（フロー）**
4. LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース

Appendix

LWC指標 活用の手順（フロー）

- まず、データを基に市民の幸福の因子を探査します。市民を軸に置き、幸福の因子に関連する施策や効果等を整理し、ストーリーとして可視化することで、これまで見えてこなかった課題やニーズを把握できます。さらに、対話を基に施策に関する多数のアイデアを出し、その施策を評価するための指標を設定します。



①市民の幸福感を高める因子間の関係性について俯瞰する



- 市民の幸福感を高めるにあたり、それぞれの因子毎の特性や因子間の関係性を理解することで、指標を効果的に活用できます。
- 個人因子と協調因子は市民の幸福感に直接的に働きかける因子である一方、環境因子は個人因子と協調因子、行動因子に働きかけて幸福感に間接的に影響を与えます。
- LWC指標で採用する指標や分析手法については、今後も改善・改良を重ね、更なる進化を目指してまいります。

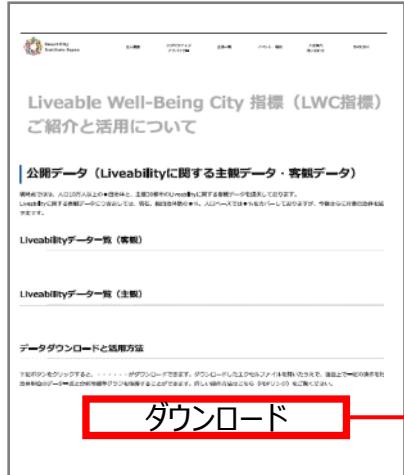


データファイルのダウンロード方法



- LWC指標を利用するにあたっては、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートのウェブサイトより、データファイルをダウンロードしてください。

(一社)スマートシティ・ インスティテュート ウェブサイト



ダウンロードボタンを
クリック

The screenshot shows a Microsoft Excel spreadsheet with several tabs and sections:

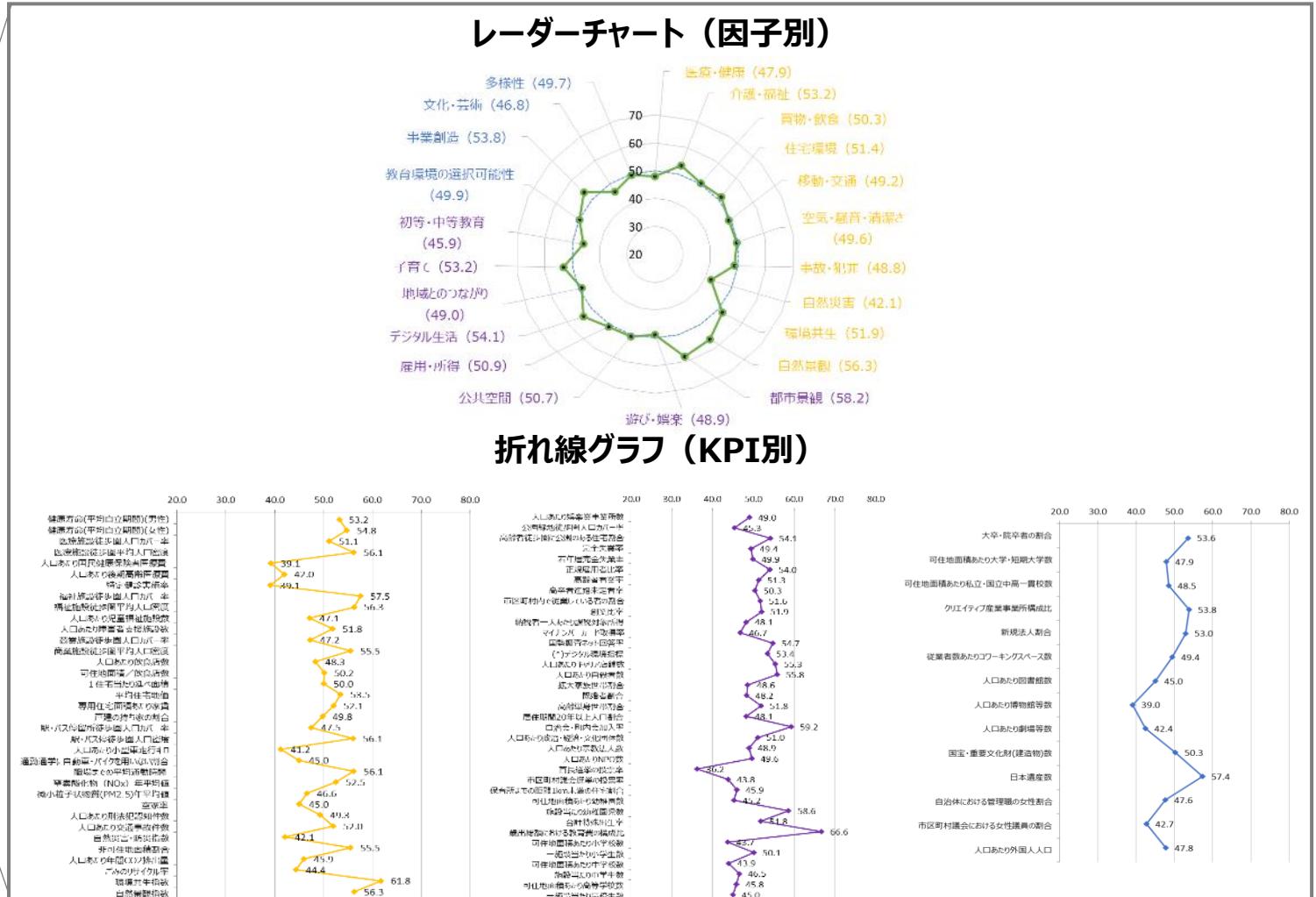
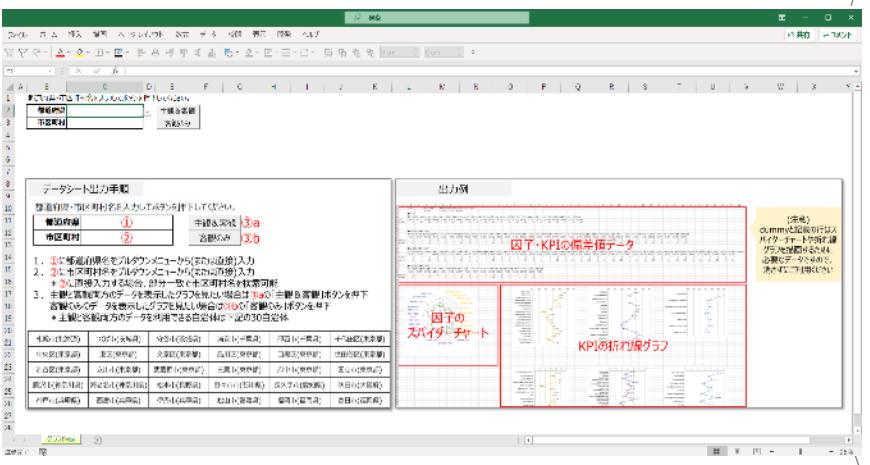
- Top Left:** A search bar and various ribbon tabs like File, Home, Insert, etc. Below the ribbon, there are input fields for '都道府県' (Prefecture/Province) and '市区町村' (City/Town/Village), and buttons for '主観&客観' (Subjective & Objective) and '客観のみ' (Objective only).
- Top Right:** A large yellow note box with the text '(注意) dummyと記載の行はスパイダーチャートや折れ線グラフを描画するために必要なデータですので、消さずにご利用ください' (Note: The row labeled 'dummy' is required for drawing spider charts and line graphs, so please do not delete it).
- Middle Left:** A section titled 'データシート出力手順' (Data sheet output procedure) with instructions:
 - ①に都道府県名をブルダウンメニューから(または直接)入力
 - ②に市区町村名をブルダウンメニューから(または直接)入力
* ②に直接入力する場合、部分一致で市区町村名を検索可能
 - 主観と客観両方のデータを表示したグラフを見たい場合は③aの「主観&客観」ボタンを押下
客観のみのデータを表示したグラフを見たい場合は③bの「客観のみ」ボタンを押下
* 主観と客観両方のデータを利用できる自治体は下記の30自治体
- Middle Right:** A section titled '出力例' (Output example) showing three types of charts:
 - A circular '因子のスパイダーチャート' (Factor spider chart).
 - A line graph titled 'KPIの折れ線グラフ' (KPI line graph).
 - A grid-based chart showing '因子・KPIの偏差値データ' (Factor-KPI deviation value data).
- Bottom:** A toolbar with buttons for 'グラフ作成' (Create graph) and '準備完了' (Prepared completed), along with standard Excel navigation buttons.

データファイルで表示されるグラフ

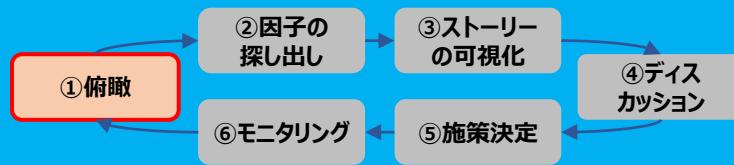


- データファイルでは、各基礎自治体におけるLWC指標の各因子が記載されたレーダーチャート及び、KPIごとの折れ線グラフが表示されます。

データファイル

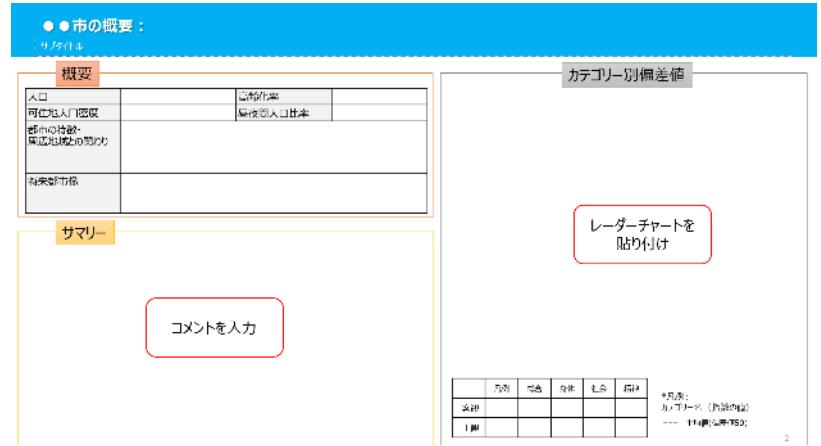


活用できる分析用テンプレート(例)

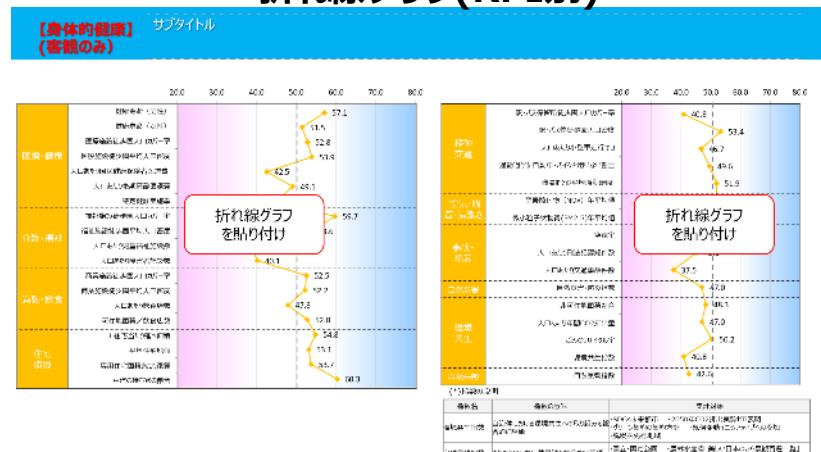


- 一般社団法人スマートシティ・インスティテュートのウェブサイトでは、分析用テンプレートのダウンロードが可能です。LWC指標の利活用を進めるにあたって、ご活用ください。

概要・レーダーチャート（因子別）



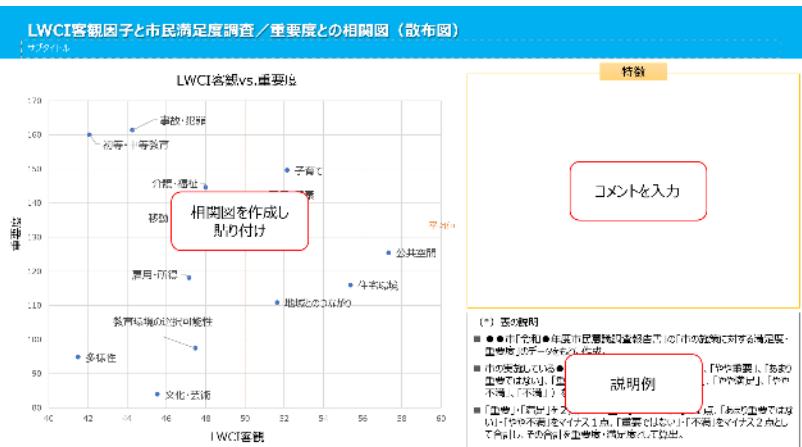
折れ線グラフ(KPI別)



他自治体との比較



LWC指標と市民満足度調査

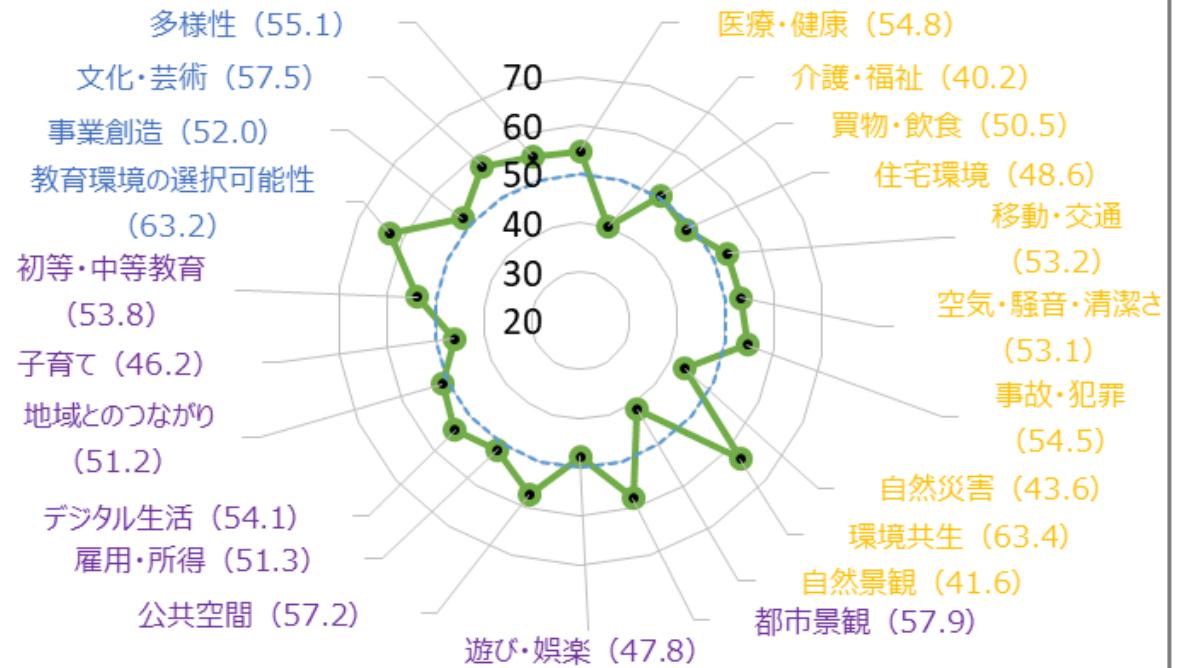


レーダーチャート（因子別）の活用方法



- レーダーチャート（因子別）では、LWC指標の各因子の数値に関して、突出して高い項目や低い項目では大きな凹凸ができ、市の特徴を把握できます。

カテゴリー指数（レーダーチャート）
【サンプル：鎌倉市】



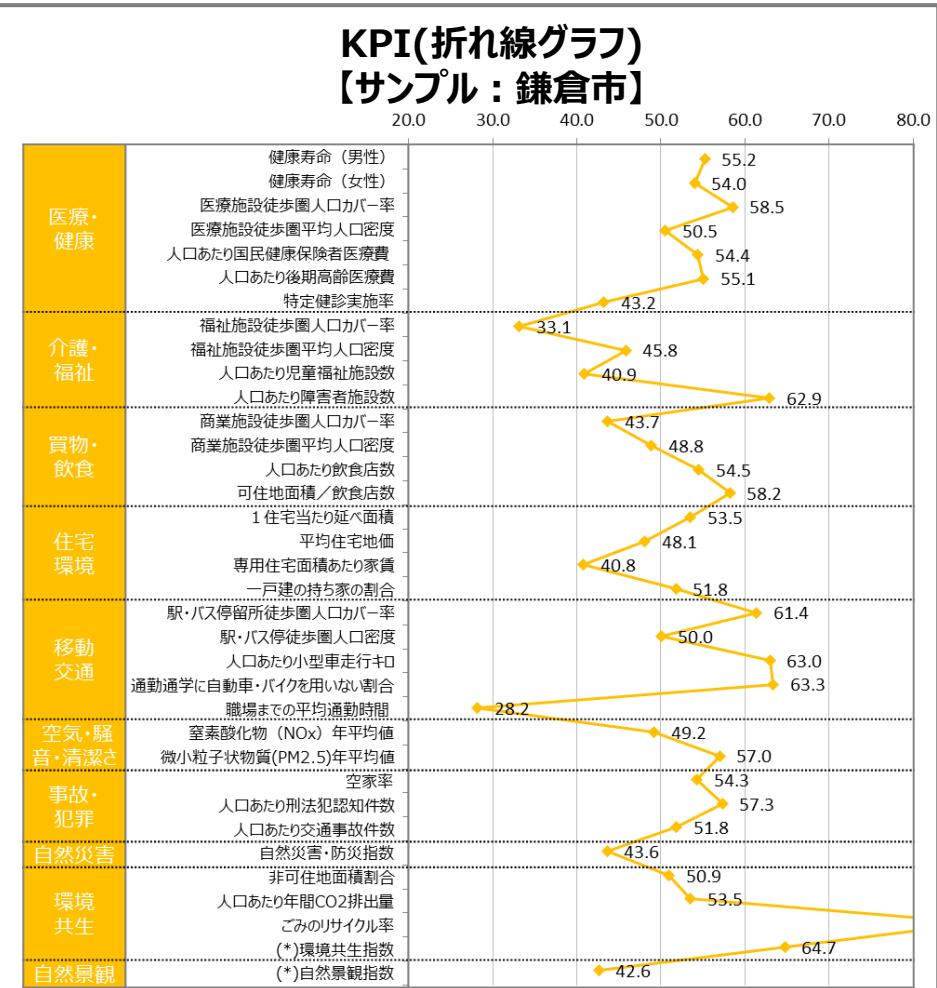
カテゴリー指数（レーダーチャート）による特徴の抽出

- 環境共生の指標が因子の中では最も高い(63.4)。その背景としては、全国でも第一位のリサイクル率を誇りSDGs未来都市に採択される等、市民・自治体共に持続可能社会実現に向けて積極的に取り組んでいることが推測される。
- 環境共生以外にも教育環境の選択可能性(63.2)や、都市景観(57.9)、文化芸術(57.5)、公共空間(57.2)等が高い因子が複数存在することも特徴として挙げられる。
- 文化芸術に関しては、芸術家・著述家等の割合が非常に高く、新しい文化を創造するまち。女性議員の割合が高く、魅力的な人が住んでいると思われているなど、多様性を感じさせられるまちである。
- 一方、介護・福祉(40.2)や自然災害(43.6)について低い因子もあり、懸念の声がある。介護・福祉に関しては、徒歩圏に福祉施設が非常に少ないことが要因と推測される。また、自然災害に関しては、地震や津波、土砂災害等、災害に対して市民がリスクを感じる可能性がある。

折れ線グラフ(KPI別)の活用方法



- 折れ線グラフ(KPI別)では、LWC指標の因子に含まれる各KPIの数値を確認することができます。
- レーダーチャートで大枠理解した各因子について、どのKPIにより因子の値が高くなっているか、あるいは低くなっているか、その要因を分析することができます。



特徴の記載例

カテゴリー	考察（カッコ内の数字は対応する指標）
医療・健康	<ul style="list-style-type: none"> 【医療体制】住居からの徒歩圏に医療施設が整っている(58.5)。病院・診療所の充実度に関する市民の実感は他自治体の平均と同程度(51.9)。 【市民の健康】男女ともに健康寿命は平均以上（男性：55.2、女性：54.0）。一人当たりの後期高齢者医療費は低い(55.1)ため、高齢者の健康状態は良好と推察される。一方、市の運動・スポーツ施設の充実度は平均的(47.7)であると感じられており、特定健診実施率は低い(43.2)ことから、市民の健康維持のための環境づくりについては、拡充の余地があると考えられる。
介護・福祉	<ul style="list-style-type: none"> 【介護施設】徒歩圏に福祉施設が非常に少なく(33.1)かつ、施設の密度が比較的高い(45.8)。一方、市民の実感として、介護施設の数については平均的(52.0)と思われており、客觀と主觀とで乖離がある。要因としては、徒歩圏外の介護施設の利用、介護が必要な人の絶対数が少ない等が考えられる。 【福祉】障害者施設の数は他の都市に比べ非常に多い(62.9)。
賃物・飲食	<ul style="list-style-type: none"> 【賑わい】飲食店の数は面積比(58.2)で多く、人口比(54.5)でも比較的多い一方、主觀評価では繁華街へのアクセスは平均的(52.1)である。 【商業施設】商業施設徒歩圏人口カバー率が小さく(43.7)、場合によってはアクセスしにくい市民がいることを示唆する。市民からは必要な買い物が比較的しにくい(45.2)と思われている。
住宅環境	<ul style="list-style-type: none"> 【地価・家賃】住宅の平均価格は市区町村は平均的(48.1)で、住宅の家賃(40.8)は高い。市民も家賃は突出して高い(27.4)を感じている。 【延床面積】住宅当たりの延べ面積は比較的大きい(53.5)。これは、市民協定により区画を分割して売買できない地区が多数あることに由来すると推察される。 【まちの雰囲気】戸建て割合(51.8)は平均的。

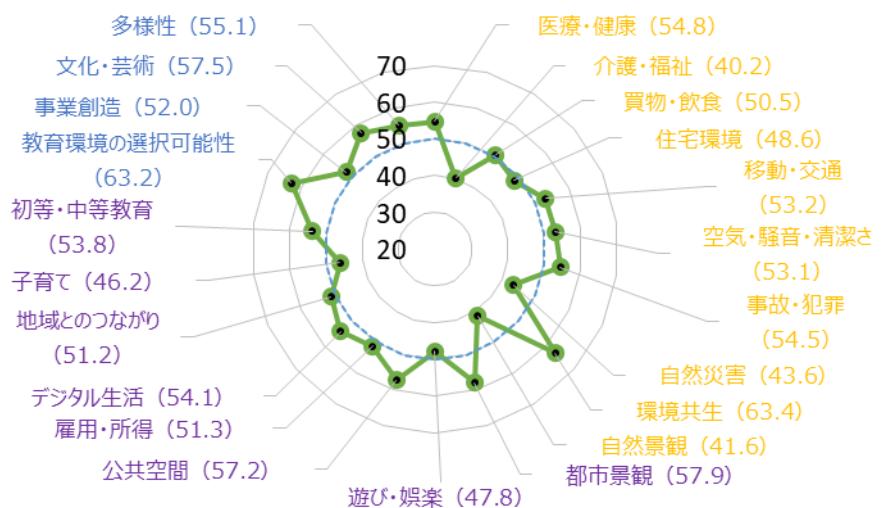
比較対象自治体の導出方法



■ 人口規模・産業構造が類似している自治体、近隣自治体や世代別人口増減率が類似している自治体を比較対象として導出。該当自治体のレーダーチャートを参照し、街の特徴を形や数値から比較することができます。

鎌倉市(サンプル)

人口	約17.3万人	高齢化率	約31%
可住地人口密度	6,450人/km ²	昼夜間人口比率	97%
都市の特徴・周辺地域との関わり	幕府開府以来700年の歴史と、山と海に囲まれた豊かな自然を有する日本屈指の観光都市。一方、自然と文化に惹かれて当地にオフィスを構える企業も多く、新旧が調和して発展している。また、市内に所在する大船駅や国道134号等は湘南地区とそれ以北・以東を結ぶ交通の要衝である。		
将来都市像	古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち		



比較対象の導出

方法① 人口規模及び 産業構造が類似 している自治 体

- 人口規模や産業構造を基に類似する自治体を独自に選択
 - 政令指定都市、特別区、中核都市、施行時特例市に含まれるか否か
 - 人口規模(15万人以上、10万人以上、5万人以上、5万人未満)
 - 1次産業、2次産業、3次産業の比率

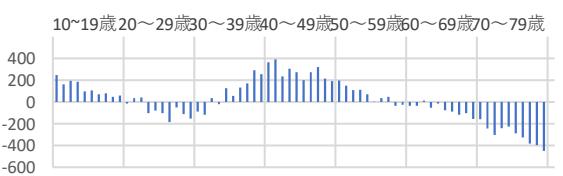
方法② 近隣自治体



方法③ 世代別人口增 減率が類似する 自治体

詳細はAppendix
を参照

- 1歳区分での5年から10年単位での増加率・減少率を基に類似する自治体を独自に選択



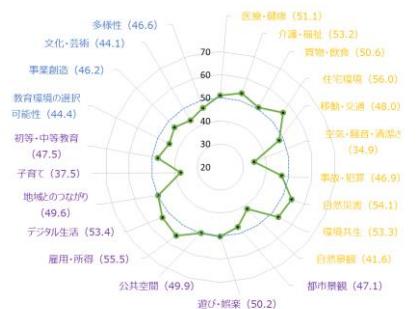
三鷹市



藤沢市



木更津市



市民意識調査を活用した、環境因子の重要度・満足度の把握



- 市民意識調査における「施策の重要度・満足度」等の設問を関連する環境因子に紐づけ、合わせてグラフ(散布図)を作成することで、各因子に対する市民の重要度・満足度を認識することができます。

Step1：市民意識調査の結果をLWC指標の因子と対応付ける

市民意識調査結果

(サンプル：会津若松市)

順位	会津若松市の施策の方針	重要度	LWC指標因子
1	子育てしやすいまちをつくる	275	子育て
2	高齢者が元気にくらせるまちをつくる	273	介護・福祉
3	雇用を安定的に確保し労働福祉が充実したまちをつくる	263	雇用所得
4	雪に強いまちをつくる	236	自然災害
5	中心市街地を活性化し賑わいのあるまちをつくる	192	買い物・飲食
6	安全で安心できるまちをつくる	175	事故・犯罪
7	商工業を振興し経済活力あるれるまちをつくる	149	買い物飲食
8	観光を振興し活気のあるまちをつくる	140	事故・犯罪
9	豊かな心と確かな学力を身につけた子どもを育むまちをつくる	137	移動交通
10	都市交通対策が進んだまちをつくる	136	：

Step2：振り分けた因子ごとの合計を算出する

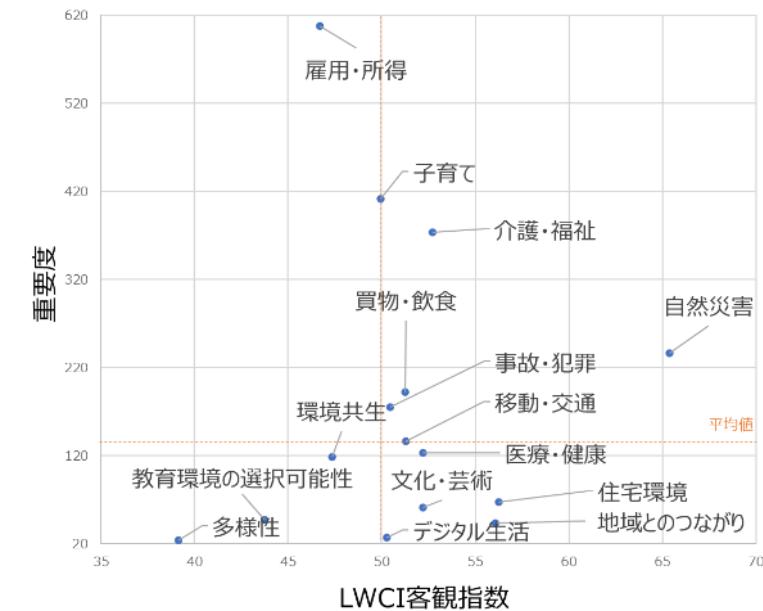
市民意識調査をLWC指標の因子と統合した結果

順位	LWC指標の因子	重要度
1	雇用・所得	608
2	子育て	412
3	介護・福祉	374
4	自然災害	236
5	買物・飲食	192
6	事故・犯罪	175
7	移動・交通	136
8	医療・健康	123
9	環境共生	118
10	住宅環境	67
11	文化・芸術	61
12	公共空間	53
13	教育環境の選択可能性	47
14	地域とのつながり	43
15	デジタル生活	27
16	多様性	24

Step3：散布図を作成する

市民意識調査とLWC指標の散布図

LWCI客観指数 vs. 重要度



※Well-beingに関する主観アンケートを活用した分析方法については、2022年秋以降に、本ガイドブックに追加掲載する予定です。

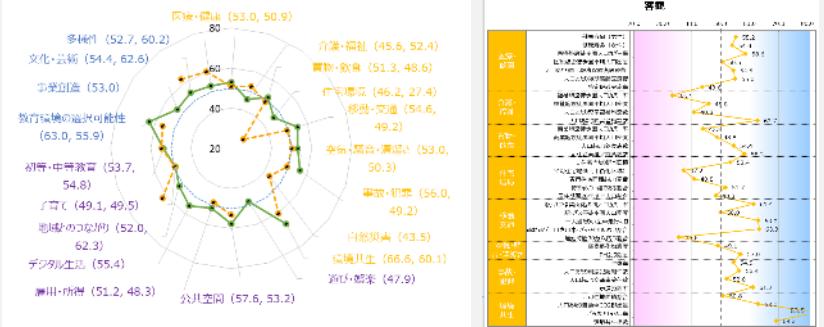
②市民の幸福感を高める因子を探し出す



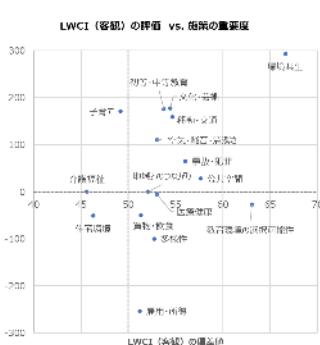
- LWC指標のデータや市民意識調査等の自治体の保有データを活用し、市区町村の特徴を全体的に把握した後、ステークホルダーとの対話により、市民の幸福の因子を探し出します。

既存データを基に市の特徴を全体的に把握

LWC指標

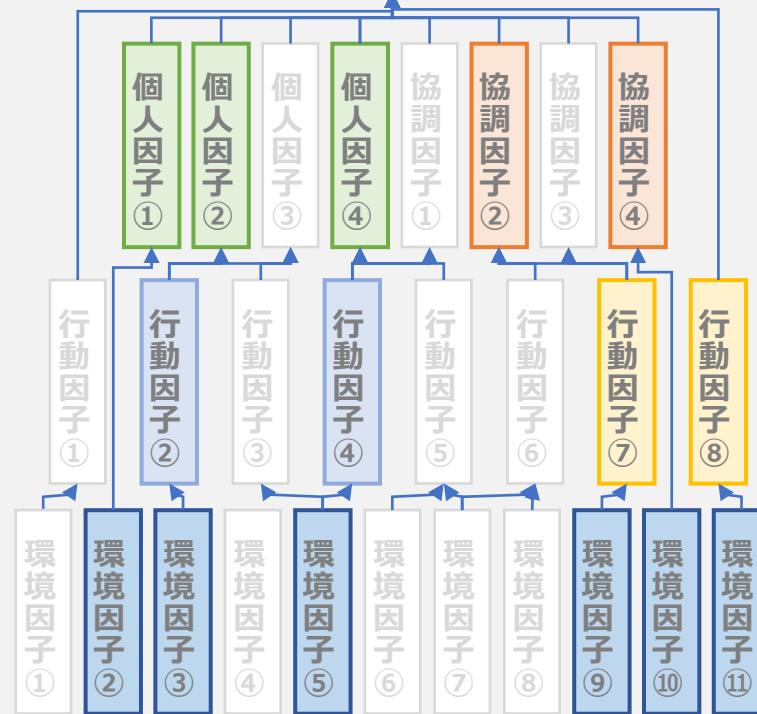


自治体の保有データ(例：市民意識調査)



幸福の因子の特定

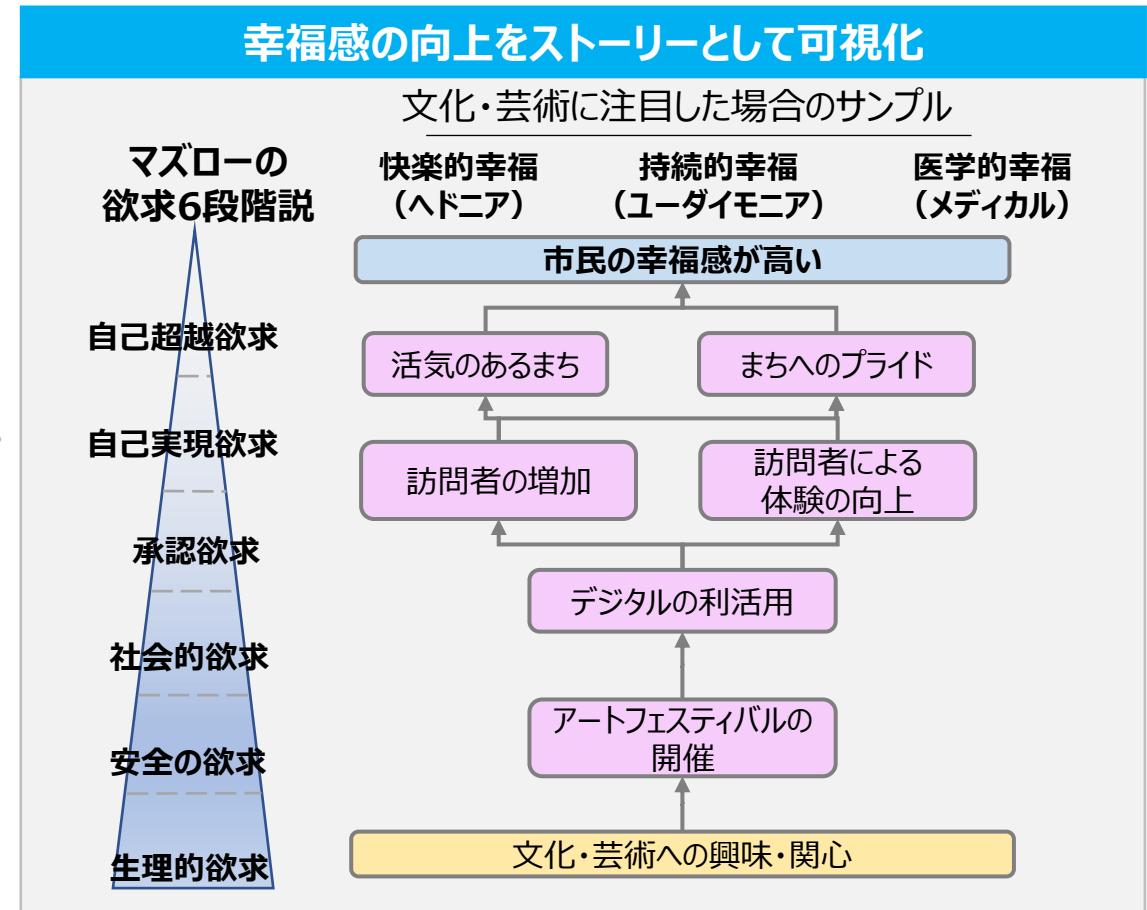
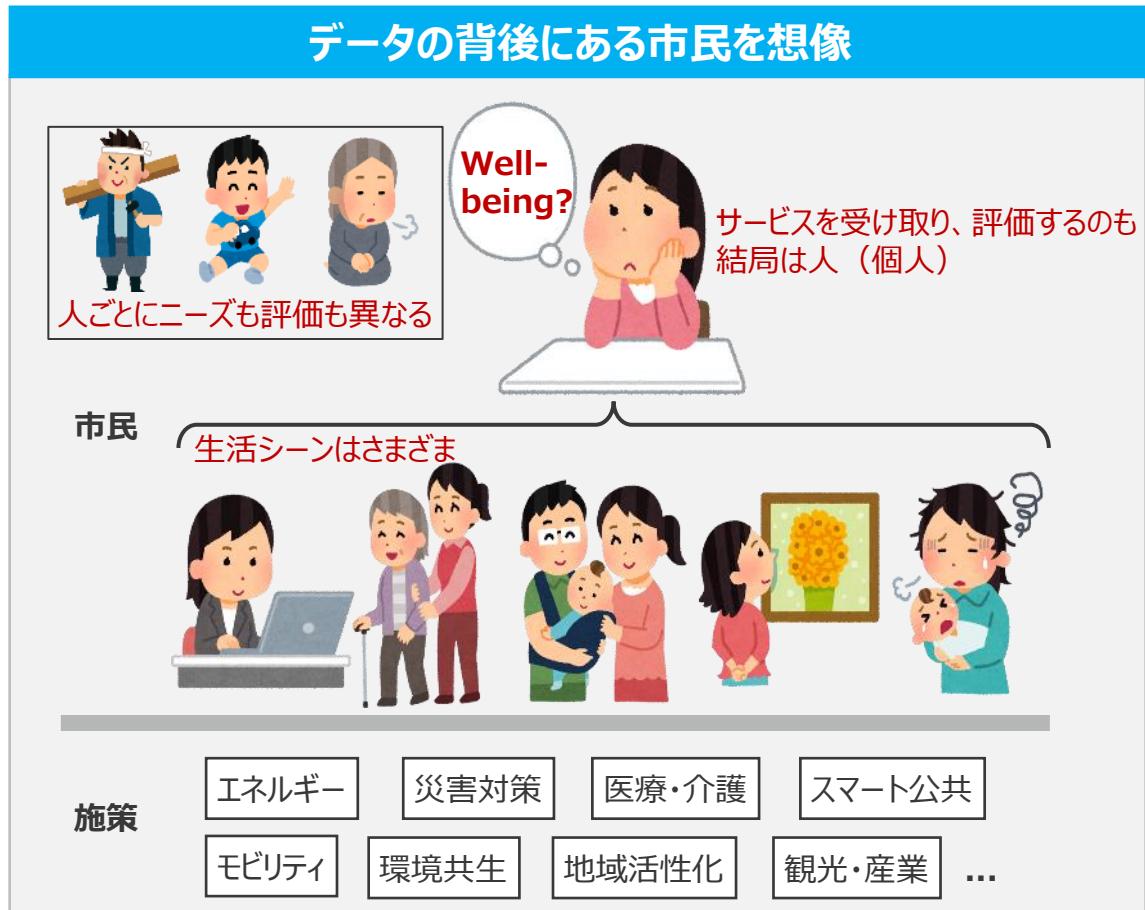
市民の幸福感



③市民の幸福感向上をストーリーとして可視化する



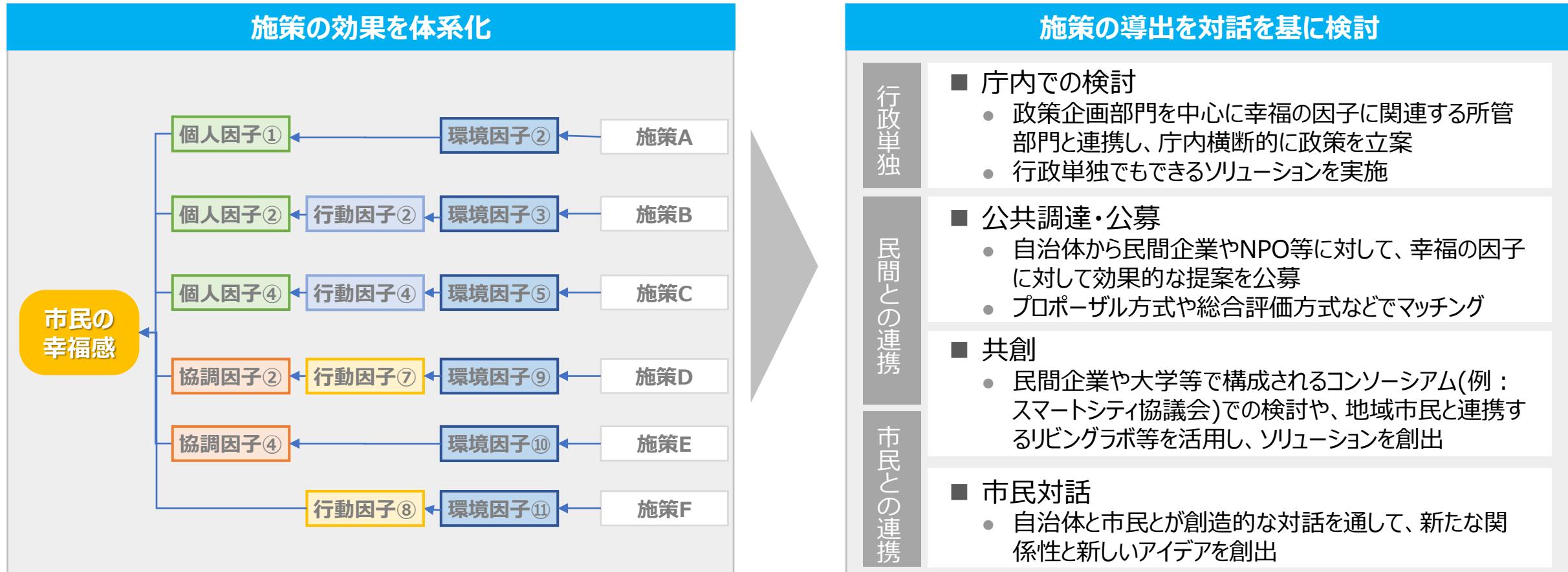
- データの背後にある市民を想い、市民が抱えている課題やニーズを深掘りします。
- 一方、データ分析に偏り過ぎず、自治体だからこそ持ち得るその地域独特の情報や文化も踏まえ、地域での取組みがどのように市民の幸福に繋がるかを表す仮説を立て、ストーリーとして可視化します。



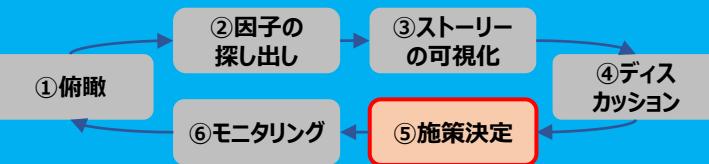
④市民の幸福感の高め方を話し合う



- 市民の幸福感向上に繋がる施策について、行政単独で実施できる施策、民間企業と連携して提供できる取組み、市民との連携により実現する取組みに分け、どのような方法がよいか、対話を基に検討します。

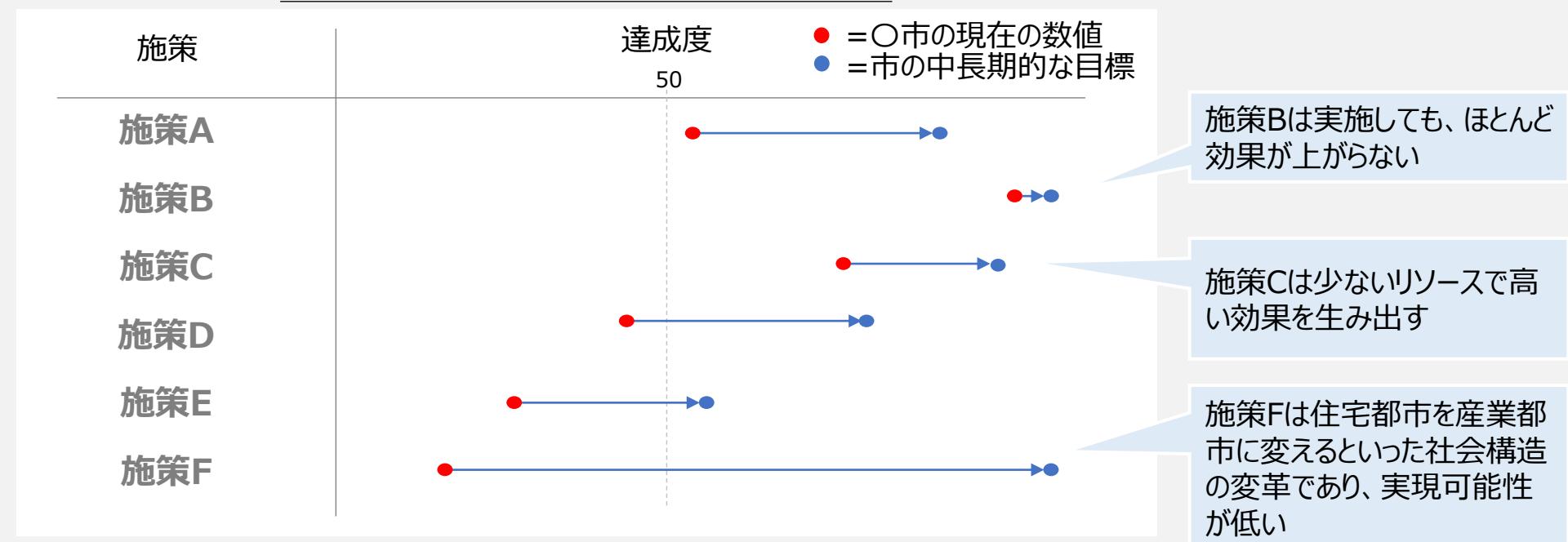


⑤市民の幸福感を高める施策を決定する



- LWC指標の活用によるベンチマークリングすべき都市のデータや市の総合計画・基本計画で定められている目標を踏まえて、各施策における目標値を設定します。
- 複数の施策から、効率的に指標を高めることができる施策や、高い数値を維持できる施策を優先的に選択し、実施すべき計画を決定します。

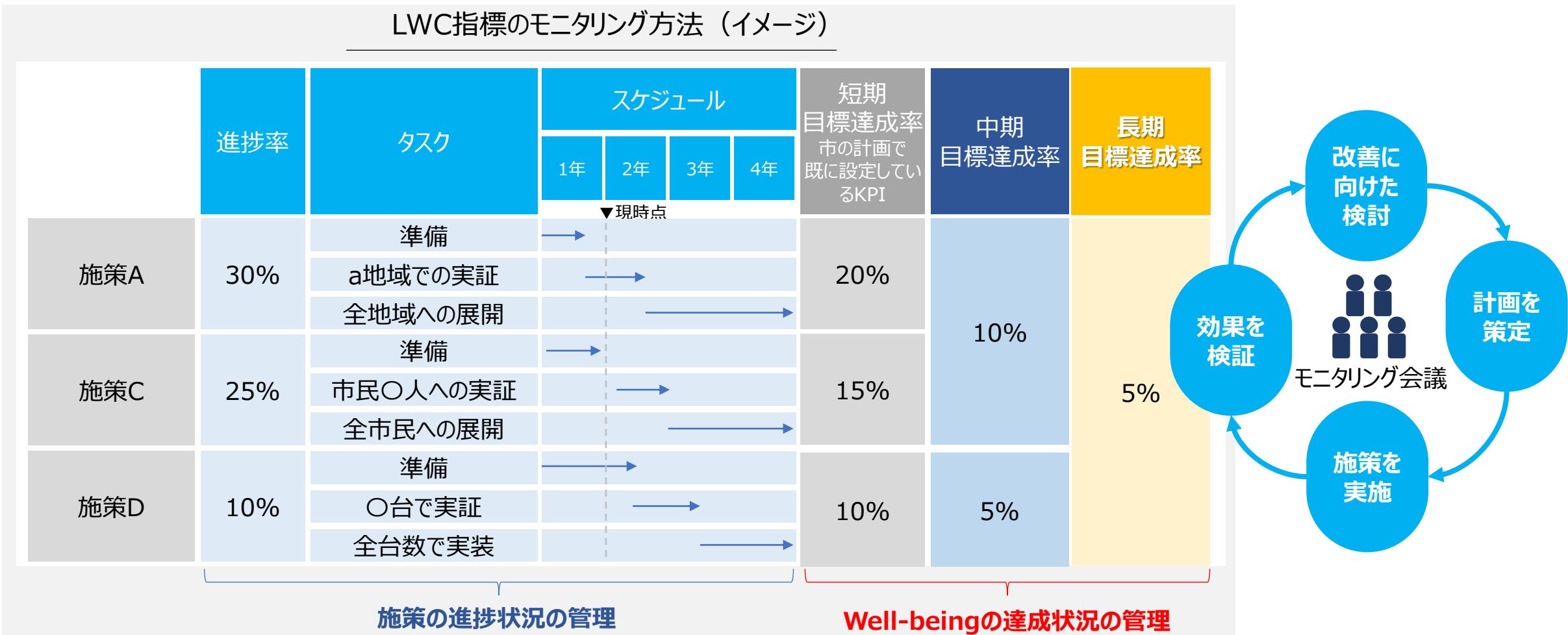
ソリューション整理表



⑥モニタリング・発展させる



- デジタル田園都市の関係者と共有するモニタリングの方法を定め、モニタリング会議を設置します。
- モニタリング会議で施策の進捗状況と、Well-beingの引き上げ効果の両面を定量的に検証し、改善活動を続けます。

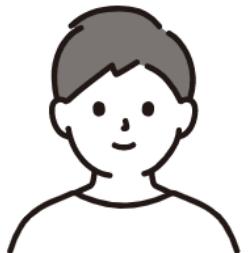


LWC指標を活用した対話（例）①俯瞰



住んでいる街の幸福感・暮らしやすさに関する特性を把握できましたか？

四季を感じるこの街に住み、日々ふとした時に感じる幸せの理由が理解できました。
環境や自然の豊かさを、これからも大切にしたいです。



色々な幸せの因子がある中でどのような社会が私達をより幸福にさせると思いますか？

自分らしさが尊重され、お互いが認め合う、安心安全な社会が良いなと思います。



Well-beingの向上を意識したこと、コミュニティやご近所との関わり方、
普段の生活・暮らし方は変わりそうですか？

コミュニティやご近所の方の幸せを意識するようになりました。これまでには、あまりご近所付き合いをしていませんでしたが、これからは気持ち良く挨拶するだけでも安心感が生まれると思います。

LWC指標を活用した対話（例）②因子の探し出し



自分の考えていなかった幸福の要素はありましたか？

いつも二人で散歩に行く公園では綺麗な花や木が植えられています。
見ているとすごくリフレッシュします、近くに自然があることも幸せの一つですね。



自分の幸せの因子は見つかりましたか？

家族が笑顔で健康に過ごしていることが私達の幸せです。コロナの影響もあって、頻繁には会えなくなつたので今はオンラインで話しています。もう少しPCやスマホの使い方に詳しくなりたいです。



地域で、特に大事にしていきたい幸福の要素は何でしょうか？

祖父にはいつまでも元気でいて欲しいです。
だから地域の見守りや、コミュニティの関わりは大切にしていきたいです。

LWC指標を活用した対話（例）③ストーリーの可視化



自分や周りの人たちの幸福を高めるために、何を変えていけばいいでしょうか？

スーパー や ドラッグストア、役所 や 病院などの生活に必要なお店や施設が家の近くにあると便利で安心します。子供がそろそろ生まれるので、幼稚園にも入りやすいと良いですね。

データを通して、その背景にある同じ地域に暮らす市民についての理解が進みましたか？

環境共生を大切にしている 街ということが分かりました。
近所の方が、毎朝、ゴミ掃除をしているのを見かけます。
街がきれいになると、住んでいて気持ちが良いですし、私も来週から学校に行く前に参加することしました。



子どもや孫の世代の市民が、あなたの年齢になる頃に、街はどう変わってほしいですか？

家族の形が変化していたり、人生の選択肢も多様になっていると思います。
子どもたちが健やかに前向きに生きてくれる社会ができていることを願います。

LWC指標を活用した対話（例）④ディスカッション



幸福に繋がるソリューションに対して、理解や共感が高まりましたか？

街全体として災害時の避難ルートや避難所の確保などの取り組みを重視していることに共感しています。取り組みを通じて、私が抱えている不安や懸念が少し無くなりました。

連携するパートナー企業・団体には、街の何を大切にしてほしいですか？

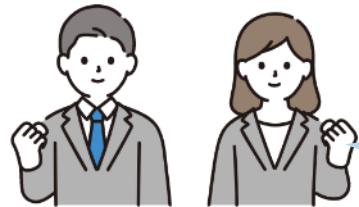
地域との繋がりを大切にして欲しいです。
ビジョンやソリューションに関して、分かりやすく伝えていただければ、積極的に協力をていきたいです。



様々なバックグラウンドを持つ人が連携することで、自分自身にどんな変化が起きそうでしょうか？

自身の価値観に多様性が生まれると思います。意見や考え方の違いを恐れず思い切ってコミュニケーションすることで、お互いの理解を深めて、街の新しい価値を作りたいです。

LWC指標を活用した対話（例）⑤施策決定



目標や施策に関する理解は深まりましたか？

目標が明確になることで、施策への納得感や共感も高まりました。
街並みが綺麗になり、楽しく移動できるようになることが、健康増進にも繋がるという気付きもありました。

決定された施策により、目標を達成すると日々の暮らしは、
どのように変わりそうでしょうか？



道路の渋滞が緩和されることで、家族と一緒に外出する時間が増えそうで
休日をもっと楽しみたいです。



Well-beingの視点で次の世代にどのようなことを伝えたいですか？

人と人との相互理解を通じて私達は感動や幸せを感じることができます。
テクノロジーが発達しても、地域での繋がりや関係性を大切さにしていってほしいです。

1. デジタル田園都市国家構想におけるWell-beingとは
2. 市民の幸福感を高めるまちづくりの指標（LWC指標）について
3. LWC指標活用の手順（フロー）
4. LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース

Appendix

LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：加古川市



■ 加古川市においてLWC指標を活用すると、全体的にバランスがとれ、住宅環境等が良い、市民にとって住みやすい街である等が確認できます。

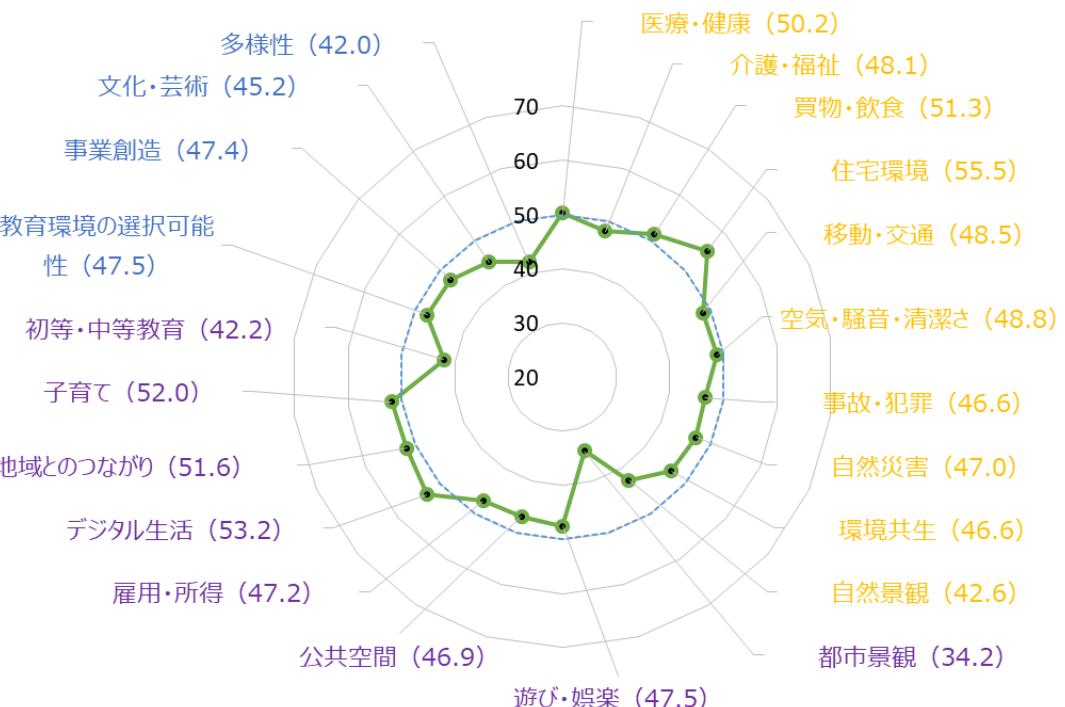
概要

人口	約26.1万人	高齢化率	約28%
可住地人口密度	2,583人/km ²	昼夜間人口比率	91%
都市の特徴・周辺地域との関わり	兵庫県南部に位置し、東播磨地方の中核都市。市街地はJR加古川駅・東加古川駅・山陽別府駅周辺に形成。集合住宅が林立し、重化学工業地帯や大型量販店の激戦区である南部と、農村風景が残る北部と、二面ある。		
将来都市像	「夢と希望を描き 幸せを実感できるまち 加古川」		

サマリー

- 神戸・大阪までの交通アクセスに優れ、自然と歴史にあふれる都市。一方、近年には、人口減少、少子高齢化による人口構造の変化、公共施設や社会インフラの老朽化、環境問題等の課題に直面している。
- 2015年まで人口が増加傾向であったが、現在では人口減少に転じている。特に、若い世代、子育て世代の転出が目立っており、「加古川市総合計画」においても「本市で生活するすべての人が、安全に安心して毎日を過ごすことができ、本市の未来を担う子どもたちや若い世代が明るい未来を展望できるまちをつくること」としている。
- また、市民の安全・安心に大きく影響する刑法犯認知件数が、他市と比較し、少なめ。このことから、スマートシティの一環として実施している「見守りカメラ」や「見守りサービス」の推進により、加古川市がより魅力的まちとなることが期待される。

カテゴリー別指標



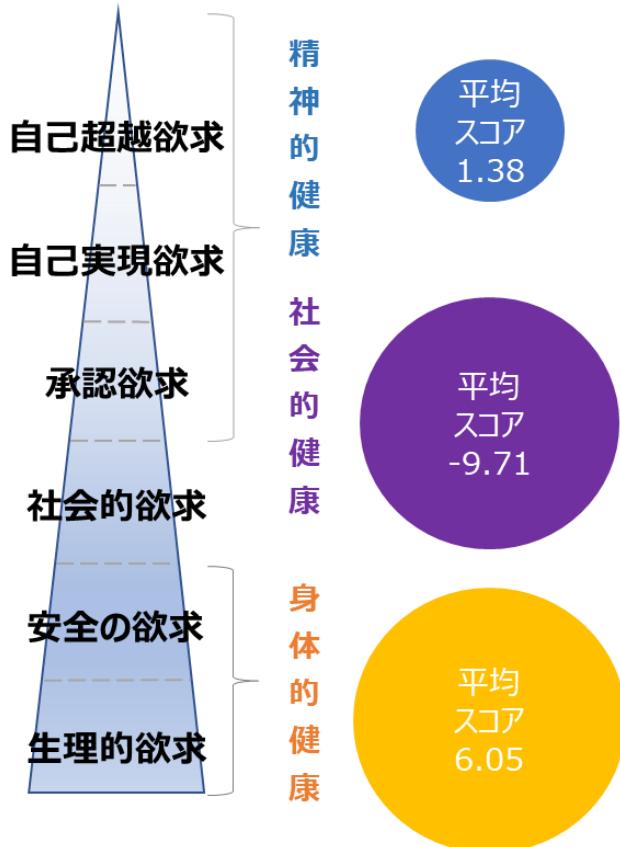
総合	身体	社会	精神
47.4	48.5	46.8	45.5

LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：加古川市



■ LWC指標を基に、加古川市の令和3年度市民意識調査を分析すると、「社会的健康」や「身体的健康」に関わる質問が比較的多いです。市民の「精神的健康」を更に調査することで、市民のWell-beingの理解を深められる可能性があります。

マズローの
欲求6段階説



令和3年度 市民意識調査「各施策の満足度」

特別支援教育の内容 生涯学習の機会や環境 スポーツ・レクリエーション活動の機会や環境 文化・芸術に接する機会 人権に関する教育や啓発 男女共同参画の推進	「精神的健康」に関わる設問案： 将来生まられてくる世代のために、良い環境や文化を残したい 暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある 地域では、多様な人の声が尊重されている	
結婚・出産・子育てに関する支援 就学前教育・保育の内容 義務教育の内容 教育を支える体制や学習環境 青少年の健全な育成 消費生活に関する教育や消費者保護対策 就業機会の確保や働き方改革の推進 農業の振興 水産業の振興	工業の振興 地場産業の振興 商業・サービス業の振興 観光の振興 地域特性を生かした効果的な土地利用 加古川駅周辺の都心としての魅力 景観や、まちなみの美しさ 公園・緑地の整備・管理 まちなみの緑化や河川敷等の活用	
地域福祉の推進 障がい者に対する支援 高齢者に対する支援 健康の保持・増進 安心できる医療体制 地域の防災体制 消防や救急・救命体制	防犯・交通安全対策の推進 幹線道路の整備 鉄道の便利さ バスの便利さ 生活に身近な道路の安全性や便利さ 良質な住宅供給の促進	水道水の供給 下水道の整備 大気や水質などの環境対策 地域の自然環境の保全 ごみの減量・不用品のリサイクルの推進 ポイ捨てやペットのふん便防止

「あなたが「幸せ」であるために
重要なと思うことは何ですか。」

自由な時間
余暇の充実
精神的なゆとり

家計の状況
仕事・学業の充実
家族関係
友人関係
職場・学校の人間関係
地域コミュニティとの関係

健康の状況
住環境の状況

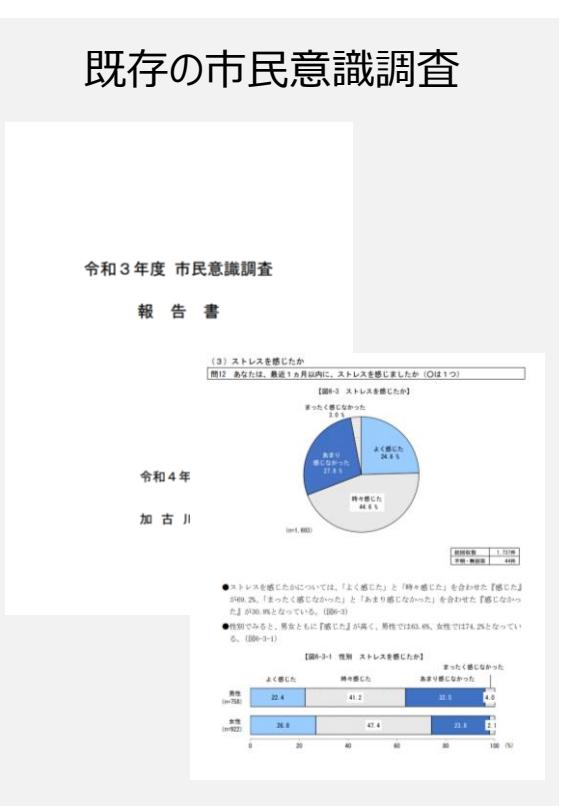
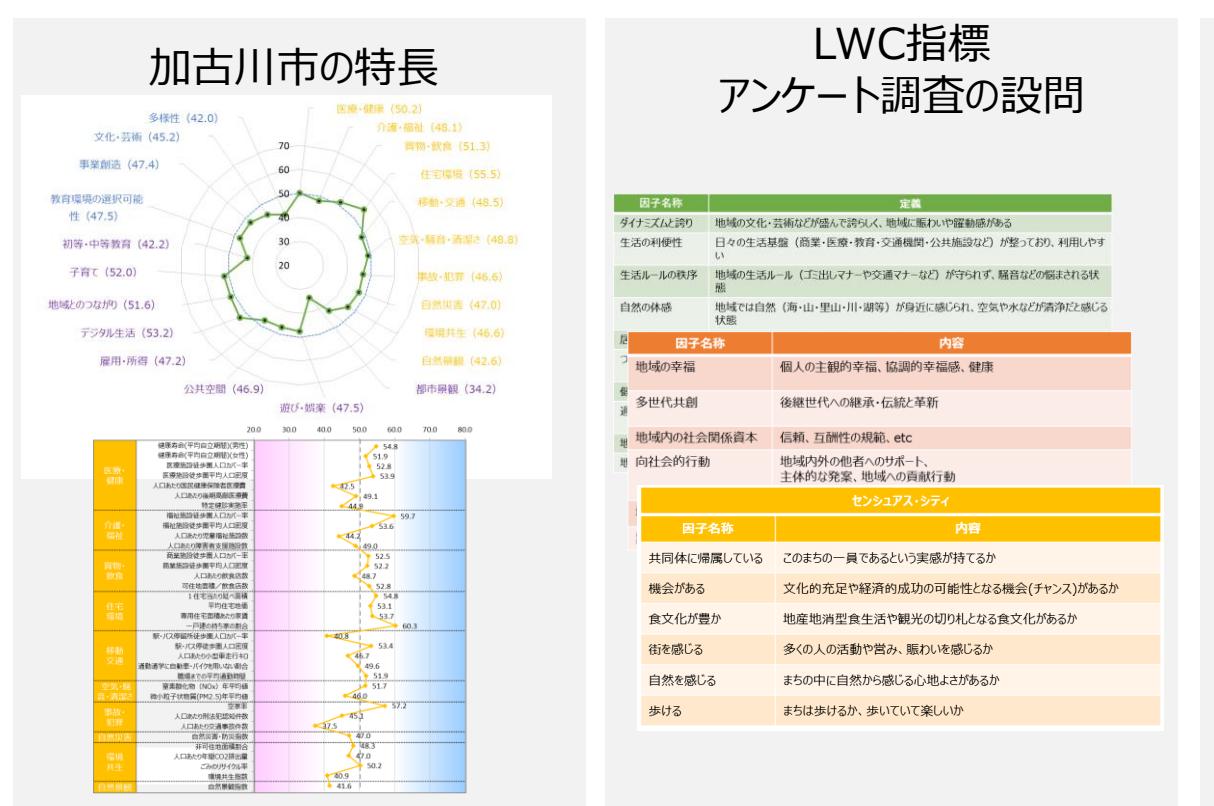
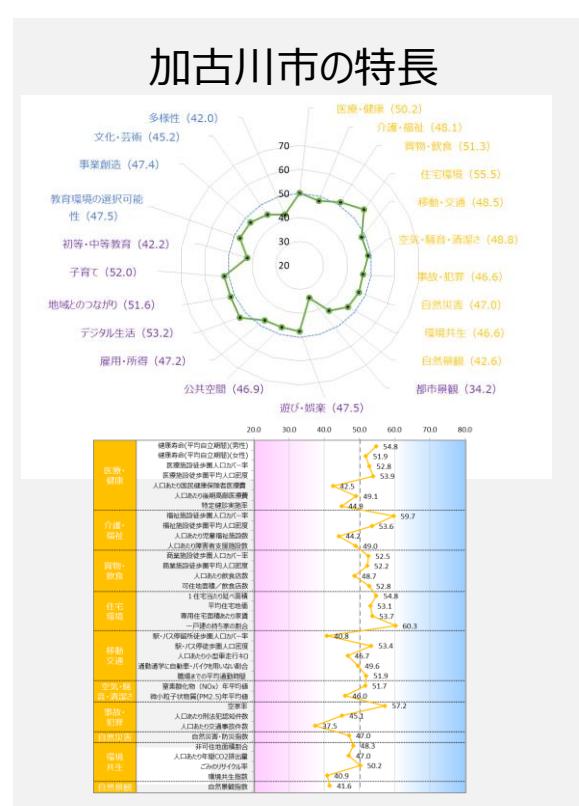
* 円の大きさは「精神的健康」、「社会的健康」、「身体的健康」に該当する質問の数を表している

LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：加古川市



- 市民のWell-beingの理解を深めるため、加古川市は、LWC指標のアンケート調査に基づいた独自のアンケート調査の実施を検討しています。
- 加古川市民のWell-being向上に繋がる因子の妥当性や市の施策を評価する既存の市民意識調査との整合性を考慮した、アンケート調査のあり方を庁内で協議します。

独自アンケート調査に向けた検討素材



独自アンケート調査に 関する庁内意見(例)

- LWC指標のアンケート調査は設問数が多いので、加古川市民にとって重要である要素を抜き出す必要がある。
- 市の施策で、他市との差別化が難しいことが多い。加古川市独自の価値観を考えるべき。
- 施策によっては、アンケート調査の対象を年齢別にセグメント化することも考えられる。

LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：浜松市



■ 浜松市では、LWC指標を活用したワークショップを開催し、市の政策や計画などの立案に関するディスカッションを実施しています。

- 日時：2022/5/27 13:15～16:30
- 形式：オンラインのみ
- 参加者：自治体の職員15名程
- テーマ LWC指標の活用方法
 - 浜松市の政策体系・方向性とLWC指標との関係性確認
 - 各選定分野の関連計画とKPIに関するLWC指標との整合性確認
 - LWC指標を活用し、強みを強化し、弱みを補う取組の研究
- プログラム
 - イントロダクション
 - LWC指標紹介（スマートシティ・インスティテュート 南雲専務理事）
 - 浜松市の政策体系と方向性確認
 - 各選定分野の計画とKPIの説明、および現状認識
 - ディスカッション
 - まとめ



LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：浜松市



■ 浜松市においてLWC指標を活用すると、地域とのつながりが強く、また環境共生に関する活動も活発なため自然環境との共存意識も高いこと等が確認できます。

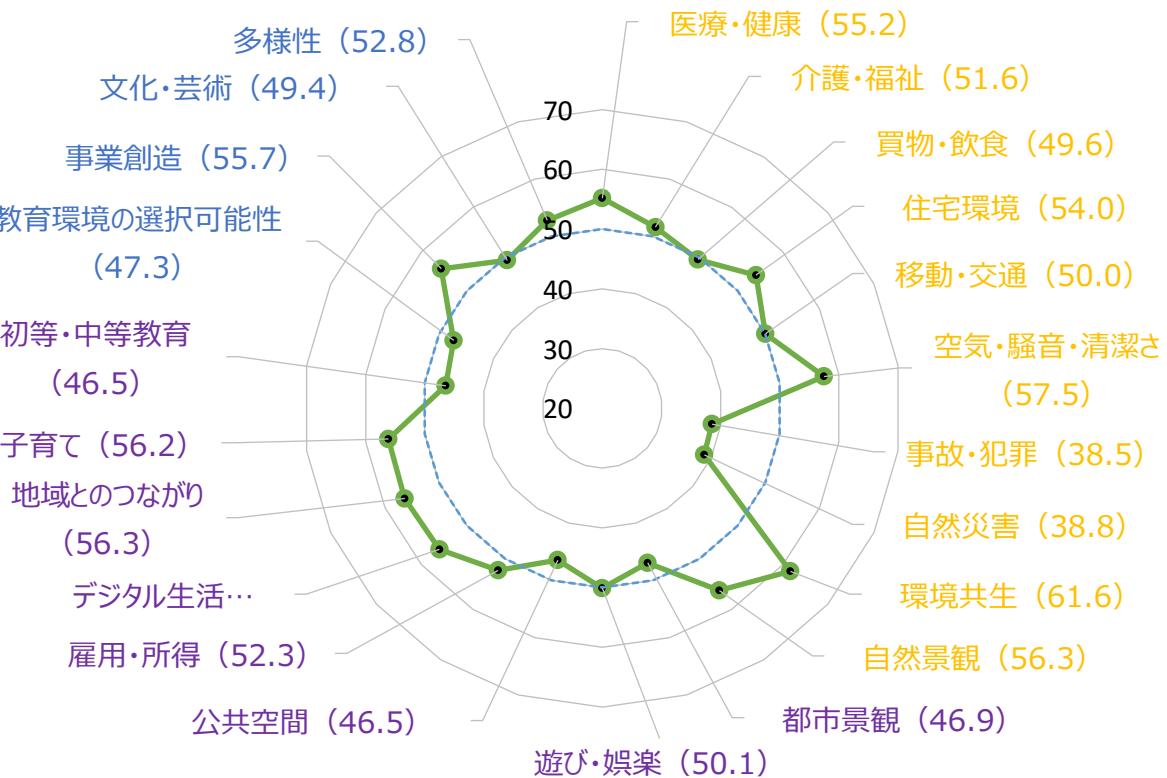
概要

人口	約80万人	高齢化率	約26%
可住地人口密度	1,640人/km ²	昼夜間人口比率	99%
都市の特徴・周辺地域との関わり	浜名湖を有する自然豊かな政令市。中部地方では名古屋市に次ぎ、静岡県および三遠南信最大の人口。市内に大手自動車メーカーの本社が所在し、周辺に自動車部品工場も多い工業都市。高速道路や新幹線駅もある周辺地域のリーダー。		
将来都市像	「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」		

サマリー

- 「自治会・町内会加盟率」、「選挙投票率」、「拡大家族世帯割合」等で示される地域とのつながりは、日本トップクラス。分厚い社会関係資本が、浜松市の顕著な強み。
- 自然環境が豊かで、空気・騒音・清潔さの値も高水準。環境共生に関する活動も活発と、自然環境との共存意識も高い。
- 健康寿命は、男女ともに極めて高水準であることも大きな特徴。
- 「歳出総額における教育費の構成比」や、「合計特殊出生率」も高い。
- 雇用も若年層から高齢者まで高い水準となっており、地域で仕事が見つけやすく、雇用が安定している。
- 全般的に高水準のオールラウンドプレーヤー的なパフォーマンスではあるが、交通事故件数の多さや、国土縮図型都市で様々な自然災害に備える必要があるなど課題もある。

カテゴリー別指標



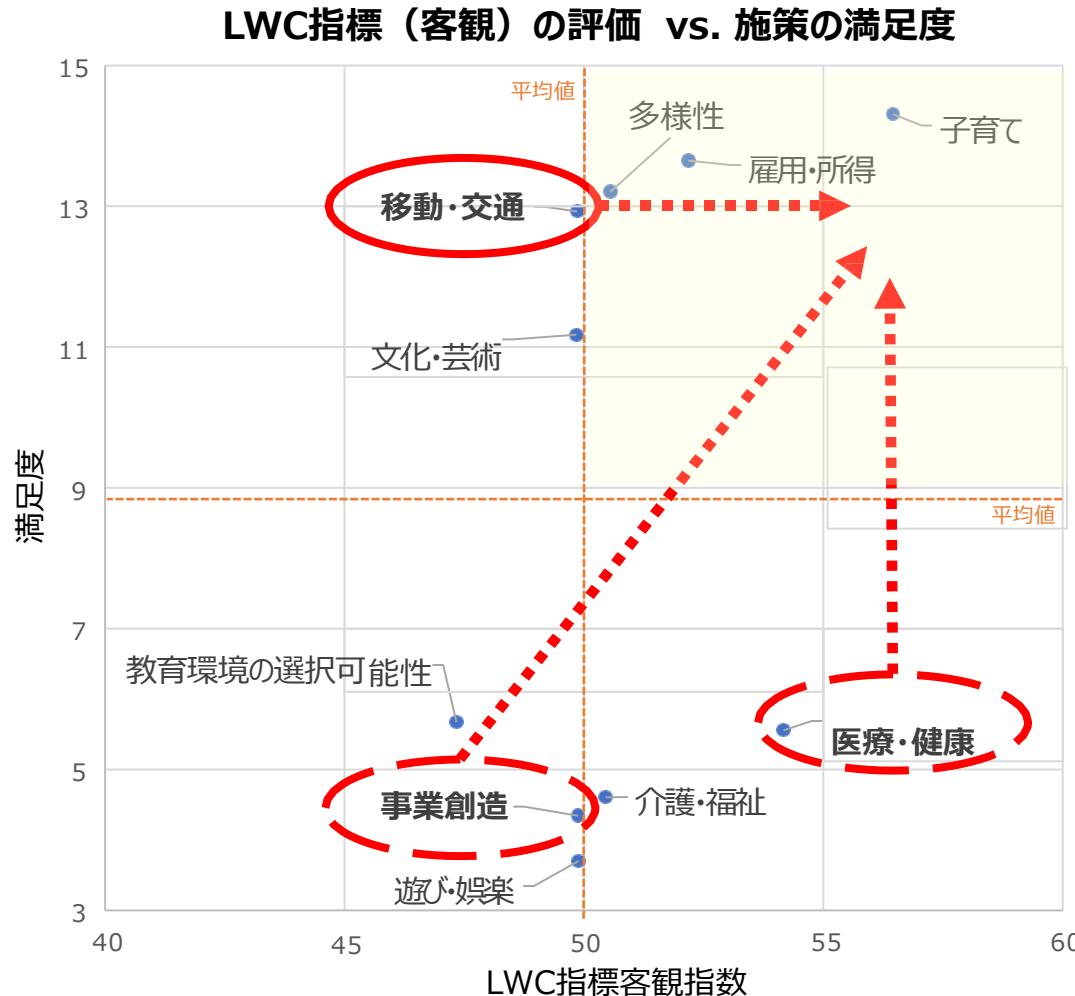
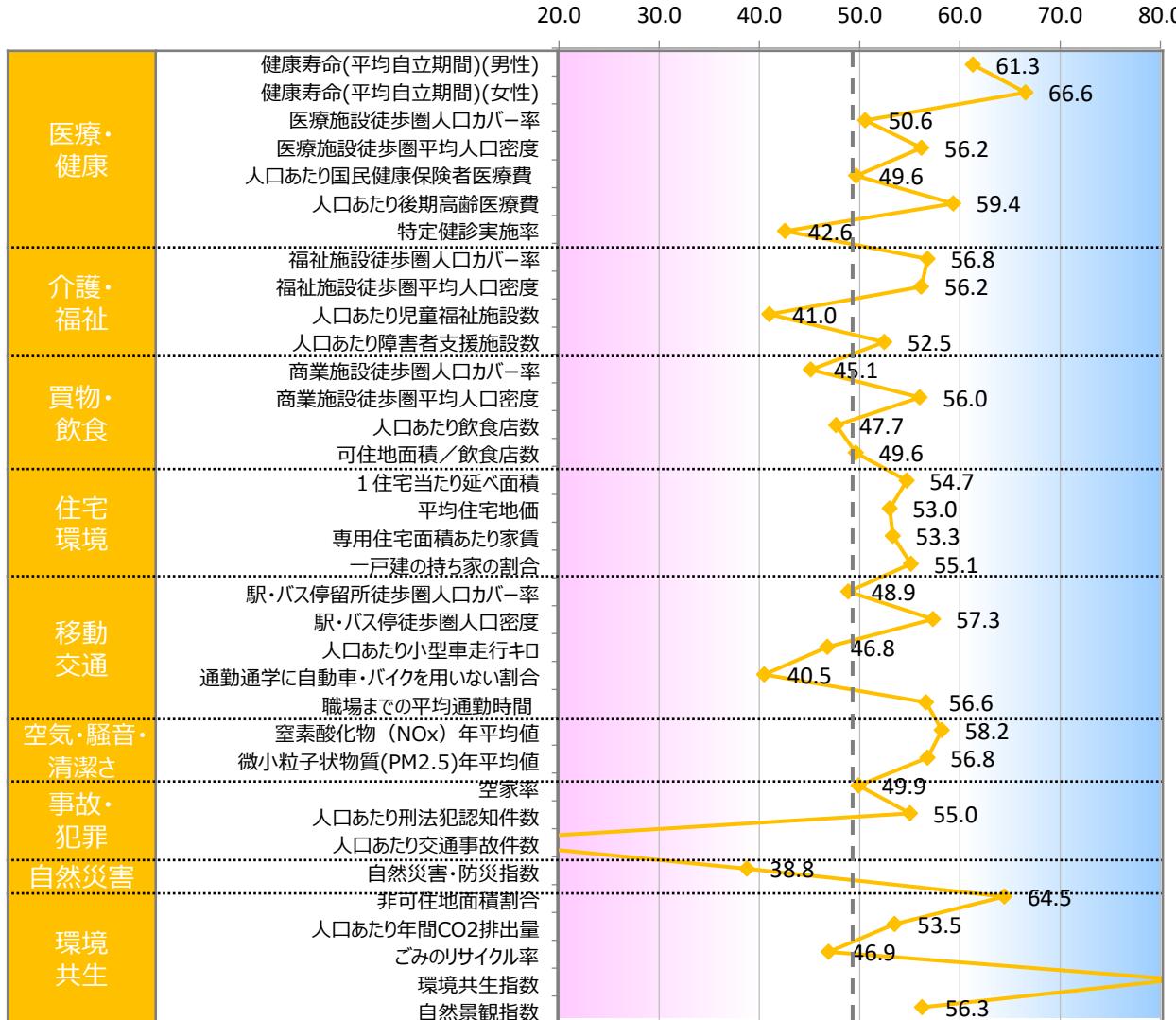
総合	身体	社会	精神
51.3	51.3	51.4	51.3

*凡例：
カテゴリー名（客観の値、主観の値）
----- 平均値

LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：浜松市



■ LWC指標の「暮らしやすさ」の客観指標では、環境共生の値が高い一方、事故・犯罪や、移動・交通の値が低い状況です。LWC指標と市民満足度調査も踏まえ、複数の施策について検討の方向性を議論しました。



LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：浜松市



■ 浜松市では、LWC指標を活用したワークショップを開催し、Well-beingに向かう道筋について議論しました。

ワークショップでの対話例（1）



市政報告の中で、取り組む施策が説明されているが、**実現可能性が高いものやKPIが測れる施策**が選ばれてきた実感がある。

デジ田ではウェルネス、移動交通、環境、スタートアップを選定分野と決めた。既存のKPIで**市民目線でのWell-being向上**の計測が可能か？



無意識に**KPIが存在する物の中から**施策を決めていたかもしれない。取り組むべき施策を明確にし、その後でKPIを探したり、作るアプローチもある。

客観指標と主観指標（満足度調査等）にずれがある点などは、興味深い。我々の取組を市民に伝えていく努力や工夫も重要なのではないか？



路線バスが減少する本市で、「誰しもが使いやすい公共交通」の実現を本市は模索している。**交通に係るKPIを選ぶべきでは？**



LWC指標のグラフでは、駅・バス停の徒歩圏カバー率の低さや、自家用車の利用率の高さが際立って**改善の余地は大きそうだ**。



自家用車を保有しない方でも移動しやすい状況を作ることは1つのニーズでは。**デジタル技術で乗り合いサービス**を作るアイディアはどうだろう？



路線バス等を民間事業者が運営しており、公共交通の利用率などのデータが入手しづらい。KPI設定には**民間事業者を巻き込んだ工夫**が必要だ。



LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：会津若松市



■ 会津若松市においてLWC指標を活用すると、自然災害に関するリスクの低いことや、自然の豊かさ、デジタル環境の整備が進んでいること等が確認できます。

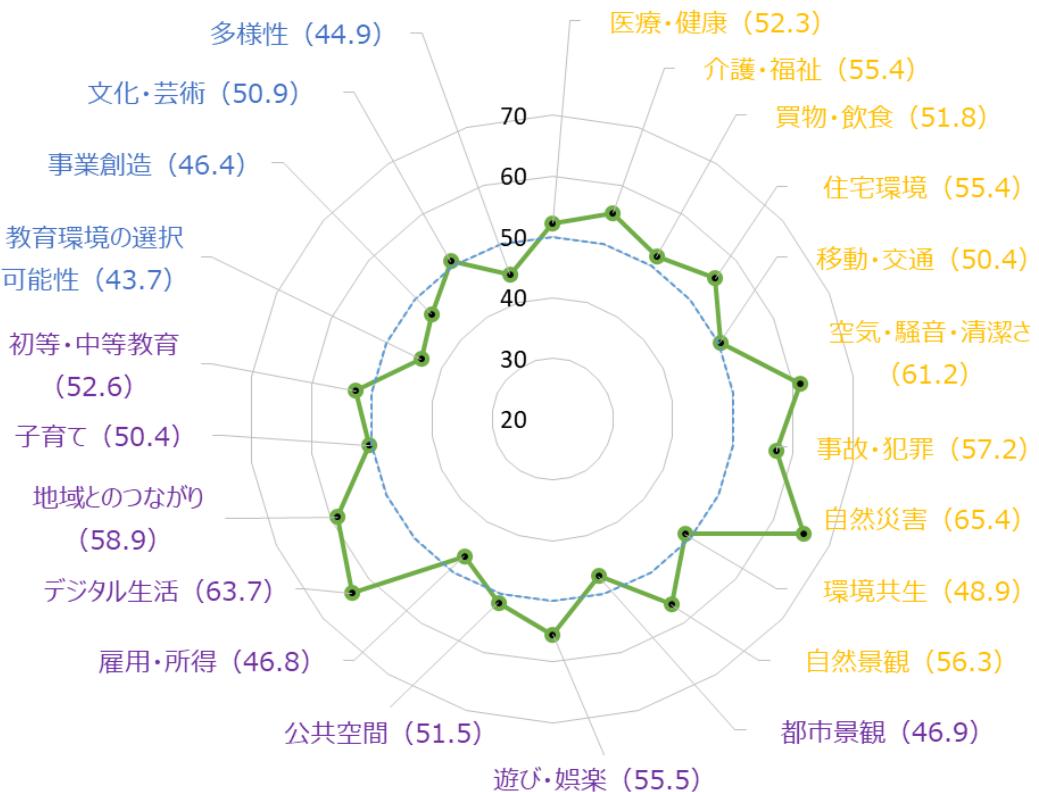
概要

人口	約12万人	高齢化率	約31%
可住地人口密度	671人/km ²	昼夜間人口比率	106%
都市の特徴・周辺地域との関わり	福島県西部一帯を占める会津地方の中心都市。北部、西部、中心部周辺は会津盆地の南東部にあたり、市街地、商業地、住宅地などのほか、水田が広がる。会津地方の東西と南北を結ぶ道路は会津若松市で交差し、鉄道でも各線が集まる会津地方の交通の要衝である。		
将来都市像	ともに歩み、ともに創る「温故創しん」会津若松：「誰もがお互いを尊重し合い、自分らしく、幸せな暮らしを営むことができる、強く、やさしいまち」、「個性と魅力をもち、連綿と続く活力あるまち」		

サマリー

- 磐梯山や猪苗代湖等、豊かな自然に恵まれ、鶴ヶ城や飯盛山をはじめとした歴史と文化の名所が揃った都市。一方、近年では、人口減少や少子高齢化による人口構造の変化や人材の流出等の課題に直面している。
- このような背景のもと、会津若松市は2013年から「スマートシティ会津若松」を掲げ、様々な分野でICTの活用を推進。地域経済の活性化や市民生活の利便性向上を目指し、デジタル情報プラットフォーム（会津若松+）の整備やICTオフィス「スマートシティAiCT」の開所等を実施。
- 会津若松市の特長は、自然災害リスクが低く、自然が豊かで空気がきれいであること。また、健康に対する意識が高い。地域とのつながりが強く、特に投票率が高い。そして、文化・芸術に関連するKPIが比較的高い。
- また、雇用の機会や事業創造が、他市と比較し低めであることから、上記スマートシティの取組みによりICT関連産業の集積や新規雇用の創出が実現されることが期待される。

カテゴリー別指標



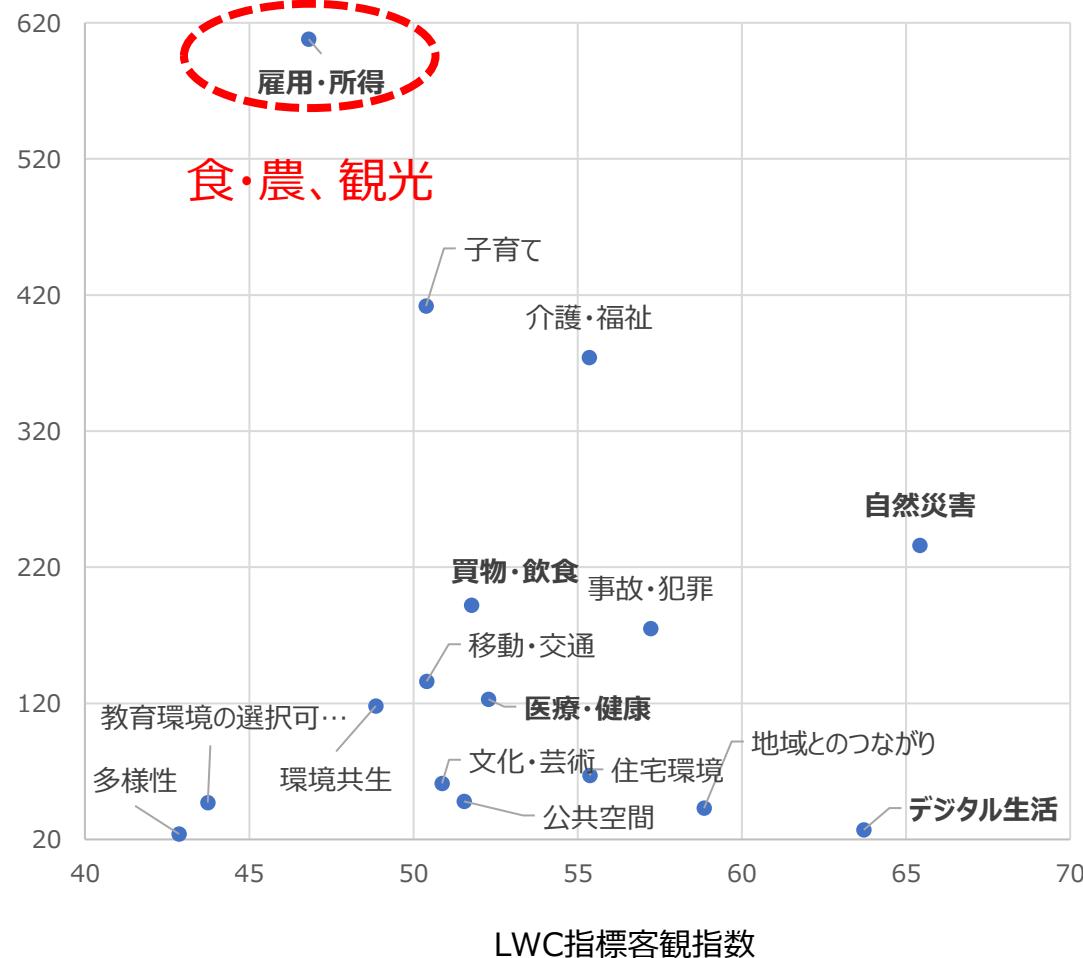
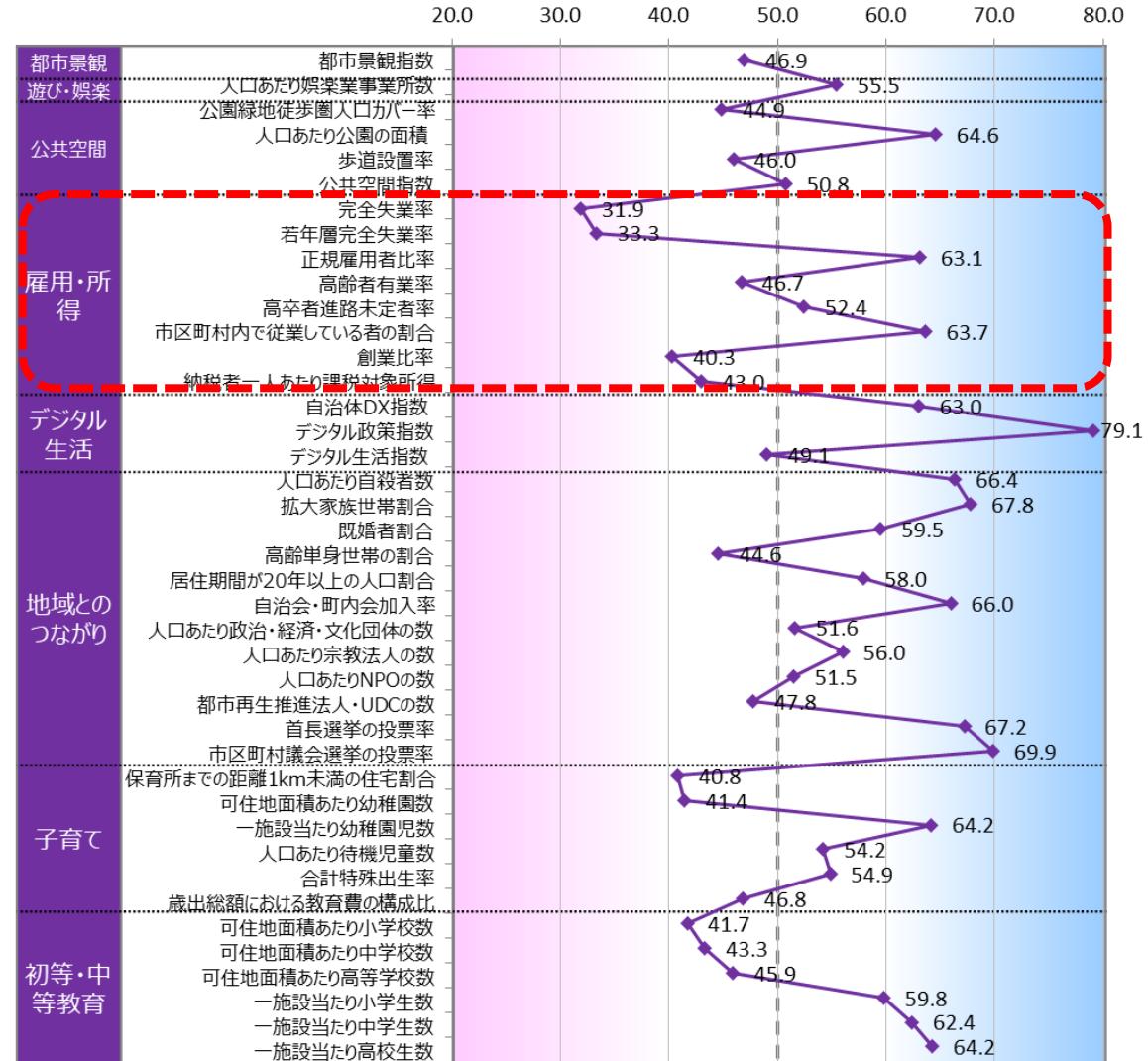
総合	身体	社会	精神
53.0	55.4	53.3	46.5

*凡例:
カテゴリー名（客観指標）
--- 平均値

LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：会津若松市



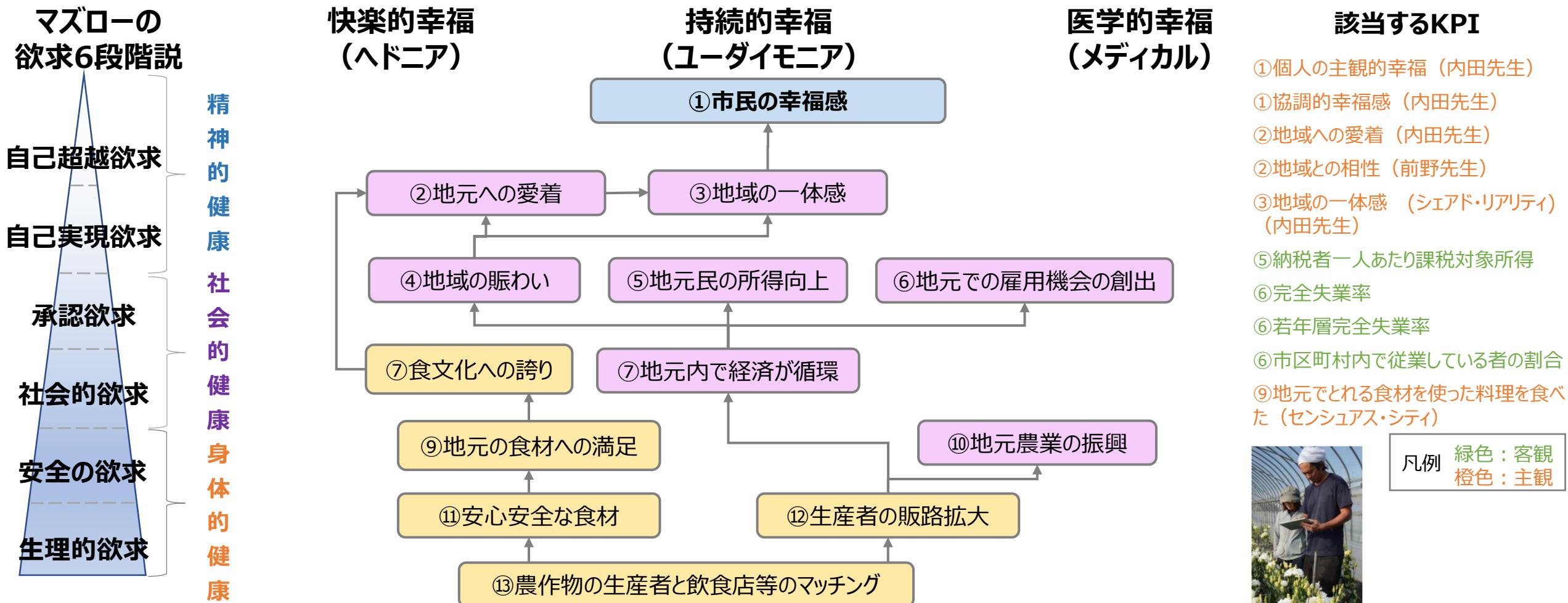
■ LWC指標の「暮らしやすさ」の指標では、デジタル生活等が高い一方、雇用・所得が低めです。食・農、観光等、デジタルソリューションの創出による産業育成により市民生活を大きく向上させる可能性があります。



LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：会津若松市



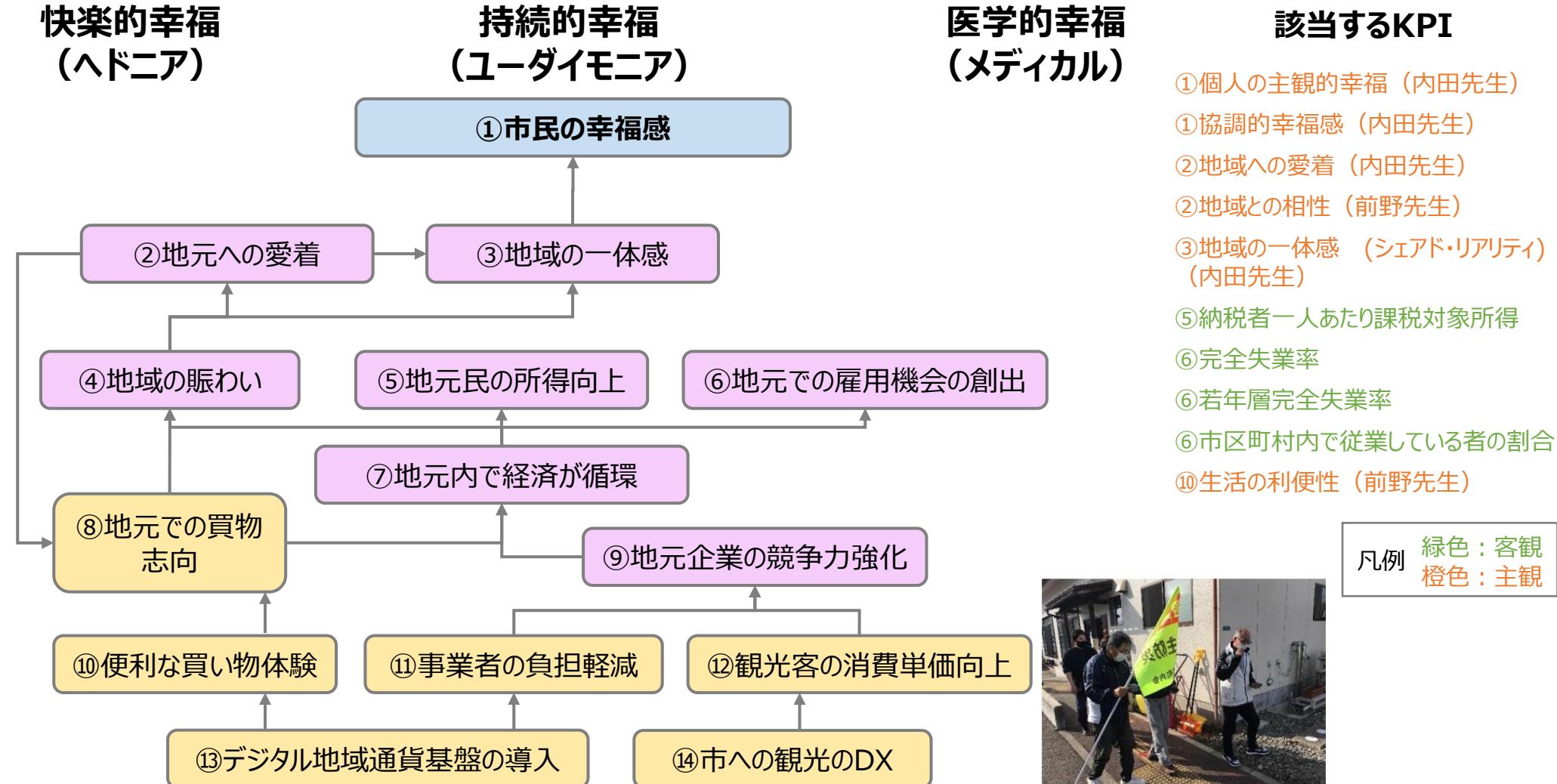
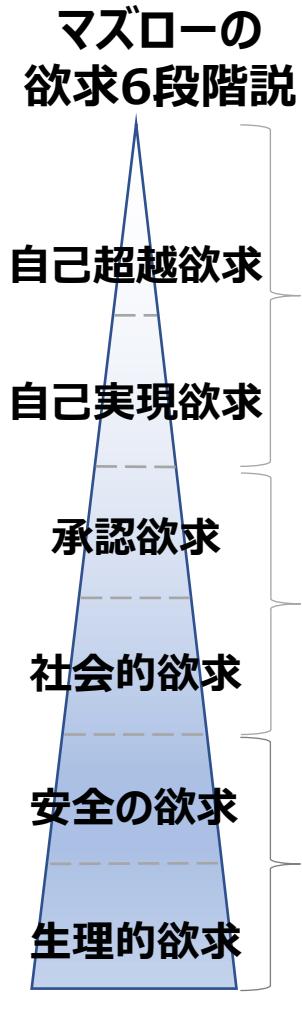
■ 食・農業に着目し、Well-being向上に向けてのストーリーをまとめてみると、地元の農家と旅館・飲食店を繋げる需給マッチングサービスは、地元の「食」への誇りを高め、かつ地元経済の好循環を生み出すことで、結果地域の一体感を促進し、幸福感を向上することが期待されます。



LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：会津若松市



■ 観光・決済においては、地域観光をパッケージ化する観光DXや地元の店舗でつかえるデジタル地域通貨は、地元経済の好循環を生み出すことで、地域の一体感を促進し、幸福感を向上することが期待されます。



LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：高松市



■ 高松市では、LWC指標を活用したワークショップを開催し、対話を基にWell-beingに向かう道筋について議論しました。

- 日時：2022年5月22日（日）13:00～17:30
- 形式：オンライン&オフライン
- 参加者：自治体の職員や企業の社員等 30名程
- テーマ：LWC指標を使ったまちづくりの構想
 - データに基づいて都市の現状を捉え、発展の道筋を考える
 - LWC指標から人々の幸福につながるまちづくりを考える
 - まちづくりの構想を論理的に考え、可視化しながら議論する
 - サービスコンセプトのアーキテクティング
- プログラム
 - イントロダクション
 - LWC指標紹介(SCIJ 南雲専務理事)
 - オンラインホワイトボードツール操作練習
 - グループごと自己紹介
 - グループワークの説明
 - 1-1 LWC指標 プロフィールをつかむ
 - 1-2 LWC指標 個別指標に注目
 - 2 政策に対する市民の期待を推測する
 - 3 どのテーマに注目するかを決める
 - 4 提供するサービスを考える
 - 全体共有・討議
 - まとめ



LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：高松市



■ 高松市においてLWC指標を活用すると、デジタル生活や環境共生が高いものの、公共空間や事故・犯罪、医療・健康が低いことが把握できます。

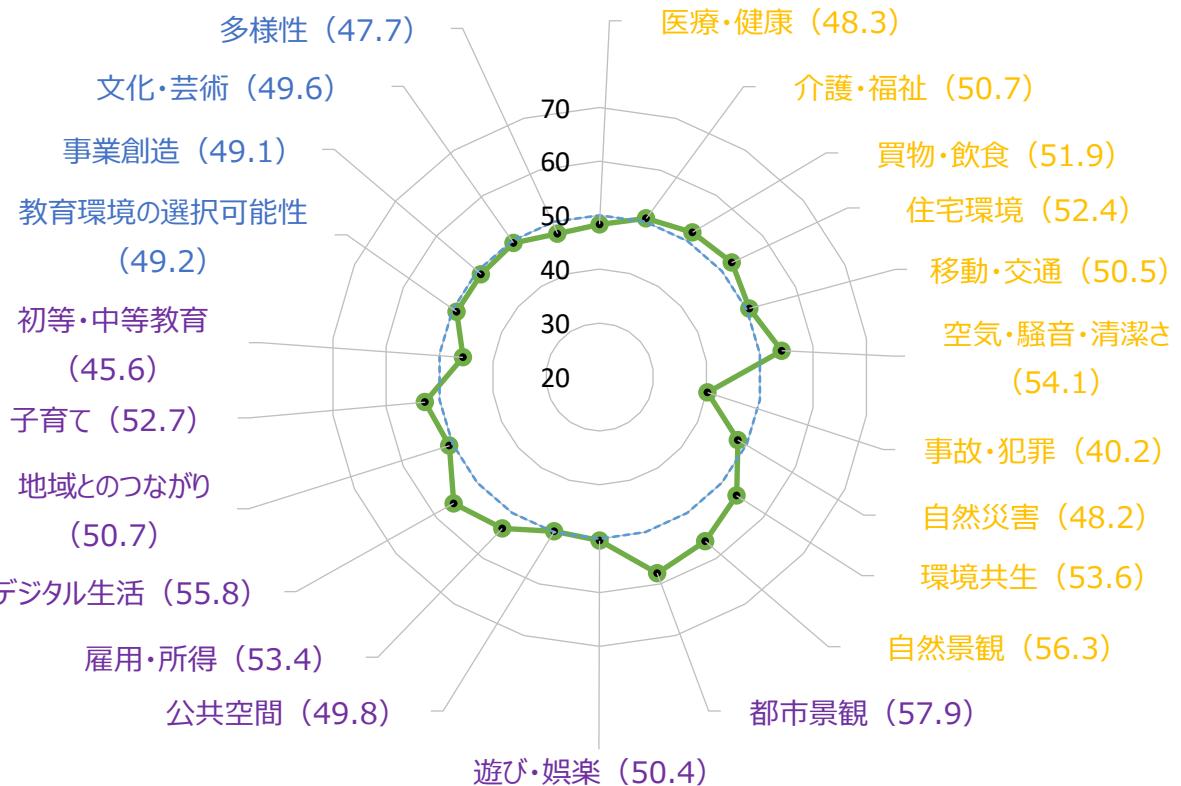
概要

人口	約41.3万人(R4.4.1)	高齢化率	約28%(R4.4.1)
可住地人口密度	約1,800人/km ² (R3年時)	昼夜間人口比率	約104%(H27年時)
都市の特徴・周辺地域との関わり	香川県の中部に位置する県庁所在地で、県最大の都市である中核市。瀬戸内海に面する港町で四国の玄関口。多くの大企業の支社や、四国電力やJR四国といった、四国を代表する企業の本社が置かれ、四国の政治経済における中心拠点。県の人口の過半数に達する四国最大の都市圏を形成。		
将来都市像	活力にあふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松		

サマリー

- 高松市は、「うどん県」のネーミングで知られる香川県の中心地。
- 日本で初めて指定された国立公園「瀬戸内海国立公園」の中心地で風光明媚でありながら、四国経済の中心都市である。また、瀬戸大橋のある坂出市までは車で40分ほどの距離で本州も通勤圏内となるなど交通の便も良い。
- デジタル化の進展が生活へ与える影響や環境共生、きれいな空気等環境への市民の満足度は高い。市民が、年間を通して寒暖の差が小さく穏やかな気候や、歴史や文化、海・山・川など恵まれた自然に愛着をもっており、関連する市の施策に対して好意的であることを示唆。
- 歴史が豊かで、港を望む城下町として有名。市民の誇りで一步一景と称えられる栗林公園は、世界中から観光客をひきつけています。
- 雇用が安定しており、地域とのつながりも強いため、市民は安心して暮らすことができていることが示唆される。

カテゴリー別指標



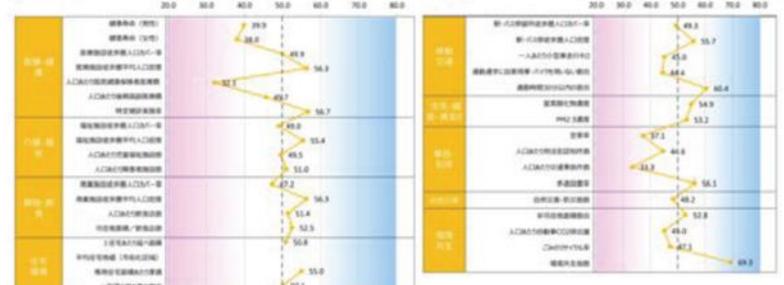
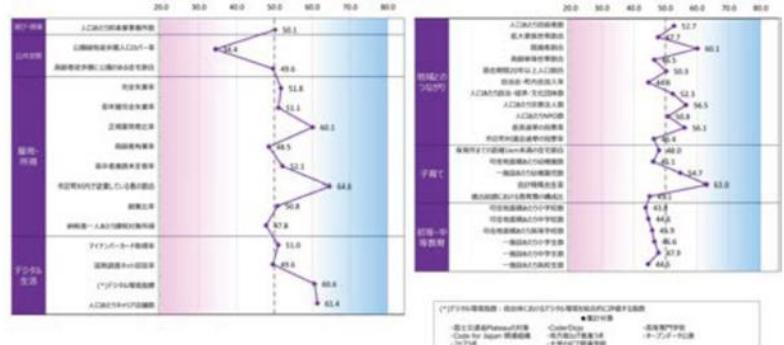
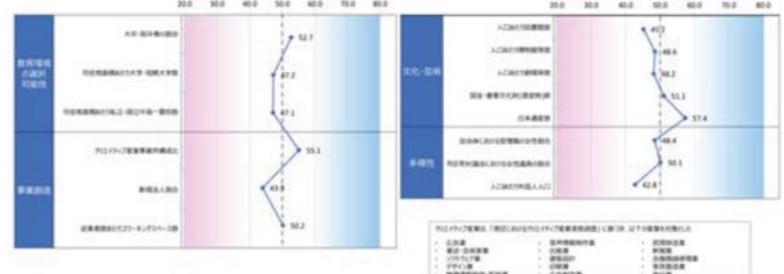
*凡例:
カテゴリー名 (客観指標)
--- 平均値

総合	身体	社会	精神
50.8	50.6	52.0	48.9

LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：高松市

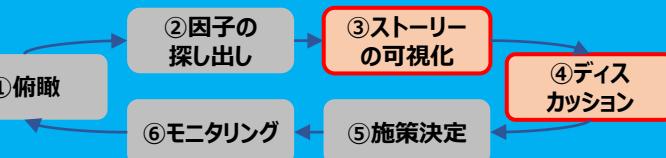


■ ワークショップでは、LWC指標の「暮らしやすさ」の指標を活用し、高松市の置かれている環境について参加者の認識をすり合わせました。特に医療・健康や移動・交通に関する項目に焦点が当たりました。



出典：慶應SDM 白坂研究室

LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：高松市



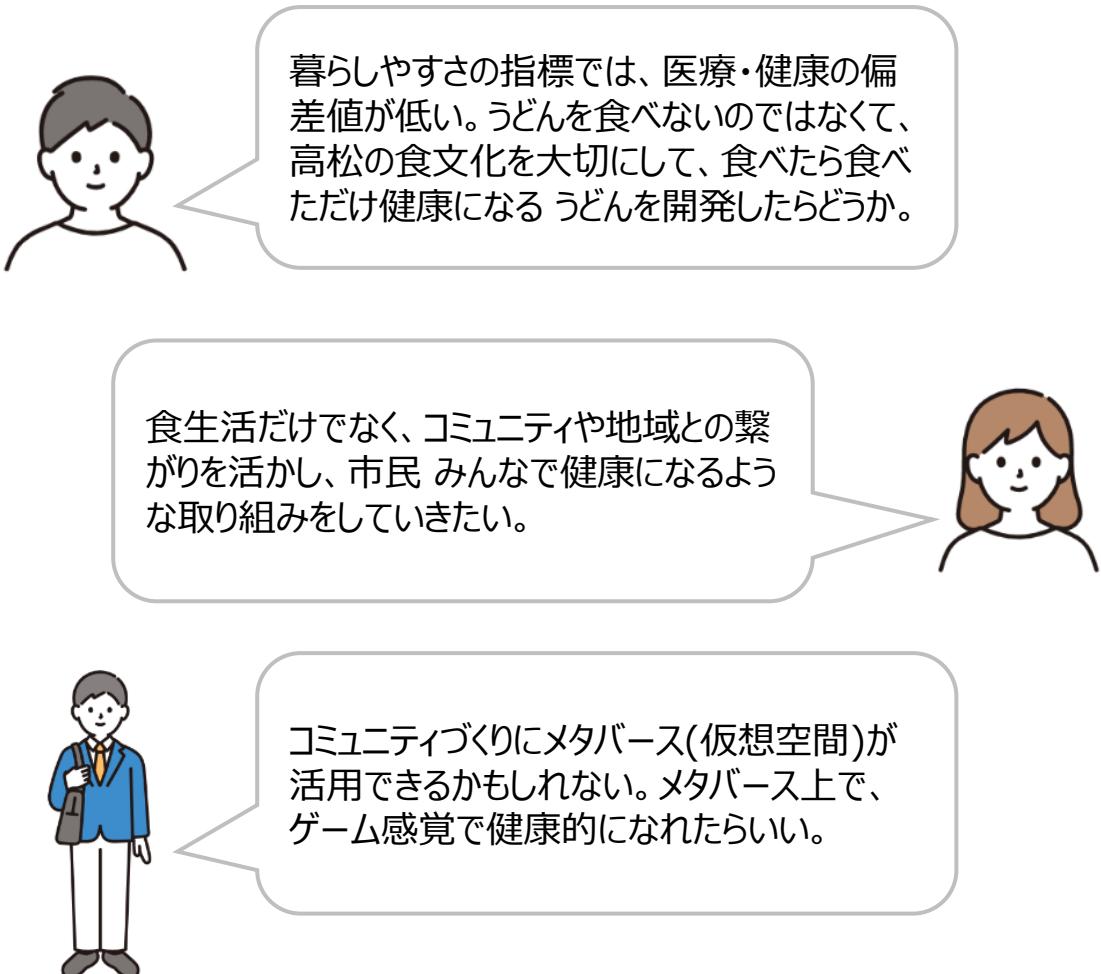
■ 対話を通してデータを基に客観的な事実から重要となる因子を抽出し、新しいサービス・体験を導出しました。

ワークショップで活用したフレームワーク

注目する人々		現在の体験	ニーズ
市民	若年層 から (手遅れになる前に)	やっていること 万歩計アプリ	課題・期待 禁止する方向では聞かない？
サービス	深掘り調査 (知る) うどん食べる頻度の調査 (食べすぎてる人の)運動の程度と糖尿病発生率 市の政策に測定している項目	サービス・体験 (つくる) コミュニティでの情報共有 低糖質美味しいうどん ゲーム感覚アプローチ	ニーズ うどんをたくさん食べても健康でいたい！
政策	注目する指標 特正健次 又高平 医療施設 徒歩圏平均 人口密度	現状認識と戦略 行政の課題 健康寿命が短い 国保・後期医療費が高い	ニーズ うどんをたくさん食べても健康でいたい！

出典：慶應SDM 白坂研究室

ワークショップでの対話



民間企業との連携事例：東京海上日動火災保険株式会社

■ 東京海上日動火災保険は、オープンデータと自社のノウハウを活用し、LWC指標の自然災害・防災に関する指数をSCI-Japanと共同で開発しました。

産官学民連携による共創

スマートシティ・インスティテュートは、社会のWell-being向上に向けた取り組みに共感したスマートシティ・インスティテュートの会員(企業、大学等)とともにLWC指標の高度化や展開促進を進めている。

東京海上日動火災保険との連携内容

■ 活用したオープンデータ

- 標高・傾斜度5次メッシュデータ
- 人口5次メッシュデータ
- 行政区域データ
- 洪水浸水想定区域データ
- 河川データ
- 低位置帯データ
- 土砂災害危険個所データ
- 土砂災害警戒区域データ
- 確率的地震動予測地図
- 指定緊急避難場所など

■ 防災領域に関するノウハウの提供

- 想定リスクの洗い出し
- リスク評価・分析
- 多様な災害対策ソリューションの把握

ノウハウやデータ等に関して
は今後、年次更新の際に
精緻化予定

開発・
高度化

自然災害・防災指数

要素

自然災害
リスク

概要

河川氾濫や土砂災害、地震動に関する
ハザードマップデータを居住人口の分布
で重み付けし、自治体ごとに数値化

防災・
減災対策

地域が主体となり行うハード・ソフト両
面の対策を取組の内容や進捗状況、市
民の関与度等の観点から数値化

自然災害
リスク



防災・
減災対策

1. デジタル田園都市国家構想におけるWell-beingとは
2. 市民の幸福感を高めるまちづくりの指標（LWC指標）について
3. LWC指標活用の手順（フロー）
4. LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース

Appendix

KPIの定義書・出典元

KPIの測定主旨・出典：医療・健康

測定主旨

- 医療機関へのアクセスが良く、混雑せずに診療をうけることが可能か？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	医療施設徒歩圏人口カバー率	2014	国土交通省「都市モニタリングシート」 (原出典：国土交通省「国土数値情報」)	-
2	医療施設徒歩圏平均人口密度	2014	国土交通省「都市モニタリングシート」 (原出典：国土交通省「国土数値情報」)	-

KPIの測定主旨・出典：医療・健康

測定主旨

- 市民は健康であるか？

	KPI	年	出典	更新頻度
3	健康寿命（平均自立期間）（男性）	2015	以下のデータをもとにスマートシティ・インスティテュートが算出 ・総務省「平成27年国勢調査結果「市区町村別・年齢階級別の総人口」」 ・厚生労働省「平成27年市区町村別生命表」 ・厚生労働省「介護保険事業状況報告・月次（平成27年9月末）」	不定期
4	健康寿命（平均自立期間）（女性）	2015	以下のデータをもとにスマートシティ・インスティテュートが算出 ・総務省「平成27年国勢調査結果「市区町村別・年齢階級別の総人口」」 ・厚生労働省「平成27年市区町村別生命表」 ・厚生労働省「介護保険事業状況報告・月次（平成27年9月末）」	不定期
5	一人あたり国民健康保険者医療費	2018	厚生労働省「医療費の地域差分析」	毎年
6	一人あたり後期高齢医療費	2018	厚生労働省「医療費の地域差分析」	毎年
7	特定健診実施率	2019	厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導の実施状況に関するデータ」	毎年

KPIの測定主旨・出典：介護・福祉

測定主旨

- 介護・福祉施設へのアクセスがよく、混雑せず十分なサービスを受けることが可能か？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	福祉施設徒歩圏人口カバー率	2015	国土交通省「都市モニタリングシート」（原出典：国土交通省「国土数値情報」、厚生労働省「介護サービス情報」）	-
2	福祉施設徒歩圏平均人口密度	2015	国土交通省「都市モニタリングシート」（原出典：国土交通省「国土数値情報」）	-
3	10万人あたり児童福祉施設数	2020	厚生労働省「社会福祉施設等調査」 人口は総務省「令和2年国勢調査」の値	毎年
4	10万人あたり障害者支援施設数	2017	厚生労働省「社会福祉施設等調査」 人口は総務省「令和2年国勢調査」の値	毎年

KPIの測定主旨・出典：買物・飲食

測定主旨

- 日常必需品へのアクセスがよく、混雑せず十分なサービスを受けることが可能か？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	商業施設徒歩圏人口カバー率	2014	国土交通省「都市モニタリングシート」（原出典：経済産業省「商業統計メッシュデータ」）	-
2	商業施設徒歩圏平均人口密度	2014	国土交通省「都市モニタリングシート」（原出典：経済産業省「商業統計メッシュデータ」）	-

KPIの測定主旨・出典：買物・飲食

測定主旨

- 飲食店へのアクセスがよく、混雑せず十分なサービスを受けることが可能か？

	KPI	年	出典	更新頻度
3	千人あたり飲食店数	2016	「飲食店数」を総務省「社会・人口統計体系」から入手（原出典：総務省「経済センサス-活動調査」） 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	毎年
4	可住地面積／飲食店数	2016	「飲食店数」を総務省「社会・人口統計体系」から入手（原出典：総務省「経済センサス-活動調査」） 可住地面積は総務省「社会・人口統計体系」より（原出典：国土交通省「全国都道府県市区町村別面積調」）	毎年

KPIの測定主旨・出典：住宅環境

測定主旨

- 適度な価格で、十分な広さの居住空間を確保できるか？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	住宅当たり延べ面積	2018	総務省「社会・人口統計体系」（原出典：総務省「住宅・土地統計調査」）	5年毎
2	平均価格（住宅地）	2021	国土交通省「地価公示」ページの「変動率及び平均価格の時系列推移表」	毎年
3	専用住宅1m ² あたり家賃	2018	総務省「住宅・土地統計調査」	5年毎
4	一戸建の持ち家の割合	2018	総務省「住宅・土地統計調査」	5年毎

KPIの測定主旨・出典：移動・交通

測定主旨

- 公共交通機関へのアクセスが良く、自家用車に依存し過ぎない生活は可能か？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率	2016	国土交通省「都市モニタリングシート」 (原出典：国土交通省「国土数値情報」)	-
2	駅およびバス停徒歩圏（800m、300m）人口密度	2017	国土交通省「都市モニタリングシート」 (原出典：国土交通省「国土数値情報」)	-
3	一人当たり小型車走行キロ	2015	国土交通省「全国道路・街路交通情勢調査」	5年毎
4	通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーを用いない割合	2010	総務省「国勢調査」	10年毎

KPIの測定主旨・出典：移動・交通

測定主旨

- 通勤時間は過度な負担ではないか？

	KPI	年	出典	更新頻度
5	職場までの平均通勤時間	2018	総務省「住宅・土地統計調査」	5年毎

KPIの測定主旨・出典：空気・騒音・清潔さ

測定主旨

- ・ 公害が少ないか？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	窒素酸化 (NOx) 年平均値	2019	国立環境研究所「大気環境月間値・年間値データ」	毎年
2	微小粒子状物質(PM2.5)年平均値	2019	国立環境研究所「大気環境月間値・年間値データ」	毎年

KPIの測定主旨・出典：事故・犯罪

測定主旨

- 交通事故が少ないか？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	千人当たり交通事故件数	~2020	各都道府県HP及び市区町村HP 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	毎年

KPIの測定主旨・出典：事故・犯罪

測定主旨

- 犯罪が少ないか？

	KPI	年	出典	更新頻度
2	空家率	2018	総務省「住宅・土地統計調査」	5年毎
3	千人当たり刑法犯認知件数	~2020	各都道府県HP及び市区町村HP 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	毎年

KPIの測定主旨・出典：自然災害

測定主旨

- ・ 自然災害のリスクが低く、対策が充実しているか？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	自然災害・防災指数	—	250mメッシュで自然災害（地震・水害）リスクならびに自治体による防災対応力を算出し、人口密度で加重平均をとることで指数化	—

KPIの測定主旨・出典：環境共生

測定主旨

- 地球環境への負荷が高くはないか？

	KPI	年/月	出典	更新頻度
1	非可住地面積割合（総面積－可住地面積）	2018	総務省「社会・人口統計体系」の「総面積」及び「可住地面積」より算出（原出典：国土交通省「全国都道府県市区町村別面積調」）	毎年
2	年間CO2排出量	2019	環境省「部門別CO2排出量の現況推計」	毎年
3	ごみのリサイクル率	2020	環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」	毎年
4	環境共生指数	下段参照	（施策等の有無を1か0で表した）下段KPIの合計	下段参照
4a	SDGs未来都市	2021	内閣官房・内閣府総合サイト地方創生「地方創生SDGs・「環境未来都市」構想」	毎年
4b	2050年CO2排出実質ゼロ表明	2021/10	環境省「地方公共団体における2050年二酸化炭素排出実質ゼロ表明の状況」	不定期
4c	「地域循環共生圏実践地域」活動団体	2022	環境省「ローカルSDGs 各地域の取組をみてみよう – 地域循環共生圏実践地域の紹介 – 」	不定期
4d	気候変動イニシアティブへの参加	2021/11	気候変動イニシアティブHP「参加団体一覧」	不定期
4e	脱炭素先行地域	2022	環境省「脱炭素先行地域選定結果（第1回）」	毎年

KPIの測定主旨・出典：自然景観

測定主旨

- 綺麗な自然の景色があるか？

KPIの測定主旨・出典：都市景観

測定主旨

- 素敵な都市景観があるか？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	都市景観指数	下段参照	(施策等の有無を1か0で表した) 下段KPIの合計	下段参照
1a	「都市景観大賞」受賞の市区町村	2011-2021	国土交通省「都市景観大賞」において「都市空間部門」の「大賞」、「特別賞」、「優秀賞」を授賞した地区の市区町村	毎年
1b	景観条例の有無	2021	景観行政ネットHP「景観法に基づく景観条例等一覧」	-
1c	景観重要建造物の有無	2021	国土交通省「景観法の施行状況（令和3年3月31日時点）」	-
1d	景観協定の有無	2021	国土交通省「景観法の施行状況（令和3年3月31日時点）」	-

KPIの測定主旨・出典：遊び・娯楽

測定主旨

- 娯楽の機会が十分にあるか？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	10万人あたり娯楽業事業所数	2016	総務省「経済センサス-活動調査」より「娯楽業」の事業所数を入手。 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	5年毎

KPIの測定主旨・出典：公共空間

測定主旨

- 公園や緑地等の公共空間が、混み過ぎず、かつ徒歩圏に存在するか？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	公園緑地徒歩圏人口カバー率	2011	国土交通省「都市モニタリングシート」 (原出典：国土交通省「国土数値情報」)	—
2	人口あたり公園の面積	2019	総務省「公共施設状況調経年比較表」より公園の面積を入手 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	—

KPIの測定主旨・出典：公共空間

測定主旨

- 歩きたくなる街並みか？

KPIの測定主旨・出典：雇用・所得

測定主旨

- 十分な雇用機会があるか？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	完全失業率	2015	総務省「社会・人口統計体系」(原出典：総務省「国勢調査」)	5年毎
2	若年層完全失業率	2015	総務省「国勢調査」	5年毎
3	正規雇用者比率	2015	総務省「社会・人口統計体系」(原出典：総務省「国勢調査」)	5年毎
4	高齢者有業率	2015	総務省「社会・人口統計体系」(原出典：総務省「国勢調査」)	5年毎
5	高卒者進路未定者率	2019	文部科学省「学校基本統計」	毎年
6	市区町村内で従業している者の割合	2015	総務省「社会・人口統計体系」(原出典：総務省「国勢調査」)	5年毎
7	創業比率	2014~2016	経済産業省・内閣府「RESAS（地域経済分析システム）」	-

KPIの測定主旨・出典：雇用・所得

測定主旨

- 適切な水準の所得を得られるか？

	KPI	年	出典	更新頻度
8	納税者一人あたり課税対象所得	2020	総務省「市町村税課税状況等の調」の「所得割の納税義務者数」及び「課税対象所得」から算出	毎年

KPIの測定主旨・出典：デジタル生活

測定主旨

- 行政がデジタルの利活用を推進しているか？

	KPI	年/月	出典	更新頻度
1	自治体DX指数	2021	総務省「自治体DX・情報化推進概要」 KPIに該当する自治体は1点、しない自治体は0点を配点。カテゴリー（「自治体DXの推進体制等」、「行政サービスの向上・高度化」等）ごとに平均値を算出。5カテゴリーの合計を指数として採用	毎年
2	デジタル政策指数	下段参照	(施策等の有無を1か0で表した) 下段KPIの合計	下段参照
2a	国土交通省Plateauの対象都市	2021/03	国土交通省「Project PLATEAU ver1.0 をリリース—全国56 都市の3D 都市モデル整備とユースケース開発が完了—」	—
2b	地方版IoT推進ラボの有無	2021/08	「地方版IoT推進ラボ」ウェブサイト内「地域から選ぶ」	—
2c	自治体オープンデータの有無	2021/10	デジタル庁HP「オープンデータ取組済自治体一覧」	不定期
2d	ローカル5G開発実証事業採択の有無	2021	令和3年度「課題解決型ローカル5G等の実現に向けた開発実証」に係る実証提案の公募の結果	—
2e	スマートシティ合同審査結果	2021	経済産業省「令和3年度のスマートシティ関連事業の選定結果」	毎年
2f	マイナンバーカード取得率	2021/09	総務省HP「マイナンバー制度とマイナンバーカード」 最大値（最も取得率が高い自治体）と比較した割合を0～1で表している	毎月
2g	国勢調査ネット回答率	2020	総務省統計局HP「令和2年国勢調査の概要」 最大値（最も回答率が高い自治体）と比較した割合を0～1で表している	5年毎

KPIの測定主旨・出典：デジタル生活

測定主旨

- デジタルが活用されるための環境が整っているか？

	KPI	年/月	出典	更新頻度
3	デジタル生活指数	下段参照	(施策等の有無を1か0で表した) 下段KPIの合計	下段参照
3a	Code forの団体の有無	2021/08	「Code for Japan」のウェブサイト内「Brigadeネットワーク参加団体」	不定期
3b	ファブラボの有無	2021/08	「FabLab Japan」のウェブサイト内「FabLabs in Japan」	不定期
3c	CoderDojoの有無	2021/08	「CoderDojo Japan」のウェブサイト内「日本各地の道場」	不定期
3d	大学のICT関連学部の有無	2017/03	文部科学省「超スマート社会における情報教育の在り方に関する調査研究」	—
3e	高等専門学校の有無	2021/08	文部科学省ウェブサイト内「関係機関リンク集」>「国公私立高等専門学校」	不定期
3f	10万人あたり通信キャリア店舗数	2022/04	キャリア4社HPをもとにSCI-Jが独自集計 人口は2020年総務省「国勢調査」の値 最大値（最も店舗数が多い自治体）と比較した割合を0～1で表している	不定期

KPIの測定主旨・出典：地域とのつながり

測定主旨

- 孤独や少ないか？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	拡大家族世帯割合	2020	総務省「国勢調査」	5年毎
2	10万人あたり自殺者数	2021	厚生労働「地域における自殺の基礎資料」 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	毎年
3	高齢単身世帯の割合	2020	総務省「国勢調査」	5年毎
4	既婚者割合（15歳以上人口）	2015	総務省「社会・人口統計体系」における「未婚者割合」より算出 (原出典：総務省「国勢調査」)	5年毎

KPIの測定主旨・出典：地域とのつながり

測定主旨

- 地域の人と交流する機会があるか？

	KPI	年/月	出典	更新頻度
5	居住期間が20年以上の人口割合	2015	総務省「国勢調査」世帯構造等基本集計	5年毎
6	自治会・町内会加入率	~2022	都道府県HP及び市区町村HPをもとにSCI-Jが独自集計 *自治会・町内会加入率は各自治体の定義を採用	不定期
7	10万人あたり政治・経済・文化団体の数	2016	総務省「経済センサス」-活動調査における「政治・経済・文化団体」の事業所数 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	5年毎
8	10万人あたり宗教の事業所数	2016	総務省「経済センサス」-活動調査における「宗教」の事業所数 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	5年毎
9	10万人あたりNPOの数	2022/04	内閣府「NPO法人ポータルサイト」において「主たる事務所の所在地」が当該都市内の法人数 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	不定期
10	10万人あたり都市再生推進法人・アーバンデザインセンター（UDC）の数	2021/2022	都市再生推進法人の数は、官民連携まちづくりポータルサイト「都市再生推進法人一覧」（2022年3月時点） UDCの数は、UDCイニシアチブHP「全国のUDC」（2021年4月時点） 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	不定期

KPIの測定主旨・出典：地域とのつながり

測定主旨

- ・ 地方自治に対する市民の意識は高いか？

KPIの測定主旨・出典：子育て

測定主旨

- ・ 子育てを支援する施設へのアクセスが良く、施設規模も適切か？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	最寄りの保育所までの距離が1000m未満の住宅の割合	2018	総務省「住宅・土地統計調査」	5年毎
2	幼稚園数（可住地面積100km ² あたり）	2019	文部科学省「学校基本統計」 可住地面積は総務省「社会・人口統計体系」より（原出典：国土交通省「全国都道府県市区町村別面積調」）	毎年
3	一施設当たり幼稚園児数	2019	文部科学省「学校基本統計」	毎年
4	10万人あたり待機児童数	2021	厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ（令和3年4月1日）」	毎年
5	歳出総額における教育費の構成比	2020	総務省「地方財政状況調査」	毎年
6	合計特殊出生率	2013~2017	厚生労働省「人口動態統計特殊報告」	毎年

KPIの測定主旨・出典：初等・中等教育

測定主旨

- ・ 小学校、中学校、高校へのアクセスが良く、施設規模も適切か？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	小学校数（可住地面積100km ² あたり）	2020	文部科学省「学校基本統計」 可住地面積は総務省「社会・人口統計体系」より（原出典：国土 交通省「全国都道府県市区町村別面積調」）（2019年）	毎年
2	中学校数（可住地面積100km ² あたり）	2020	文部科学省「学校基本統計」 可住地面積は総務省「社会・人口統計体系」より（原出典：国土 交通省「全国都道府県市区町村別面積調」）（2019年）	毎年
3	高等学校数（可住地面積100km ² あたり）	2020	文部科学省「学校基本統計」 可住地面積は総務省「社会・人口統計体系」より（原出典：国土 交通省「全国都道府県市区町村別面積調」）（2019年）	毎年
4	一施設当たり小学生数	2020	文部科学省「学校基本統計」	毎年
5	一施設当たり中学生数	2020	文部科学省「学校基本統計」	毎年
6	一施設当たり高校生数	2020	文部科学省「学校基本統計」	毎年

KPIの測定主旨・出典：教育環境の選択可能性

測定主旨

- 地域の教育水準は高く、教育の選択肢が多いか？

	KPI	年/月	出典	更新頻度
1	大卒・院卒者の割合	2010	総務省「社会・人口統計体系」より「最終学歴人口（大学・大学院）」を入手（原出典：総務省「国勢調査」） 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	10年毎
2	大学・短期大学の数（可住地面積100km ² あたり）	2021	文部科学省「大学・短期大学・高等専門学校・学校法人一覧」 可住地面積は総務省「社会・人口統計体系」より（原出典：国土交通省「全国都道府県市区町村別面積調」）	毎年
3	可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数	2017 2021/11	私立高校は文部科学省「高等学校教育の改革に関する推進状況について」（2017年3月） 国立高校はナレッジステーションHP「国立高校一覧」（2021年11月時点） 可住地面積は総務省「社会・人口統計体系」より（原出典：国土交通省「全国都道府県市区町村別面積調」）（2019年）	-

KPIの測定主旨・出典：事業創造

測定主旨

- ・スタートアップが振興する環境があるか？

KPIの測定主旨・出典：文化・芸術

測定主旨

- 芸術家が多く集まっているか？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	従業者数における芸術家・著述家等の割合	2015	総務省「国勢調査」において職業分類が「著述家、記者、編集者」、「美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者」及び「音楽家、舞台芸術家」の割合 総従業者数も総務省「国勢調査」	5年毎

KPIの測定主旨・出典：文化・芸術

測定主旨

- ・ 文化施設が多く存在するか？

	KPI	年	出典	更新頻度
2	10万人あたり図書館の数	2018	総務省「社会・人口統計体系」における「図書館数（人口100万人当たり）」から算出（原出典：文部科学省「社会教育統計」）	不定期
3	10万人あたり博物館等の数	2018	文部科学省「社会教育統計」における「博物館」及び「博物館類似施設」の合計 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	3年毎
4	10万人あたり劇場、音楽堂の数	2018	文部科学省「社会教育統計」における「劇場、音楽堂等」 人口は2020年総務省「国勢調査」の値	3年毎
5	国宝・重要文化財（建造物）の数	2020	文化庁「国指定文化財等データベース」	不定期
6	日本遺産の数	2021	文化庁「日本遺産ポータルサイト」をもとにスマートシティ・インスティテュートが独自集計	不定期

KPIの測定主旨・出典：多様性

測定主旨

- 多様な社会を実現できているか？

	KPI	年	出典	更新頻度
1	市区町村議会における女性議員の割合	2020/12	総務省 地方公共団体の議会の議員及び長の所属党派別人員調、割合は総務省資料より作成	毎年
2	自治体における管理職の女性割合	2021/04	内閣府 地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況	毎年
3	自治体職員における障害者の割合	2021	令和3年 障害者雇用状況の集計結果（市町村ごとの状況は各労働局にて公表）	—
4	10万人あたり外国人人口	2020	総務省「国勢調査」	5年毎
5	多様性指数	下段参照	(施策等の有無を1か0で表した) 下段KPIの合計	下段参照
5a	パートナーシップ宣誓制度の有無	2021	一般社団法人日本LGBTサポート協会「パートナーシップ宣誓制度について」(2021年10月時点)	不定期
5b	市民の平均年齢が45歳以下	2020	総務省「国勢調査 人口等基本集計」	5年毎

アンケート調査 設問一覧表

地域生活のWell-being【個人因子】の設問一覧

- 各設問の回答形式は、「非常にあてはまる」、「ある程度あてはまる」、「どちらとも言えない」、「あまりあてはまらない」、「全くあてはまらない」の5件法です。
- 回答する地域（範囲）を定めるため、「あなたが暮らしている地域（〇〇〇）についてお答えください」と教示します。

ダイナミズムと誇り	暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	健康状態	私は、精神的に健康な状態である
	暮らしている地域では、新たな発見や刺激が得られる		私は、身体的に健康な状態である
	暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある		私は、日々の生活において、笑うことが多い
生活の利便性	暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない	地域との相性	自宅近辺の街並みは、私の好みに合っている
	暮らしている地域は、医療機関が充実している		暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい
	暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である		暮らしている地域の時間の流れ方は、自分に合っている気がする
自然の体感	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる	地域行政への信頼	暮らしている地域の政策には、賛同できる
	暮らしている地域には、自然と向き合う喜びがある		暮らしている地域行政は、地域のことを真剣に考えていると思う
	暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる		暮らしている地域の自治体窓口（役場など）は、親切で好感が持てる
居住空間の快適さ	自宅の間取りは、使い勝手がよく快適である	生活ルールの秩序	暮らしている地域は、路上にゴミを捨てる人が多い
	自宅の外観（庭等を含む）には満足している		暮らしている地域は、ゴミ出しや生活ルールを守らない人が多い
	自宅には、心地のいい居場所がある		自宅の近辺は、騒音に悩まされている
つながりと感謝	暮らしている地域には、気の合う仲間や知り合いがいる	過干渉と不寛容	暮らしている地域では、住民同士が過干渉でしがらみが多い
	暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる		暮らしている地域では、少しでも変わった事をすると周りからとやかく言われる
	私は、近所の方に感謝することが多い		暮らしている地域の住民は、地域外から来た人には疑いの目を向ける

協調的幸福【協調因子】の設問一覧

■ 赤字の設問を除き、各設問の回答形式、「そう思う」、「どちらかというとそう思う」、「どちらでもない」、「どちらかといふとそう思わない」、「どちらかといふとそう思わない」の5件法です。

地域内の社会 関係資本	地域内信頼	私は同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している。 町内（集落）に住む人たちは、基本的に誠実に振る舞う。 私は自分の地域の役所が行う仕事を信頼している。 お世話になった町内（集落）の人の頼みを断ってはいけないとと思う。	地域の一体感 (シェアド・リアリティ)	自尊心	自分にはいろいろな良い素質があると思う。 自分のことを好ましく感じる。
	地域内互酬性の規範	この町内（集落）には、お互いの役に立つことを求める雰囲気がある。 この町内（集落）には、いざという時に助け合う雰囲気がある。		地域への愛着	私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている。 私は、町内（集落）の人人が自分をどう思っているかが気になる。
	地域内サポート受領	町内（集落）には、私の心配事や愚痴を聞いてくれる人がいる。 町内（集落）には、私に必要なものを貸してくれる人がいる。 あなたの住んでいる町内（集落）における活動のうち、あなたが通常参加しているもの全ての番号に○をつけてください。		相互協調性	私は、町内（集落）の人と意見が対立することを避ける。 私は、自分の考えや行動が町内（集落）の他者と違っていても気にならない。
	地域内集合活動	1. 自治会、2. 地域行事（例：祭りや運動会・文化祭）、3. 趣味関係の活動、4. 自主防災活動、5. 自主介護活動（例：見守り隊・配食サービス）、6. 同年代グループの活動（例：老人会や青年会）、7. 同性グループの活動（例：婦人会）、8. 同業者グループの活動、9. 地域資源の保全（河川・水路の保全など）、10. 冠婚葬祭の手伝い、11. ごみの分別活動、12. その他の活動・イベント（ ）		相互独立性	私は、自分がいいと思うのならば、町内（集落）の他の人が自分の考えを何と思おうと気にしない。
	個人の主観的幸福	現在、あなたはどの程度幸せですか？「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とする、何点くらいになると思いますか？いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。		近隣地域への信頼	私は近隣の町（集落）に住む人たちを信頼している。 私は近隣の町（集落）に住む人たちは、基本的に誠実に振る舞うと思う。
地域の幸福	個人の主観的健康	現在のあなたの健康状態はいかがですか。「とても良い」を10点、「とても悪い」を0点として、いずれかの数字を1つだけお答えください。	異質性・多様性への寛容さ	一般的信頼	私は見知らぬ他者であっても信頼する。 ほとんどの人は、基本的に誠実に振る舞う。
	地域内他者の幸福	あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれぐらい幸せだと思いますか？「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。全く分からぬ場合には「×」を○で囲んでください。ここでは自分の同居家族は除いて考えてください。		民主主義	この町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある。
	協調的幸福感	自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う。 大切な人を幸せにしていると思う。 大きな悩み事はない。 周りの人に認められていると感じる。 平凡だが安定した日々を過ごしている。 人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができる。 まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う。 まわりの人並みの生活は手に入れている自信がある。 まわりの人たちと同じくらい、それなりにうまくいっている。		地域の開放性	私は、町外（集落外）からやってきた人が町内（集落）に定住することは喜ばしいと思う。
	運命共同体 実体性知覚	この町内（集落）の人は、私の人生において切っても切れない関係にある。 この町内（集落）は、結束力のある集まりだと思う。		地域内サポート 提供	私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする。 私は、必要とされれば、町内（集落）の人の相談に乗る。
	文化的タイトネス	この町内（集落）の人々は、たいていの場合、どんな行動がふさわしいか、ふさわしくないか、みんなが同じ意見を持っている。		主体的な発案・ 提案行動	私は、ささいなことでも、町内（集落）の役に立つことを提案する。
地域の一体感 (シェアド・リアリティ)	運命共同体 実体性知覚	この町内（集落）の人は、私の人生において切っても切れない関係にある。 この町内（集落）は、結束力のある集まりだと思う。	向社会的行動	促進的貢献	私は、町内（集落）を良くするために、今より良いやり方を思いつく。
	文化的タイトネス	この町内（集落）の人々は、たいていの場合、どんな行動がふさわしいか、ふさわしくないか、みんなが同じ意見を持っている。		予防的貢献	私は、町内（集落）において、役割を果たしたり貢献できたりする、活動的な一員だ。
	運命共同体 実体性知覚	この町内（集落）の人は、私の人生において切っても切れない関係にある。 この町内（集落）は、結束力のある集まりだと思う。		近隣地域への サポート提供	私は、近隣の町（集落）に住む人が困っていたら手助けをする。
	文化的タイトネス	この町内（集落）の人々は、たいていの場合、どんな行動がふさわしいか、ふさわしくないか、みんなが同じ意見を持っている。		一般的サポート 提供	私は、見知らぬ人が困っていたら手助けをする。
	運命共同体 実体性知覚	この町内（集落）の人は、私の人生において切っても切れない関係にある。 この町内（集落）は、結束力のある集まりだと思う。		将来の見通し	このままでは、この町内（集落）が将来、現状より悪くなってしまうと思う。
モティベーション	運命共同体 実体性知覚	この町内（集落）の人は、私の人生において切っても切れない関係にある。 この町内（集落）は、結束力のある集まりだと思う。	多世代共創	後継世代への継承	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい。
	文化的タイトネス	この町内（集落）の人々は、たいていの場合、どんな行動がふさわしいか、ふさわしくないか、みんなが同じ意見を持っている。		温故知新（伝統と革新）	町内（集落）が過去から受け継いできた伝統を受け継いでいくべきだ。 伝統に縛られずに、新しい文化をつくるべきだ。
	運命共同体 実体性知覚	この町内（集落）の人は、私の人生において切っても切れない関係にある。 この町内（集落）は、結束力のある集まりだと思う。		モティベーションの 持ち方	町外（集落外）から、違った考え方や価値観を取り入れるべきだ。
	文化的タイトネス	この町内（集落）の人々は、たいていの場合、どんな行動がふさわしいか、ふさわしくないか、みんなが同じ意見を持っている。		モティベーションの 持ち方	私は、失敗しないことや迷惑をかけないことを重視している。 私は、成功することや新しい事を実施することを重視している。
	運命共同体 実体性知覚	この町内（集落）の人は、私の人生において切っても切れない関係にある。 この町内（集落）は、結束力のある集まりと思う。		モティベーションの 持ち方	私は、成功することや新しい事を実施することを重視している。

ActiveQoL【行動因子】の設問一覧

- 【A】の回答形式は、10の行動因子それぞれについて、「満足」、「やや満足」、「どちらでもない」、「やや不満」、「不満」、「行っていない」の6件法。
- 【B】の回答形式は、【A】で「行っていない」と答えた活動以外の活動に関する選択制。
- 【C】の回答形式は、【A】に示す10の行動因子すべてに対する選択制。

直近1ヶ月の間に行った活動に対する平均の満足度を5段階で入力してください。
複数のカテゴリに当てはまる活動はそれぞれのカテゴリに含めて回答してください。
(5:満足, 4: やや満足, 3: どちらでもない, 2: やや不満, 1: 不満, 0: 行っていない)

1. 仕事
2. 学業・学習・習い事
3. 病院への受診・療養、家族の介護・看護
4. 子育て（義務教育まで）
5. 自宅外での食事
6. 買い物
7. 運動・スポーツ
8. 遊び・娯楽
9. 地域とのつながりがある活動
10. 文化芸術にふれる活動

【A】

直近1ヶ月の間に行った活動の状況で当てはまるものを全て選んでください。
(選択肢：Aで「行っていない」と答えた活動以外の活動)

1. 自宅から徒歩圏内で行った活動
2. 通勤通学圏内で行った活動
3. インターネットやデジタルサービス等で行った活動
4. 誰かと一緒に行った活動
5. 一人で行った活動
6. 十分な時間行えた活動
7. 短時間で行えた活動
8. 自宅のある市区町村で行ったやや満足・とても満足に取り組めたと思う活動
9. 活動の前後の移動がやや満足・とても満足だった活動

【B】

現在行っていない活動も含めて、当てはまる項目を全て選んでください。
(選択肢：Aに示す10活動全て)

1. 取り組むのが好きな活動
2. 取り組むのが嫌いな活動
3. 身体的・心理的課題・悩みを抱えている活動
4. 自宅から徒歩圏内で取り組みたい活動
5. 通勤通学圏内で取り組みたい活動
6. インターネットやデジタルサービス等で取り組みたい活動
7. 誰かと一緒に取り組みたい活動
8. 一人で取り組みたい活動
9. 十分な時間を確保して取り組みたい活動
10. できるだけ短時間で取り組みたい活動

【C】

センシュアス・シティ【行動因子】・寛容性の質問一覧

- 「センシュアス・シティ」に関する設問の回答形式は、「しょっちゅうあった」、「頻繁ではないが数回あった」、「1~2回あった」、「ほぼなかった」の4件法です。
- 「寛容性」に関する6つの設問の回答形式は、「強くそう思う」、「ある程度そう思う」、「どちらとも言えない」、「どちらかというとそう思わない」、「全くそう思わない」の5件法です。

センシュアス・シティ

センシュアス・シティ		寛容性	
共同体に帰属している	お寺や神社などにお参りをした	自然を感じる	木陰で心地よい風を感じた
	地域のボランティアやチャリティに参加した		公園や水辺で緑や水に直接ふれた
	馴染みの飲食店で店主や常連客と盛り上がった		美しい青空や朝焼け・夕焼けを見た
	買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ		空気が美味しいで深呼吸した
機会がある	刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した	歩ける	通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた
	ためになるイベント・セミナー・市民講座に参加した		外で思い切り身体を動かして汗をかいた
	コンサート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した		家族と手を繋いで歩いた
	友人・知人のネットワークで仕事を紹介された・紹介した		遠回り、寄り道していくつも歩かない道を歩いた
食文化が豊か	庶民的な飲食店で美味しい料理や酒を楽しんだ	寛容性がある	私の暮らしている地域では、結婚して子どもを持つことこそが女性の幸福だと考える人が多い
	地元でとれる食材を使った料理を食べた		私の暮らしている地域では、血縁者、親戚関係には何かと気を使わなければいけない
	地酒・地ビールなど地元で作られる酒を飲んだ		私の暮らしている地域では、若者は年長者の言うことに逆らえない空気がある
	ガイドブックや口コミサイトの評価の高い飲食店で食事した		私の暮らしている地域は、LGBTQ（性的マイノリティ）には生きづらい地域だ
街を感じる	街の風景をゆっくり眺めた		私の暮らしている地域では、他人の噂話が好きな人が多い
	公園や路上で演奏やパフォーマンスしている人を見た		私の暮らしている地域では、長く積み上げてきたやり方やルールを変えるのに抵抗を感じる人が多い
	活気ある街の喧騒を心地よく感じた		
	商店街や飲食店から美味しい匂いが漂ってきた		

追加補足設問一覧

- 「社会貢献」、「多世代共創」、「デジタル生活」、「介護・福祉」、「事故・犯罪」に関する設問の回答形式は、「しょっちゅうあった」、「頻繁ではないが数回あった」、「1～2回あった」、「ほぼなかった」の4件法です。
- 「満足度」、「移動交通」、「自然景観」、「都市景観」に関する設問の回答形式は、「強くそう思う」、「ある程度そう思う」、「どちらとも言えない」、「どちらかというとそう思わない」、「全くそう思わない」の5件法です。

社会貢献	社会貢献のために寄付をした	満足度	私は、住んでいる地域の暮らしに満足している
多世代共創	世代が異なる人と交流した	移動・交通	私は、好きな時に好きな場所に移動できる
デジタル生活	テレワークで、自宅で働いた	自然景観	私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある
	オンライン飲み会を行った	都市景観	私の暮らしている地域には、自慢できる都市景観がある
	デジタルで諸手続き（行政手続き、引っ越し、確定申告、各種契約）を行った		
	オンラインで日用品（食料品、薬、洋服、靴等）の買い物を行った		
介護・福祉	私の住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい		
事故・犯罪	あおり運転、割り込み運転、幅寄せ等、危険な運転を見かけた		

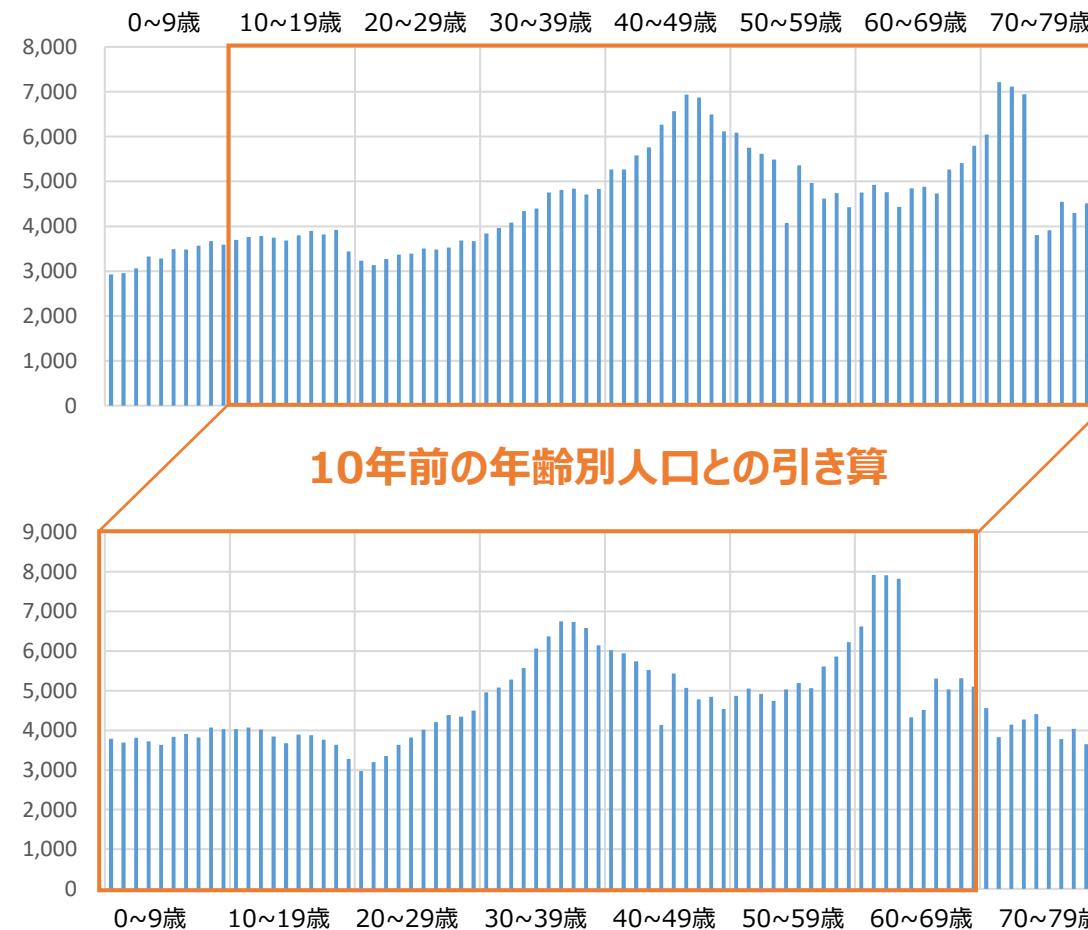
比較対象自治体の導出方法

33ページを参照

世代別人口増減率“人口コホート”

- 10年前の年齢別人口との差分を計算することで、進学や就職、子育て等ライフイベントをきっかけとした転入出の傾向を可視化。各自治体がどのようなライフステージの世帯に選ばれやすいかを知ることができます。

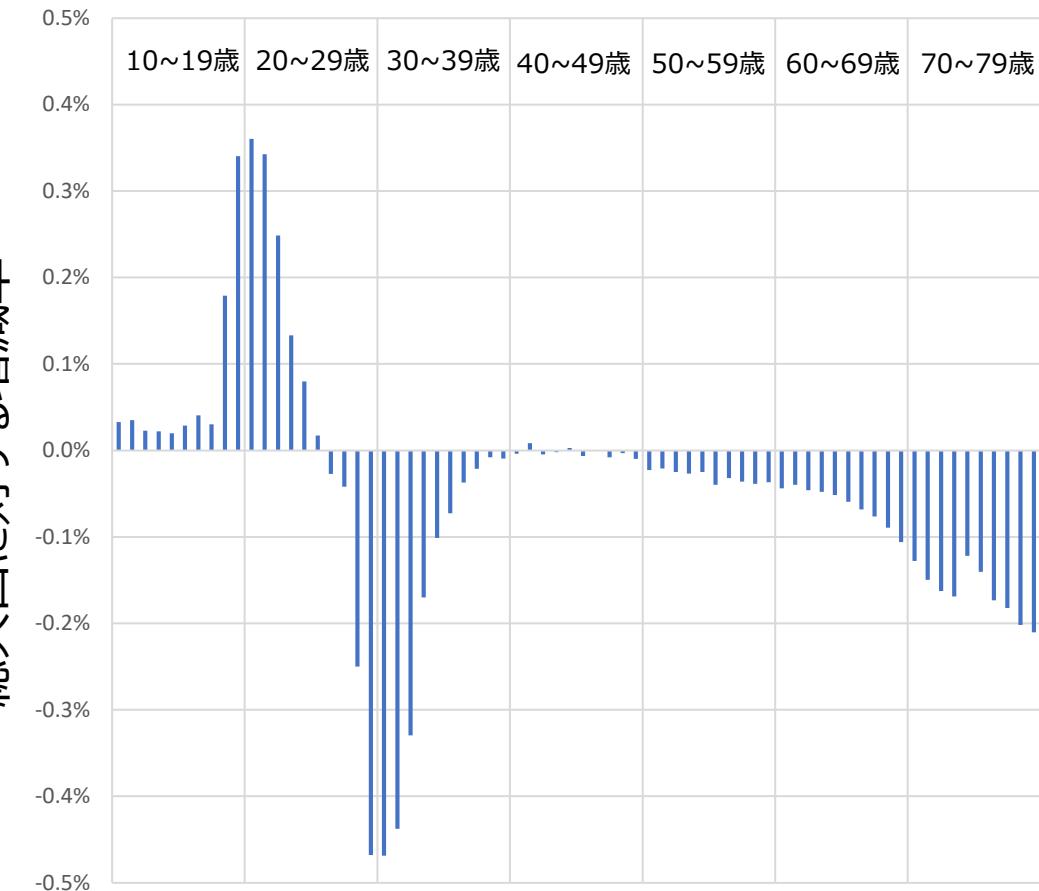
2020年の年齢別人口



2010年の年齢別人口



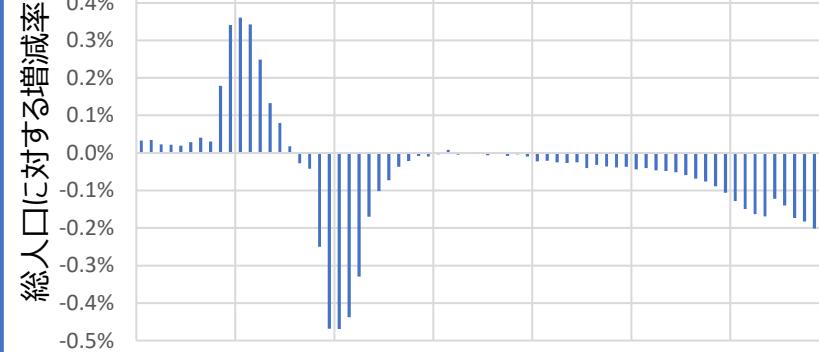
総人口に対する増減率



人口5万人以上の都市を人口コホートに基づいて6つにグルーピングした結果

A型(学生の集まるまち)

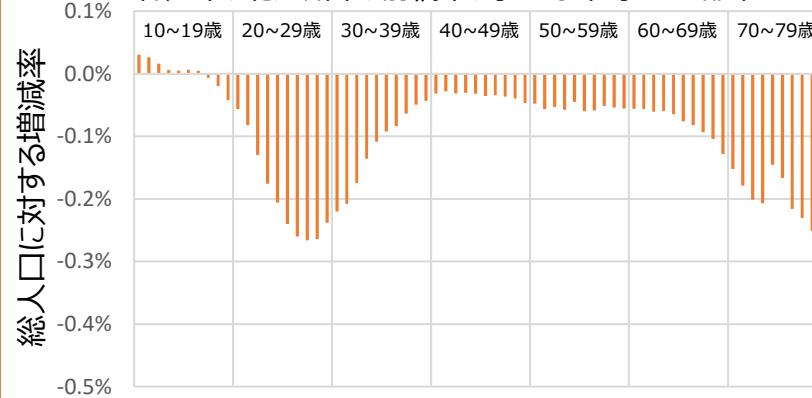
札幌市、岡山市、京都市、東広島市、つくば市等 54都市



大学等修学期(18~25歳)で増加。就職を機に転出する傾向があり、社会人初期(20代後半~30代)で減少。

B型(成熟したまち)

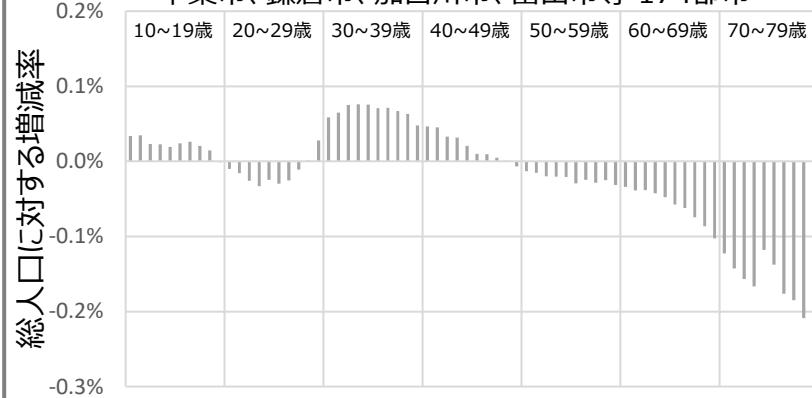
神戸市、北九州市、前橋市、小田原市等 117都市



ほとんどの年代で人口が減少。特に、20代~30代の減少が顕著。

C型(子育て世帯の集まるまち)

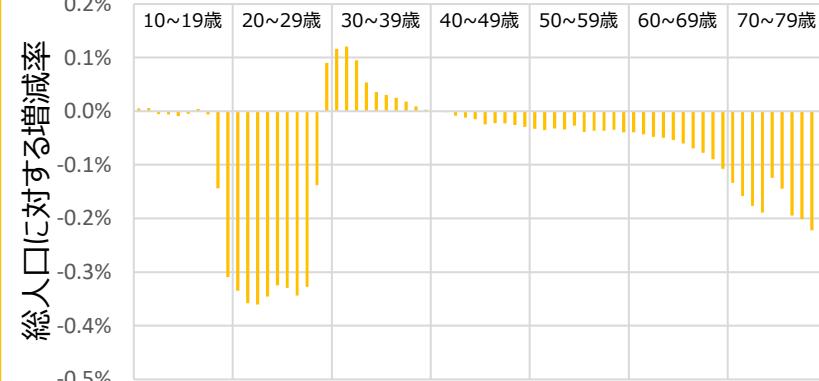
千葉市、鎌倉市、加古川市、富山市等 174都市



子育て世代(30~40代)が増加し、子どもも増加。子育てをきっかけに転入してくる世帯が多い可能性。

D型(巣立ちのまち)

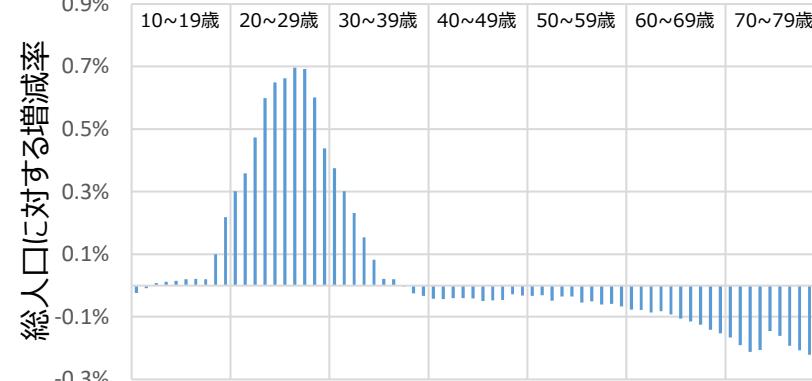
会津若松市、気仙沼市、藤枝市、尾道市等 138都市



子育て世代の30代前後は増加。大学等進学や就職を機に転出する傾向にあり、18歳~28歳で減少傾向。

E型(働くまち)

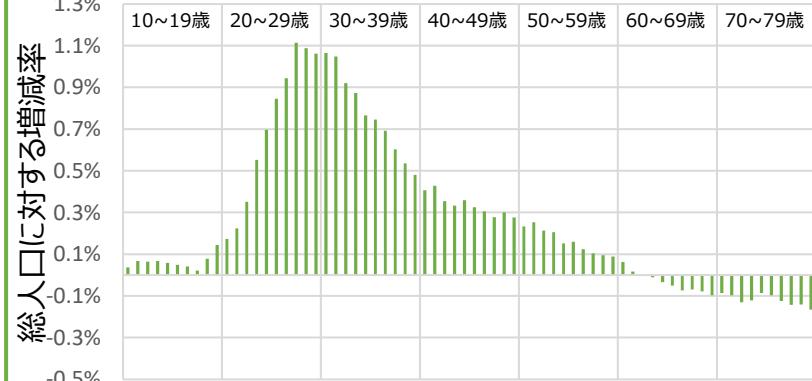
福岡市、大阪市、新宿区、渋谷区等 38都市



大学等進学や就職を機に転入してくる市民が多く、18歳~30代半ばまで大きく増加。

F型(多くの世代の集まるまち)

千代田区、中央区、港区、台東区 4都市



多くの年代で大きく上昇。特に20代半ば~30代の増加が顕著。40代~50代の人口も増加していることも特徴。

【参考】人口コホートグループリスト(A型)

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
北海道	札幌市	A	AI	AI-1
埼玉県	鶴ヶ島市	A	AI	AI-1
千葉県	野田市	A	AI	AI-1
東京都	町田市	A	AI	AI-1
東京都	東村山市	A	AI	AI-1
神奈川県	相模原市	A	AI	AI-1
神奈川県	横須賀市	A	AI	AI-1
神奈川県	平塚市	A	AI	AI-1
神奈川県	厚木市	A	AI	AI-1
石川県	金沢市	A	AI	AI-1
山梨県	甲府市	A	AI	AI-1
大阪府	泉佐野市	A	AI	AI-1
大阪府	東大阪市	A	AI	AI-1
岡山県	岡山市	A	AI	AI-1
福岡県	飯塚市	A	AI	AI-1
北海道	千歳市	A	AI	AI-2
宮城県	仙台市	A	AI	AI-2
茨城県	つくば市	A	AI	AI-2

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
千葉県	習志野市	A	AI	AI-2
東京都	府中市	A	AI	AI-2
東京都	小平市	A	AI	AI-2
東京都	日野市	A	AI	AI-2
東京都	国立市	A	AI	AI-2
東京都	多摩市	A	AI	AI-2
東京都	西東京市	A	AI	AI-2
京都府	京都市	A	AI	AI-2
大阪府	池田市	A	AI	AI-2
東京都	福生市	A	AI	AI-3
神奈川県	伊勢原市	A	AI	AI-3
愛知県	豊田市	A	AI	AI-3
北海道	室蘭市	A	AII	AII-1
山形県	米沢市	A	AII	AII-1
茨城県	龍ヶ崎市	A	AII	AII-1
栃木県	大田原市	A	AII	AII-1
千葉県	東金市	A	AII	AII-1
神奈川県	秦野市	A	AII	AII-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
大阪府	柏原市	A	AII	AII-1
大分県	別府市	A	AII	AII-1
奈良県	天理市	A	AII	AII-2
北海道	江別市	A	AIII	AIII-1
京都府	京田辺市	A	AIII	AIII-2
北海道	恵庭市	A	AV	AV-1
青森県	弘前市	A	AV	AV-1
岩手県	滝沢市	A	AV	AV-1
埼玉県	飯能市	A	AV	AV-1
埼玉県	東松山市	A	AV	AV-1
埼玉県	坂戸市	A	AV	AV-1
山口県	山口市	A	AV	AV-1
愛知県	長久手市	A	AV	AV-2
大阪府	箕面市	A	AV	AV-2
東京都	八王子市	A	AV	AV-1
石川県	野々市市	A	AV	AV-1
滋賀県	草津市	A	AV	AV-1
広島県	東広島市	A	AV	AV-1

(*) 人口5万人以上の基礎自治体が対象

【参考】人口コホートグループリスト(B型)①

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
北海道	函館市	B	BI	BI-1
北海道	釧路市	B	BI	BI-1
北海道	北見市	B	BI	BI-1
秋田県	秋田市	B	BI	BI-1
茨城県	日立市	B	BI	BI-1
茨城県	石岡市	B	BI	BI-1
茨城県	常総市	B	BI	BI-1
茨城県	取手市	B	BI	BI-1
茨城県	坂東市	B	BI	BI-1
群馬県	藤岡市	B	BI	BI-1
埼玉県	行田市	B	BI	BI-1
埼玉県	羽生市	B	BI	BI-1
埼玉県	北本市	B	BI	BI-1
埼玉県	幸手市	B	BI	BI-1
埼玉県	日高市	B	BI	BI-1
千葉県	茂原市	B	BI	BI-1
東京都	あきる野市	B	BI	BI-1
岐阜県	土岐市	B	BI	BI-1
愛知県	津島市	B	BI	BI-1
愛知県	江南市	B	BI	BI-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
愛知県	田原市	B	BI	BI-1
三重県	鈴鹿市	B	BI	BI-1
三重県	伊賀市	B	BI	BI-1
滋賀県	甲賀市	B	BI	BI-1
京都府	城陽市	B	BI	BI-1
大阪府	岸和田市	B	BI	BI-1
大阪府	貝塚市	B	BI	BI-1
大阪府	枚方市	B	BI	BI-1
大阪府	松原市	B	BI	BI-1
大阪府	羽曳野市	B	BI	BI-1
大阪府	泉南市	B	BI	BI-1
兵庫県	高砂市	B	BI	BI-1
奈良県	大和郡山市	B	BI	BI-1
奈良県	桜井市	B	BI	BI-1
岡山県	玉野市	B	BI	BI-1
広島県	呉市	B	BI	BI-1
山口県	下関市	B	BI	BI-1
徳島県	鳴門市	B	BI	BI-1
佐賀県	佐賀市	B	BI	BI-1
長崎県	長崎市	B	BI	BI-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
鹿児島県	鹿児島市	B	BI	BI-1
岩手県	盛岡市	B	BI	BI-2
栃木県	下野市	B	BI	BI-2
埼玉県	熊谷市	B	BI	BI-2
埼玉県	加須市	B	BI	BI-2
埼玉県	狭山市	B	BI	BI-2
埼玉県	鴻巣市	B	BI	BI-2
埼玉県	入間市	B	BI	BI-2
埼玉県	久喜市	B	BI	BI-2
千葉県	佐倉市	B	BI	BI-2
千葉県	市原市	B	BI	BI-2
東京都	青梅市	B	BI	BI-2
東京都	羽村市	B	BI	BI-2
神奈川県	小田原市	B	BI	BI-2
岐阜県	岐阜市	B	BI	BI-2
愛知県	瀬戸市	B	BI	BI-2
滋賀県	湖南市	B	BI	BI-2
京都府	宇治市	B	BI	BI-2
京都府	八幡市	B	BI	BI-2
大阪府	寝屋川市	B	BI	BI-2

(*) 人口5万人以上の基礎自治体が対象

【参考】人口コホートグループリスト(B型)②

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
大阪府	藤井寺市	B	BI	BI-2
大阪府	大阪狭山市	B	BI	BI-2
兵庫県	神戸市	B	BI	BI-2
奈良県	奈良市	B	BI	BI-2
鳥取県	鳥取市	B	BI	BI-2
山口県	宇部市	B	BI	BI-2
愛媛県	松山市	B	BI	BI-2
福岡県	北九州市	B	BI	BI-2
福岡県	久留米市	B	BI	BI-2
群馬県	前橋市	B	BI	BI-3
埼玉県	上尾市	B	BI	BI-3
愛知県	日進市	B	BI	BI-3
大阪府	高石市	B	BI	BI-3
奈良県	橿原市	B	BI	BI-3
島根県	浜田市	B	BI	BI-3
岡山県	倉敷市	B	BI	BI-3
埼玉県	川越市	B	BI	BI-4
埼玉県	所沢市	B	BI	BI-4
埼玉県	春日部市	B	BI	BI-4
千葉県	君津市	B	BI	BI-4

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
大阪府	大東市	B	BI	BI-4
大阪府	門真市	B	BI	BI-4
徳島県	徳島市	B	BI	BI-4
北海道	小樽市	B	BII	BII-1
北海道	岩見沢市	B	BII	BII-1
群馬県	桐生市	B	BII	BII-1
千葉県	銚子市	B	BII	BII-1
千葉県	八街市	B	BII	BII-1
岐阜県	関市	B	BII	BII-1
京都府	亀岡市	B	BII	BII-1
大阪府	富田林市	B	BII	BII-1
大阪府	河内長野市	B	BII	BII-1
大阪府	阪南市	B	BII	BII-1
奈良県	大和高田市	B	BII	BII-1
福岡県	柳川市	B	BII	BII-1
北海道	北広島市	B	BII	BII-2
兵庫県	三田市	B	BII	BII-2
北海道	石狩市	B	BIII	BIII-1
青森県	十和田市	B	BIII	BIII-1
宮城県	塩竈市	B	BIII	BIII-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
岐阜県	多治見市	B	BIII	BIII-1
愛知県	愛西市	B	BIII	BIII-1
三重県	名張市	B	BIII	BIII-1
大阪府	交野市	B	BIII	BIII-1
兵庫県	三木市	B	BIII	BIII-1
兵庫県	たつの市	B	BIII	BIII-1
和歌山県	橋本市	B	BIII	BIII-1
和歌山県	紀の川市	B	BIII	BIII-1
福岡県	大牟田市	B	BIII	BIII-1
福岡県	朝倉市	B	BIII	BIII-1
熊本県	玉名市	B	BIII	BIII-1
千葉県	白井市	B	BIII	BIII-2
神奈川県	逗子市	B	BIII	BIII-2
奈良県	生駒市	B	BIII	BIII-2
福岡県	小郡市	B	BIII	BIII-2
福岡県	春日市	B	BIII	BIII-2
福岡県	糸島市	B	BIII	BIII-2

(*) 人口5万人以上の基礎自治体が対象

【参考】人口コホートグループリスト(C型)①

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
北海道	旭川市	C	CI	CI-1
北海道	苫小牧市	C	CI	CI-1
福島県	郡山市	C	CI	CI-1
茨城県	水戸市	C	CI	CI-1
茨城県	結城市	C	CI	CI-1
茨城県	鹿嶋市	C	CI	CI-1
栃木県	足利市	C	CI	CI-1
栃木県	栃木市	C	CI	CI-1
群馬県	高崎市	C	CI	CI-1
群馬県	館林市	C	CI	CI-1
埼玉県	白岡市	C	CI	CI-1
新潟県	長岡市	C	CI	CI-1
富山県	射水市	C	CI	CI-1
福井県	福井市	C	CI	CI-1
長野県	上田市	C	CI	CI-1
長野県	茅野市	C	CI	CI-1
岐阜県	美濃加茂市	C	CI	CI-1
岐阜県	各務原市	C	CI	CI-1
静岡県	焼津市	C	CI	CI-1
愛知県	豊橋市	C	CI	CI-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
愛知県	一宮市	C	CI	CI-1
愛知県	知多市	C	CI	CI-1
三重県	松阪市	C	CI	CI-1
三重県	桑名市	C	CI	CI-1
滋賀県	近江八幡市	C	CI	CI-1
滋賀県	東近江市	C	CI	CI-1
兵庫県	姫路市	C	CI	CI-1
兵庫県	加古川市	C	CI	CI-1
奈良県	香芝市	C	CI	CI-1
和歌山県	和歌山市	C	CI	CI-1
和歌山県	岩出市	C	CI	CI-1
広島県	廿日市市	C	CI	CI-1
山口県	防府市	C	CI	CI-1
福岡県	直方市	C	CI	CI-1
大分県	大分市	C	CI	CI-1
沖縄県	那霸市	C	CI	CI-1
沖縄県	うるま市	C	CI	CI-1
山形県	山形市	C	CI	CI-2
福島県	福島市	C	CI	CI-2
茨城県	古河市	C	CI	CI-2

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
茨城県	牛久市	C	CI	CI-2
埼玉県	本庄市	C	CI	CI-2
埼玉県	深谷市	C	CI	CI-2
埼玉県	桶川市	C	CI	CI-2
千葉県	我孫子市	C	CI	CI-2
東京都	東久留米市	C	CI	CI-2
東京都	武蔵村山市	C	CI	CI-2
新潟県	新潟市	C	CI	CI-2
長野県	松本市	C	CI	CI-2
岐阜県	大垣市	C	CI	CI-2
岐阜県	羽島市	C	CI	CI-2
静岡県	三島市	C	CI	CI-2
愛知県	蒲郡市	C	CI	CI-2
愛知県	犬山市	C	CI	CI-2
愛知県	稻沢市	C	CI	CI-2
三重県	津市	C	CI	CI-2
滋賀県	大津市	C	CI	CI-2
滋賀県	彦根市	C	CI	CI-2
大阪府	八尾市	C	CI	CI-2
大阪府	和泉市	C	CI	CI-2

(*) 人口5万人以上の基礎自治体が対象

【参考】人口コホートグループリスト(C型)②

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
大阪府	四條畷市	C	CI	CI-2
兵庫県	西宮市	C	CI	CI-2
兵庫県	芦屋市	C	CI	CI-2
兵庫県	宝塚市	C	CI	CI-2
兵庫県	川西市	C	CI	CI-2
島根県	松江市	C	CI	CI-2
福岡県	筑紫野市	C	CI	CI-2
福岡県	宗像市	C	CI	CI-2
福岡県	太宰府市	C	CI	CI-2
福岡県	古賀市	C	CI	CI-2
熊本県	熊本市	C	CI	CI-2
沖縄県	名護市	C	CI	CI-2
北海道	帯広市	C	CII	CII-1
栃木県	宇都宮市	C	CII	CII-1
群馬県	伊勢崎市	C	CII	CII-1
群馬県	太田市	C	CII	CII-1
静岡県	浜松市	C	CII	CII-1
静岡県	磐田市	C	CII	CII-1
静岡県	湖西市	C	CII	CII-1
愛知県	岡崎市	C	CII	CII-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
愛知県	豊川市	C	CII	CII-1
愛知県	あま市	C	CII	CII-1
三重県	四日市市	C	CII	CII-1
広島県	福山市	C	CII	CII-1
宮城県	多賀城市	C	CII	CII-2
静岡県	御殿場市	C	CII	CII-2
静岡県	裾野市	C	CII	CII-2
愛知県	清須市	C	CII	CII-2
愛知県	みよし市	C	CII	CII-2
大阪府	泉大津市	C	CII	CII-2
兵庫県	尼崎市	C	CII	CII-2
茨城県	土浦市	C	CII	CII-3
栃木県	小山市	C	CII	CII-3
埼玉県	蓮田市	C	CII	CII-3
千葉県	柏市	C	CII	CII-3
千葉県	鎌ヶ谷市	C	CII	CII-3
東京都	昭島市	C	CII	CII-3
東京都	東大和市	C	CII	CII-3
神奈川県	横浜市	C	CII	CII-3
神奈川県	座間市	C	CII	CII-3

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
神奈川県	綾瀬市	C	CII	CII-3
富山県	富山市	C	CII	CII-3
岐阜県	可児市	C	CII	CII-3
静岡県	静岡市	C	CII	CII-3
愛知県	半田市	C	CII	CII-3
愛知県	春日井市	C	CII	CII-3
愛知県	碧南市	C	CII	CII-3
愛知県	西尾市	C	CII	CII-3
愛知県	小牧市	C	CII	CII-3
愛知県	豊明市	C	CII	CII-3
滋賀県	野洲市	C	CII	CII-3
大阪府	堺市	C	CII	CII-3
大阪府	高槻市	C	CII	CII-3
大阪府	守口市	C	CII	CII-3
大阪府	茨木市	C	CII	CII-3
兵庫県	伊丹市	C	CII	CII-3
広島県	広島市	C	CII	CII-3
沖縄県	宜野湾市	C	CII	CII-3
宮城県	名取市	C	CIII	CIII-1
宮城県	富谷市	C	CIII	CIII-1

(*) 人口5万人以上の基礎自治体が対象

【参考】人口コホートグループリスト(C型)③

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
千葉県	印西市	C	CIII	CIII-1
京都府	木津川市	C	CIII	CIII-1
熊本県	合志市	C	CIII	CIII-1
千葉県	流山市	C	CIII	CIII-2
福岡県	福津市	C	CIII	CIII-2
茨城県	守谷市	C	CIV	CIV-1
埼玉県	三郷市	C	CIV	CIV-1
埼玉県	吉川市	C	CIV	CIV-1
千葉県	木更津市	C	CIV	CIV-1
千葉県	四街道市	C	CIV	CIV-1
千葉県	袖ヶ浦市	C	CIV	CIV-1
神奈川県	鎌倉市	C	CIV	CIV-1
神奈川県	茅ヶ崎市	C	CIV	CIV-1
愛知県	尾張旭市	C	CIV	CIV-1
滋賀県	守山市	C	CIV	CIV-1
京都府	向日市	C	CIV	CIV-1
京都府	長岡京市	C	CIV	CIV-1
大阪府	豊中市	C	CIV	CIV-1
兵庫県	明石市	C	CIV	CIV-1
福岡県	大野城市	C	CIV	CIV-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
佐賀県	鳥栖市	C	CIV	CIV-1
埼玉県	さいたま市	C	CIV	CIV-2
埼玉県	越谷市	C	CIV	CIV-2
埼玉県	志木市	C	CIV	CIV-2
埼玉県	新座市	C	CIV	CIV-2
埼玉県	ふじみ野市	C	CIV	CIV-2
千葉県	千葉市	C	CIV	CIV-2
東京都	清瀬市	C	CIV	CIV-2
東京都	稻城市	C	CIV	CIV-2
神奈川県	藤沢市	C	CIV	CIV-2
愛知県	常滑市	C	CIV	CIV-2
大阪府	吹田市	C	CIV	CIV-2
岡山県	総社市	C	CIV	CIV-2
茨城県	神栖市	C	CV	CV-1
長野県	塩尻市	C	CV	CV-1
静岡県	袋井市	C	CV	CV-1
滋賀県	栗東市	C	CV	CV-1
山口県	下松市	C	CV	CV-1
埼玉県	川口市	C	CVI	CVI-1
埼玉県	草加市	C	CVI	CVI-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
埼玉県	富士見市	C	CVI	CVI-1
千葉県	船橋市	C	CVI	CVI-1
千葉県	松戸市	C	CVI	CVI-1
千葉県	八千代市	C	CVI	CVI-1
東京都	葛飾区	C	CVI	CVI-1
神奈川県	大和市	C	CVI	CVI-1
神奈川県	海老名市	C	CVI	CVI-1
岐阜県	瑞穂市	C	CVI	CVI-1
愛知県	名古屋市	C	CVI	CVI-1
愛知県	安城市	C	CVI	CVI-1
愛知県	東海市	C	CVI	CVI-1
愛知県	大府市	C	CVI	CVI-1
愛知県	北名古屋市	C	CVI	CVI-1
大阪府	摂津市	C	CVI	CVI-1

(*) 人口5万人以上の基礎自治体が対象

【参考】人口コホートグループリスト(D型)①

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
青森県	青森市	D	DI	DI-1
岩手県	花巻市	D	DI	DI-1
宮城県	石巻市	D	DI	DI-1
宮城県	栗原市	D	DI	DI-1
秋田県	由利本荘市	D	DI	DI-1
福島県	二本松市	D	DI	DI-1
福島県	伊達市	D	DI	DI-1
茨城県	笠間市	D	DI	DI-1
栃木県	日光市	D	DI	DI-1
群馬県	渋川市	D	DI	DI-1
群馬県	安中市	D	DI	DI-1
埼玉県	秩父市	D	DI	DI-1
千葉県	香取市	D	DI	DI-1
新潟県	村上市	D	DI	DI-1
新潟県	南魚沼市	D	DI	DI-1
石川県	七尾市	D	DI	DI-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
滋賀県	長浜市	D	DI	DI-1
京都府	舞鶴市	D	DI	DI-1
福岡県	八女市	D	DI	DI-1
熊本県	宇城市	D	DI	DI-1
宮崎県	延岡市	D	DI	DI-1
宮崎県	日南市	D	DI	DI-1
鹿児島県	霧島市	D	DI	DI-1
宮城県	登米市	D	DI	DI-2
福島県	会津若松市	D	DI	DI-2
福島県	須賀川市	D	DI	DI-2
茨城県	筑西市	D	DI	DI-2
栃木県	鹿沼市	D	DI	DI-2
新潟県	三条市	D	DI	DI-2
新潟県	新発田市	D	DI	DI-2
福井県	坂井市	D	DI	DI-2
山梨県	南アルプス市	D	DI	DI-2

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
山梨県	笛吹市	D	DI	DI-2
長野県	長野市	D	DI	DI-2
三重県	伊勢市	D	DI	DI-2
岡山県	津山市	D	DI	DI-2
広島県	三原市	D	DI	DI-2
広島県	尾道市	D	DI	DI-2
山口県	山陽小野田市	D	DI	DI-2
香川県	三豊市	D	DI	DI-2
高知県	高知市	D	DI	DI-2
福岡県	那珂川市	D	DI	DI-2
長崎県	佐世保市	D	DI	DI-2
熊本県	八代市	D	DI	DI-2
熊本県	荒尾市	D	DI	DI-2
宮崎県	宮崎市	D	DI	DI-2
宮崎県	都城市	D	DI	DI-2
鹿児島県	薩摩川内市	D	DI	DI-2

(*) 人口5万人以上の基礎自治体が対象

【参考】人口コホートグループリスト(D型)②

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
青森県	八戸市	D	DII	DII-1
岩手県	一関市	D	DII	DII-1
岩手県	奥州市	D	DII	DII-1
秋田県	大館市	D	DII	DII-1
秋田県	大仙市	D	DII	DII-1
山形県	鶴岡市	D	DII	DII-1
山形県	酒田市	D	DII	DII-1
岐阜県	高山市	D	DII	DII-1
兵庫県	丹波市	D	DII	DII-1
徳島県	阿南市	D	DII	DII-1
佐賀県	唐津市	D	DII	DII-1
佐賀県	伊万里市	D	DII	DII-1
長崎県	諫早市	D	DII	DII-1
大分県	宇佐市	D	DII	DII-1
宮崎県	日向市	D	DII	DII-1
鹿児島県	出水市	D	DII	DII-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
青森県	五所川原市	D	DII	DII-2
青森県	むつ市	D	DII	DII-2
岩手県	宮古市	D	DII	DII-2
宮城県	気仙沼市	D	DII	DII-2
秋田県	横手市	D	DII	DII-2
新潟県	佐渡市	D	DII	DII-2
京都府	京丹後市	D	DII	DII-2
兵庫県	豊岡市	D	DII	DII-2
和歌山県	田辺市	D	DII	DII-2
愛媛県	宇和島市	D	DII	DII-2
熊本県	天草市	D	DII	DII-2
大分県	日田市	D	DII	DII-2
大分県	佐伯市	D	DII	DII-2
岩手県	北上市	D	DIII	DIII-1
宮城県	大崎市	D	DIII	DIII-1
山形県	天童市	D	DIII	DIII-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
茨城県	ひたちなか市	D	DIII	DIII-1
栃木県	佐野市	D	DIII	DIII-1
新潟県	燕市	D	DIII	DIII-1
石川県	小松市	D	DIII	DIII-1
石川県	白山市	D	DIII	DIII-1
福井県	鯖江市	D	DIII	DIII-1
山梨県	甲斐市	D	DIII	DIII-1
岐阜県	中津川市	D	DIII	DIII-1
静岡県	富士宮市	D	DIII	DIII-1
静岡県	島田市	D	DIII	DIII-1
静岡県	富士市	D	DIII	DIII-1
静岡県	掛川市	D	DIII	DIII-1
京都府	福知山市	D	DIII	DIII-1
鳥取県	米子市	D	DIII	DIII-1
島根県	出雲市	D	DIII	DIII-1
広島県	府中町	D	DIII	DIII-1

(*) 人口5万人以上の基礎自治体が対象

【参考】人口コホートグループリスト(D型)③

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
香川県	高松市	D	DIII	DIII-1
香川県	丸亀市	D	DIII	DIII-1
愛媛県	新居浜市	D	DIII	DIII-1
福岡県	行橋市	D	DIII	DIII-1
大分県	中津市	D	DIII	DIII-1
沖縄県	浦添市	D	DIII	DIII-1
沖縄県	糸満市	D	DIII	DIII-1
沖縄県	沖縄市	D	DIII	DIII-1
沖縄県	豊見城市	D	DIII	DIII-1
福島県	いわき市	D	DIII	DIII-2
茨城県	那珂市	D	DIII	DIII-2
長野県	佐久市	D	DIII	DIII-2
長野県	千曲市	D	DIII	DIII-2
長野県	安曇野市	D	DIII	DIII-2
静岡県	伊東市	D	DIII	DIII-2
静岡県	藤枝市	D	DIII	DIII-2

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
長崎県	大村市	D	DIII	DIII-2
鹿児島県	姶良市	D	DIII	DIII-2
沖縄県	宮古島市	D	DIII	DIII-3
福島県	白河市	D	DIV	DIV-1
栃木県	真岡市	D	DIV	DIV-1
栃木県	那須塩原市	D	DIV	DIV-1
千葉県	旭市	D	DIV	DIV-1
新潟県	柏崎市	D	DIV	DIV-1
新潟県	上越市	D	DIV	DIV-1
富山県	高岡市	D	DIV	DIV-1
石川県	加賀市	D	DIV	DIV-1
福井県	敦賀市	D	DIV	DIV-1
福井県	越前市	D	DIV	DIV-1
長野県	飯田市	D	DIV	DIV-1
長野県	伊那市	D	DIV	DIV-1
静岡県	沼津市	D	DIV	DIV-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
広島県	三次市	D	DIV	DIV-1
山口県	岩国市	D	DIV	DIV-1
山口県	周南市	D	DIV	DIV-1
香川県	坂出市	D	DIV	DIV-1
香川県	観音寺市	D	DIV	DIV-1
愛媛県	今治市	D	DIV	DIV-1
愛媛県	西条市	D	DIV	DIV-1
愛媛県	四国中央市	D	DIV	DIV-1
鹿児島県	鹿屋市	D	DIV	DIV-1
福島県	南相馬市	D	DIV	DIV-2

(*) 人口5万人以上の基礎自治体が対象

【参考】人口コホートグループリスト(E型&F型)

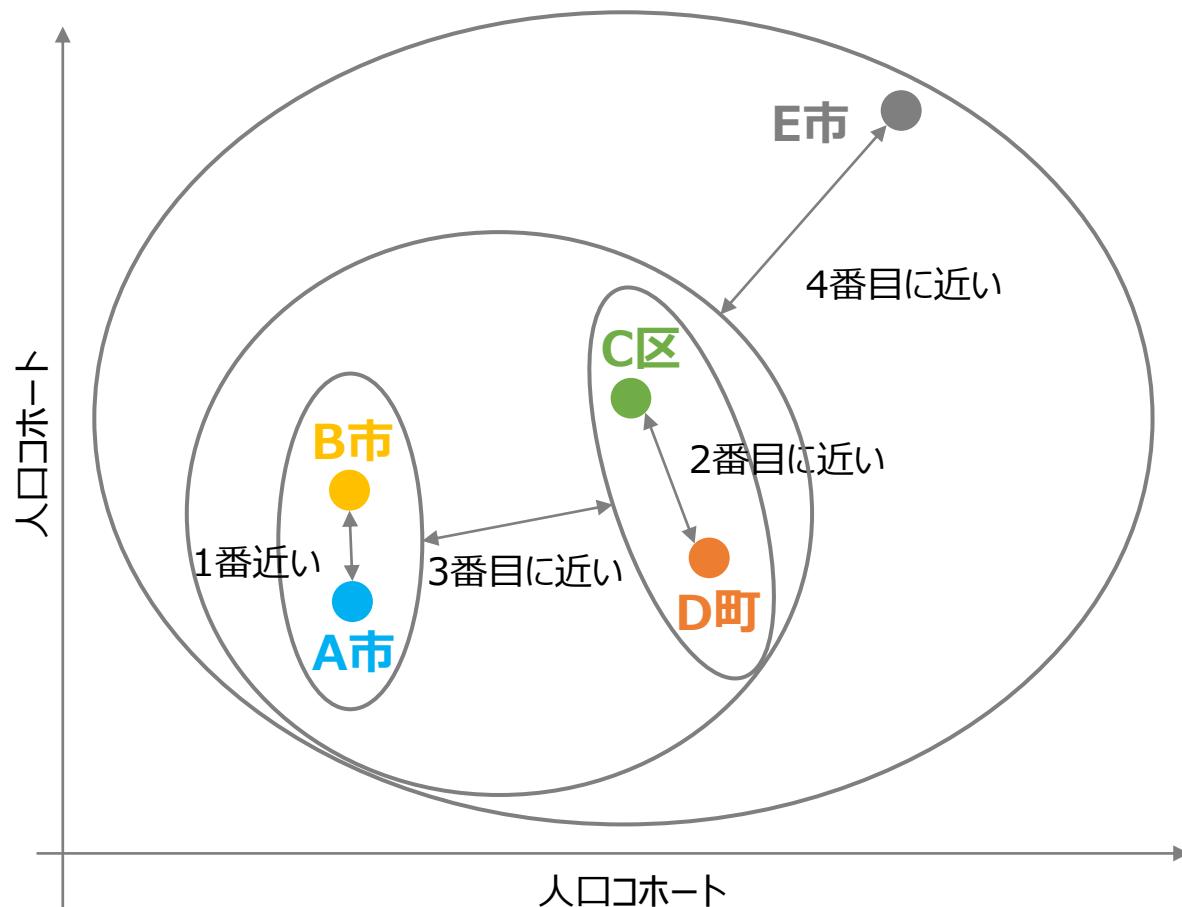
都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
埼玉県	蕨市	E	EI	EI-1
千葉県	市川市	E	EI	EI-1
東京都	文京区	E	EI	EI-1
東京都	大田区	E	EI	EI-1
東京都	世田谷区	E	EI	EI-1
東京都	北区	E	EI	EI-1
東京都	荒川区	E	EI	EI-1
東京都	板橋区	E	EI	EI-1
埼玉県	戸田市	E	EI	EI-2
埼玉県	朝霞市	E	EI	EI-2
埼玉県	八潮市	E	EI	EI-2
東京都	江東区	E	EI	EI-2
東京都	杉並区	E	EI	EI-3
埼玉県	和光市	E	EII	EII-1
千葉県	浦安市	E	EII	EII-1
東京都	練馬区	E	EII	EII-2
東京都	足立区	E	EII	EII-2
東京都	江戸川区	E	EII	EII-2
神奈川県	川崎市	E	EII	EII-2

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
愛知県	刈谷市	E	EII	EII-2
愛知県	知立市	E	EII	EII-2
大阪府	大阪市	E	EII	EII-2
千葉県	成田市	E	EIII	EIII-1
東京都	立川市	E	EIII	EIII-1
東京都	武蔵野市	E	EIII	EIII-1
東京都	三鷹市	E	EIII	EIII-1
東京都	調布市	E	EIII	EIII-1
東京都	小金井市	E	EIII	EIII-1
東京都	国分寺市	E	EIII	EIII-1
東京都	狛江市	E	EIII	EIII-1
福岡県	福岡市	E	EIII	EIII-1
東京都	新宿区	E	EIV	EIV-1
東京都	中野区	E	EIV	EIV-1
東京都	豊島区	E	EIV	EIV-1
東京都	墨田区	E	EV	EV-1
東京都	品川区	E	EV	EV-1
東京都	目黒区	E	EV	EV-1
東京都	渋谷区	E	EV	EV-1

都道府県	市区町村	6グループ	24グループ	48グループ
東京都	千代田区	F	FI	FI-1
東京都	中央区	F	FI	FI-2
東京都	港区	F	FI	FI-2
東京都	台東区	F	FI	FI-2

(*) 人口5万人以上の基礎自治体が対象

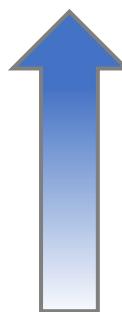
【参考】各都市同士の指標の違いを計算し、近いものから順にグルーピング



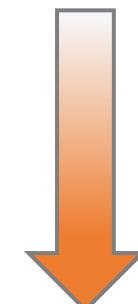
計算・グルーピング方法

- 比較する都市・グループのカテゴリー指標の差(の二乗)を足し合わせる
例：A市とB市の「近さ」(距離)
$$= (\text{医療・健康指標の差})^2 + (\text{介護・福祉指標の差})^2 + \dots + (\text{多様性指標の差})^2$$
- 最も近い都市・グループを合流させ、一つの新しいグループとする
- 上記1.~2.を、全体が1つのグループになるまで繰り返す

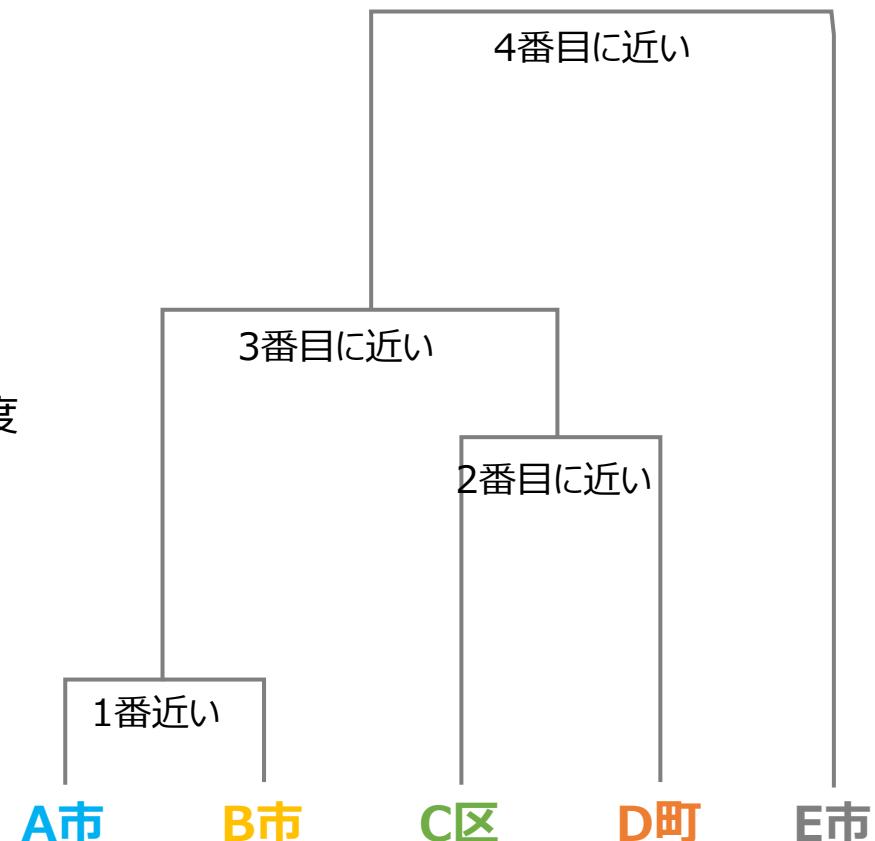
互いに大きく異なる



パターンの相違度



互いに似ている



問合せ先

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート
事務局（LWC指標担当）
sci-japan_lwci@murc.jp